登録有形文化財（建造物）

福成歯科医院（旧古賀銀行神埼支店）復原工事報告書

佐賀県神埼市

口絵１　当時の外観（舟木家所蔵）

口絵２　竣工

口絵３　当時の内部写真（佐賀市歴史民俗館所蔵）

口絵４　竣工

口絵５　外観（北西より）

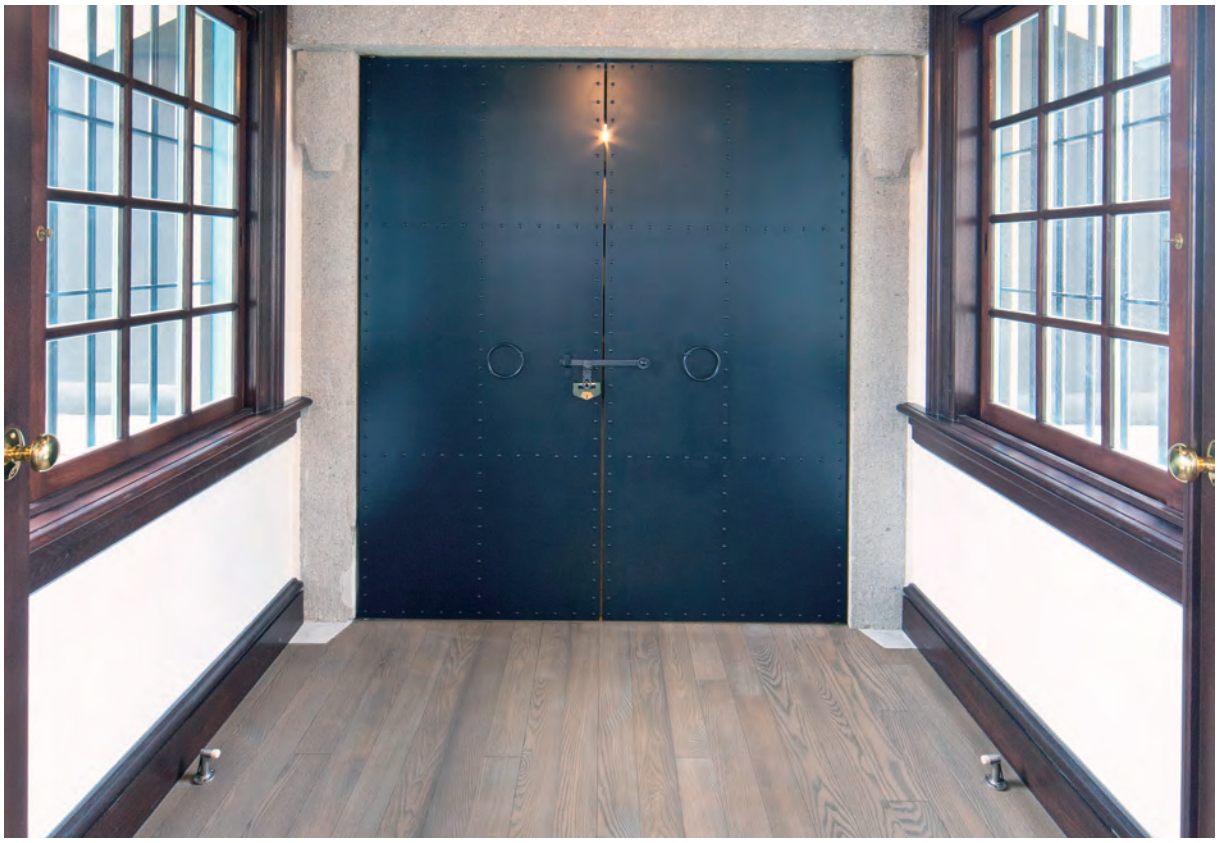
口絵６　外観（南東より）

口絵７　外観（ライトアップ）

口絵８　内部（客溜まりより）

口絵９　内部（南東より）

口絵10　内部（応接室）



口絵11　内部（通路）

口絵12　内部（金庫室）

序　　文

神埼市は、佐賀県東部に位置し、北は脊振山から南は千代田町の平野部まで南北に細長い形をしています。

神埼は、櫛田宮の門前町として栄え、江戸時代には長崎街道の宿場町として、お茶屋や脇本陣が置かれ、交通・経済・文化の拠点として栄えていました。大正時代には古賀銀行や大石銀行が開業し、多くの商店が軒を連ねる商店街として賑わっていました。

古賀銀行神埼支店は、大正３年に建てられた後、助産院や歯科医院として使用されていました。その後空き家となっていたものを、神埼市観光協会の寄付を受け、神埼市が購入しました。建物は老朽化のため公開できない状況であったことから、復原工事を行いました。

この報告書は、平成24年度から平成28年度までに神埼市教育委員会が行いました古賀銀行当時の痕跡調査、耐震診断、耐震補強、復原工事の記録と史料をまとめたものです。

本書が、今後の文化財保護行政の資料として皆様に活用して頂きますことを願っております。

最後に、本事業にあたりご指導・ご協力をいただきました文化庁、佐賀県教育委員会、調査の指導をいただきました先生方、工事関係者、関係各位の皆様に対しまして、深くお礼を申し上げます。

平成30年３月

神埼市教育委員会
教育長　田代高規

例　　言

1．この報告書は、登録有形文化財建造物「福成歯科医院（旧古賀銀行神埼支店）」活用地域活性化事業に伴う復原工事の報告書である。

2．編集にあたっては、事業内容、修理方針の検討、現状変更、修理工事の内容をまとめた。

3．図面は、修理前図並びに竣工図の中から主要なものを掲載した。

4．写真については、修理前、竣工並びに工事中に撮影した記録や資料写真の中から主要なものを掲載した。

5．図面、挿図の表示寸法はメートル法及び尺貫法によって記し、１メートルを3.30尺として換算した。

6．本書の作成に関する担当は次の通りである。

編集・著作	神埼市教育委員会
本文執筆・編集	谷　洋一郎
執筆協力	㈱文化財構造計画　代表取締役　冨永　善啓、 構造室長　渡邉　智子（第２章）
図面作成	福島安信建築設計工房、㈱文化財構造計画
写真撮影	牟田・馬場特定建設共同企業体、福島安信建築設計工房、 神埼市教育委員会

登録有形文化財（建造物）
福成歯科医院（旧古賀銀行神埼支店）復原工事報告書

目　　次

本　文

第１章　事業内容
　第１節　事業概要 …… 1
　第２節　建造物の概要
　（１）文化財の指定 …… 1
　（２）位置と環境 …… 2
　（３）建造物の所在地 …… 2
　（４）建造物の沿革 …… 2
　（５）建立後の改築部分について
　　…… 5
　（６）構造形式 …… 6
　（７）主要寸法 …… 7
　第３節　事業の運営
　（１）工事の組織 …… 7
　（２）工事関係者 …… 7

第２章　修理方針の検討
　第１節　修理前の破損状況 …… 9
　第２節　耐震診断と補強計画
　（１）地盤調査 …… 9
　（２）耐震診断 …… 10
　（３）耐震補強案の策定 …… 11

第３章　現状変更
　第１節　現状変更の理由 …… 13
　第２節　現状変更の内容 …… 13

第４章　修理工事
　第１節　工事内容 …… 14
　第２節　工事実施仕様
　（１）仮設工事 …… 14
　（２）基礎工事 …… 14
　（３）耐震補強工事 …… 14
　（４）木工事 …… 14
　（５）石工事 …… 15
　（６）屋根工事 …… 15
　（７）左官工事 …… 15
　（８）塗装工事 …… 15
　（９）建具工事 …… 15
　（10）外壁工事 …… 16
　（11）内壁工事 …… 16
　（12）雑工事 …… 16
　（13）金庫室 …… 16
　（14）渡り廊下 …… 16
　（15）外構工事 …… 16

図　版

設計書 …… 17～29
写　真 …… 30～51
図　面 …… 52～75

第１章　事業内容

第１節　事業概要

①　修理方針

復原工事（耐震工事・防災設備・便益設備等の整備を含む）

②　総事業費

130,280,465円。その内53,371,000円は国と県から補助を受け、残りの76,909,465円を神埼市が負担した。

③　期間・内容

事業は、登録有形文化財建造物（以下建物という）「福成歯科医院（旧古賀銀行神埼支店）」活用地域活性化事業として、平成24年度に着手し、平成28年度に完了した。

平成24年度は、古賀銀行神埼支店当時の痕跡調査及び構造補強に係る予備調査を実施した。平成25年度は、構造補強に関する耐震診断や地盤調査及び復原設計に必要な現地調査を実施した。平成26年度は、平成25年度までの調査結果を元に構造補強案策定と実施設計を行った。また、保存活用計画を作成し、文化庁へ提出した。平成27年度に発注と業者選定を行った。登録有形文化財（建造物）に係る現状変更の受理（平成27年６月）を受け、平成27年11月に工事に着手した。この間、設計変更を行い、平成28年10月に工事が完了した。

第２節　建造物の概要

（１）文化財の指定

１　名称

福成歯科医院（旧古賀銀行神埼支店）

２　員数

１棟

３　所在地

佐賀県神埼市神埼町神埼字3-438

４　構造形式（修理前）

木造２階建、桟瓦葺

５　建築面積

120㎡

６　登録年月日

平成13年10月12日

７　所有者

神埼市

８　説明

建物は、洋風外観の木造建造物で、正面中央に花崗岩円柱に支えられた切妻造りの玄関をとり、左右対称のファサードを持つ。屋根は寄棟造りの桟瓦葺きで、正面中央に半円形のドーマ窓を有し、大棟両端に棟飾りを置く。外壁は、モルタル洗い出し仕上げで、柱頭飾りや窓楣に、要石状の装飾を造り出す。窓は縦長窓であるが、現在引違スチールサッシガラス窓をたてる。軒天井は肘木状の天井縁木口を見せ、鼻隠し板を付ける。

内部は当初、客溜まりを中心にして、その大半が吹き抜けであったが、２階床を設けるなど、改造が大きい。また、建物南側に張り出した金庫室は良好に

残存しており、元銀行建築の名残を留めている。

本建物は、外観こそ洋風であるが、木造かつ伝統的な和小屋で屋根を支えるなど、在来の技術を持って造り上げた建造物であり、大正時代の佐賀地方の技術文化を知る上で重要な建造物であるといえる。

（２）位置と環境

神埼市は、佐賀県東部に位置し、北は脊振山を挟んで福岡県福岡市、南は筑後川を挟んで福岡県久留米市、西は佐賀市、東は神埼郡吉野ヶ里町に接し、北は脊振山から南は千代田町の平野部まで南北に細長い形をしている。脊振山系を源に城原川、田手川、三本松川が流れ、神埼町北部では扇状地が形成され、神埼町南部と千代田町では河川と有明海の干満の差による堆積作用により、高低差の少ない平野が形成される。また、南部地域では、佐賀平野特有の堀（クリーク）に囲まれた環濠集落が中世から現在まで生活空間として残る。

近世になると、長崎街道沿いに宿場町が形成された。筑後川へ向かう蓮池往還と長崎街道の分岐点であった境原や櫛田宮の門前町として栄えた神埼には宿場町が作られ、神埼宿にはお茶屋や脇本陣が置かれた。また、神埼宿の東側には長崎街道で唯一の残るひのはしら一里塚があり、「二日市」・「四日市」等の地名も残っている。

（３）建造物の所在地

神埼の市街地は、江戸時代には長崎街道の宿場町として、神埼宿が整備され、交通・経済・文化の拠点として栄えた。大正時代には古賀銀行や大石銀行が開業し、昭和30年代には多くの商店が軒を連ねる商店街として賑わっていた。

当敷地は、旧長崎街道沿いの櫛田宮のすぐ近くに建っている。旧長崎街道神埼宿を西木戸口から東のひのはしら一里塚までと考えるとほぼ中心部に位置する。旧街道沿いは当時から栄えた町家建築や寺社建築が数多く残されており、宿場町としての歴史的景観を呈している。

（４）建造物の沿革

建物は、古賀銀行の神埼支店として、大正３年に建てられたものである。その後、福成氏が購入し、助産院や歯科医院として使われていたが、引っ越しに伴い、平成13年より空き家になっていたものを、神埼市観光協会の寄付を受け、平成21年に神埼市が購入した。

①　古賀銀行神埼支店

古賀銀行は、明治18年１月に設立した。明治25年８月には第七十二国立銀行を引き受け、長崎支店と柳川市の若津出張所を開行し、経営領域を拡大していった。明治31年９月には譲り受けた第七十二国立銀行が営業満期になったため、行名を株式会社佐賀銀行と改名した。その後、大正２年２月に行名を株式会社古賀銀行と改名した。経営していた北方炭鉱の出炭量の増加や各地に支店を設け経営領域を広げたことに伴い、大正時代には、大分県の第二十三銀行、熊本県の肥後銀行、宮崎県の日州銀行、鹿児島県の百四十七

銀行と並んで九州の五大銀行の１つに数えられていたが、金融恐慌のあおりを受け、昭和８年に解散した。

神埼支店は、長崎支店、柳河支店につぐ３番目の支店として、明治44年に開行した。ちなみに、古賀銀行は明治44年の時点で田道ヶ里に土蔵を２棟所有している。

現在の土地は、大正２年に購入し、同年８月１日に新築起工式を行い、大正３年３月21日に落成式を行っている。

古賀銀行神埼支店を設計したのは、佐賀を拠点に活躍した建築技術者の舟木右馬之助である。舟木右馬之助は県内の建築において草分け的な存在で、多くの作品が作られたが、現存しているものは、旧古賀銀行の本店など10点も満たない。舟木右馬之助に関する資料は、遺族から旧九州芸術工業大学に寄贈されたものが、現在、佐賀大学に保管されている。その中に、古賀銀行神埼支店とその付属家の設計書が残されていた。

図１　旧古賀銀行神埼支店
（柵の手前の人物が舟木右馬之助）

②　福成助産院・歯科医院

解散した旧古賀銀行神埼支店を、福成氏が昭和８年に購入し、助産院を開院し、昭和21年に助産院とともに歯科医院も開業した。昭和52年には助産院が閉院した。助産院閉院後も歯科医院は続けられていたが、平成９年に閉院することとなった。その後は、福成氏の住居として使用されていたが、平成13年に引っ越し、空き家となった。

③　神埼市

平成13年から空き家となっていたが、市民や有志からの保存の声が上がり、市が長崎街道、櫛田宮等の歴史的町並みを生かしたまちづくりの拠点として保存することを決定した。その後、神埼町観光協会からの寄付を受けて、平成21年に市が購入した。

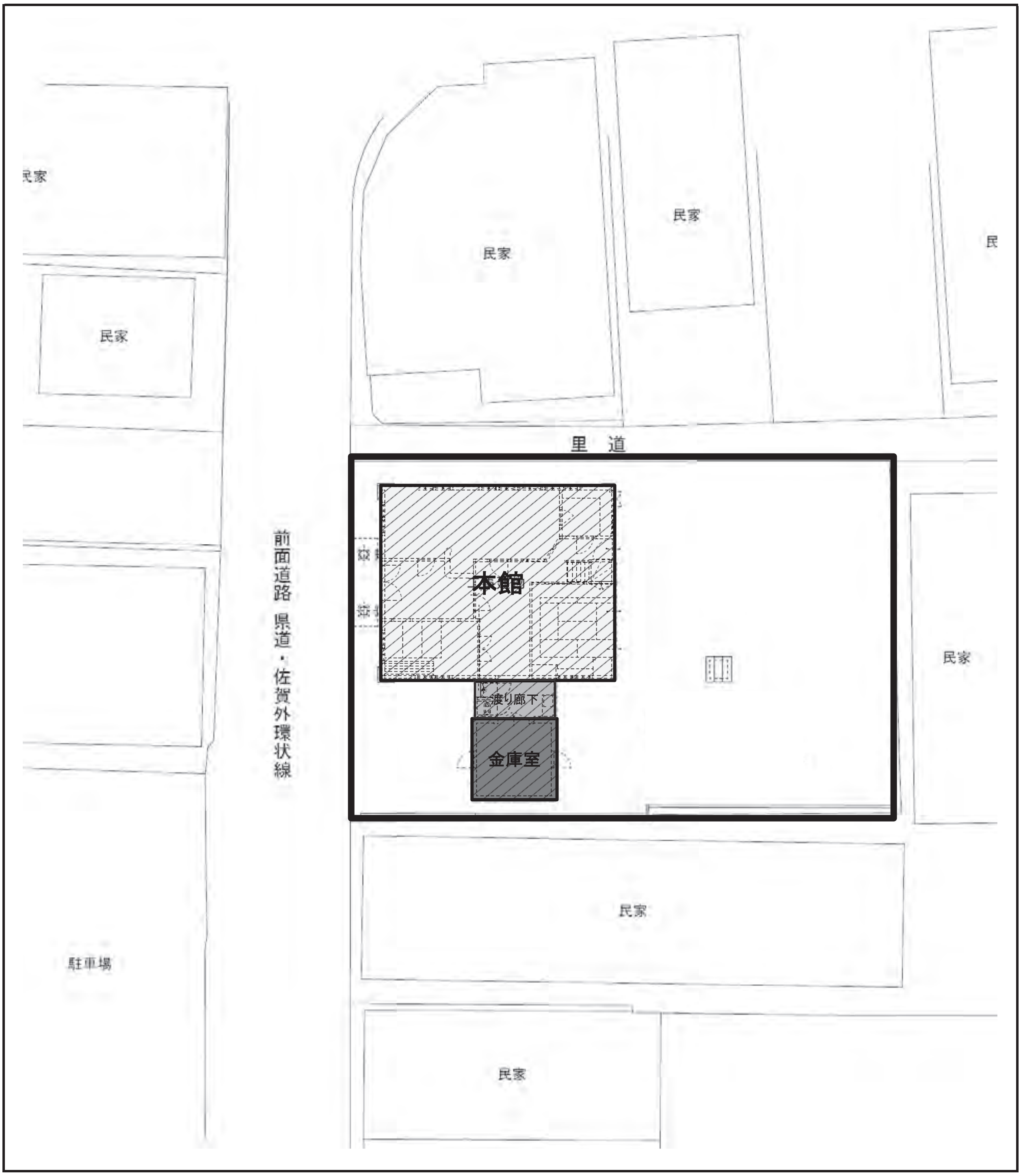


図　建築物等の名称

凡　例

□	敷地の範囲
□	本館
□	渡り廊下
■	金庫室

（５）建立後の改築部分について

当初の建物は、銀行業務を行う本館と金庫室としての蔵、行員の便所や休憩所の機能を持った付属屋があった。

福成氏が助産院と歯科医院を開院していた時代に改築がなされている。なお、戦前まではシャンデリアがあったことや戦時中に金属供出で窓の鉄格子が撤去されたとの福成氏の証言がある。

①　２階　床

昭和21年前後に、２階部分を増築している。２階には助産院の入院患者のための病室が作られた。なお、現在は残っていないが、階段は入口から入ってすぐ左側に階段があり、直接２階の病室へ行くことができたようである。

②　２階　天井

２階の床が作られ、２階に間仕切りができても、塗り直しや下に新たな天井の設置などの改変があったが、そのまま残されていた。しかし、昭和52年の改築の時に、天井を高くするため、西側半分の天井は取り除かれている。

なお、旧古賀銀行の本店の復原の時に、本店は天井が全く残っていなかったため、神埼支店の残った天井が参考にされている。

③　窓

改築に伴い、１階に１ヶ所、２階の北側に３ヶ所、南側に２ヶ所窓が新たに作られている。１階については、開口時期は不明である。２階については、南側の1ヵ所の窓が金庫室２階の渡り廊下内にあることから、土蔵を２階建てにした昭和38、39年よりも前と考えられる。このことから、昭和21年前後の２階を増築した時に、２階の窓も開口されたと考えられる。窓の開口に伴い、建物の筋違いを切っている部分が多くある。

建築当時からある窓は、外側に装飾があるが、後に開口された窓は装飾がない。

④　玄関

現在は、アルミサッシのガラスの両開きの扉があるが、当時は、引き戸であった。扉の両脇には戸袋が残っており、玄関屋根の内側には、扉を支えるための鉄板が残されている。扉のレールはコンクリートで埋められている。上部のレールの痕跡については、扉上部のコンクリートを壊さなければならないため、調査を行っていない。

鉄の引き戸だけなのか、もう一つ扉があるのかは、不明である。

⑤　風除室

玄関から入ってすぐの部分は、風除室と考えられていたが、解体調査の結果、天井がとりついた痕跡はなく、当時の設計書にも衝立と記載されていたことから、あくまでも、目隠しの衝立があったと考えられる。この衝立は、改築で取り払われていた。

⑥　応接室

応接室の天井は、解体調査の結果、天井と考えられる部分に天井がとりついた痕跡がなかったことから、当初から天井はなく吹き抜けの状態であったことが分

かる。２階の床が設けられた際、窓のカーテンロットは、下に移動しており、窓の途中にある状態であった。

西側の扉は、改築に伴い、塞がれていた。

⑦　金庫室

主たる建物と渡り廊下で接続する木造平屋建ての土蔵であったが、昭和38、39年頃に小屋組を解体し、２階部分を増築している。

⑧　付属屋

福成氏の住居として使用されており、本館の東側背面に接続していた。

平成21年に神埼市の所有となった後に、調査を行い、当初の建物ではないということを確認し解体している。

（６）構造形式

今回の復原工事によって、旧古賀銀行神埼支店は、大正３年の竣工当時の姿に復原された。以下に修理後の構造形式を記す。

①　概要

桁行10.9m、梁間9.09m、木造平家建、屋根寄棟造桟瓦葺き。

②　平面

建物は長崎街道に西面する。室内は、吹き抜けとし、客溜り、業務室、応接室を配する。建物南側に土蔵造りの金庫室と渡り廊下で繋ぐ。

③　基礎

基礎は煉瓦積み布基礎とし、外部は花崗岩を貼る。構造補強として鉄筋コンクリート造布基礎を増し打ち。

④　軸部

土台を敷き、通し柱や間柱を建て筋違い、胴差し、窓台、楣、陸梁などで固める。構造補強として鉄骨トラス、耐力壁を設ける。

⑤　屋根

寄棟造りの桟瓦葺きで、大棟両端にフィニアルを置く。正面中央に半円形のドーマ窓を設け、棟先端にフィニアルを置く。

⑥　外部

洋風外観の木造平屋建てで、西面する正面中央に花崗岩円柱に支えられた切妻造りの玄関を設け、左右対称のファサードとする。

外壁は大壁モルタル洗い出し仕上げで、柱頭飾りや窓楣に、要石状の装飾を造り出す。窓は縦長で、下部を鉄格子付き木製上げ下げガラス窓、上部を打ち倒し窓とする。軒天井は腕木状の木口を見せ、鼻隠し板を廻らす。

⑦　内部仕上げ

客溜り、業務室、応接室を置き、衝立で仕切られており、すべて吹き抜けとなっている。

⑧　建具

応接室の間仕切り上部に廻る蛇腹に似

せる形で、福成歯科医院時代の各部屋の間仕切りの蛇腹が作られていた。今回客溜りの衝立を復原するにあたり、福成歯科医院時代の蛇腹を再使用した。

⑨　付属棟

南面に金庫室と呼ばれる土蔵が渡り廊下で接続する。

（７）主要寸法

桁行　10.909m
梁間　9.090m
軒高　6.426m
建築面積　120.21㎡
延床面積　117.32㎡

第３節　事業の運営

（１）工事組織

本工事は神埼市の直轄工事として運営し、文化庁、佐賀県教育委員会文化財課の指導のもとに文化財保護法、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律及び同法施工令、その他関係法規を参照して工事を進めた。

工事運営は社会教育課が担当した。施行は請負工事とし、条件付き一般競争入札による契約を締結して工事を実施し、(公財)文化財建造物保存技術協会の指導を受け、全体的な工事監理は福島安信建築設計工房に委託し、構造補強に係る部分は㈱文化財構造計画に委託した。

（２）工事関係者

①　事業者

神埼市（神埼市神埼町神埼410番地）
神埼市長　松本　茂幸
神埼市教育長　田代　高規
神埼市教育部長
（～H28年３月）　平方　利郎
（H28年４月～）　永原　良則
神埼市社会教育課　課長
（～H28年３月）　栗山　大成
（H28年４月～）　松永　義彦
副課長　桑原　幸則
主査　谷　洋一郎
主事　島　佑輔

②　技術指導

公益財団法人　文化財建造物保存技術協会（東京都荒川区西日暮里2-32-15）　参事　東坂　和弘

③　設計監理

福島安信建築設計工房

④　設計監理（耐震補強）

㈱文化財構造計画

⑤　工事請負業者

牟田・馬場特定建設共同企業体
請負者代表者
牟田建設株式会社
代表取締役　牟田　正明
現場代理人　野口　雅史
構成員
株式会社馬場製作所
代表取締役　馬場　友幸
技術者　古野　早苗

協力業者

仮設（足場）工事
㈱ダイワ　佐賀営業所
（佐賀市大和町大字久留間3388）

土・圧送工事、外構
㈲福建工業
（神埼市神埼町尾崎4169-106）
鉄骨工事
大和鐵工㈱
（神埼郡吉野ヶ里町石動1622-1）
型枠工事
㈱角田工務店
（神埼市千代田町用作2043-1）
鉄筋工事
㈱大久保鉄筋工業
（小城市三日月町織島1058-1）
塗装工事
㈲クリヤマ塗装
（神埼市神埼町永歌1216-2）
瓦工事
加藤瓦工事店
（久留米市荒木町藤田1226-21）
板金工事
深見建材
（鳥栖市弥生が丘4-394）
木（造作）工事
原建築
（神埼市神埼町田道ヶ里2463-7）
石工事
下田石材
（佐賀市巨勢町牛島499-1）
左官工
㈱堀江工務店
（佐賀市高木瀬町長瀬1585-3）
金属・鋼製建具工事
山田工業㈱
（福岡県久留米市大善寺町宮本621）
木製建具・家具工事
㈱三好木工
（神埼郡吉野ヶ里町石動2125-1）
シール
山口産業株
（三養基郡上峰町坊所2512-1）
カーテン
㈱イマムラ
（鳥栖市本町2-1442-3）
ピクチャーレール
㈱副島金物
（佐賀市駅前中央2-7-10）
解体工事
㈱ナラタ
（唐津市宇木435-1）
電気・空調工事
日の出電気商会
（神埼市神埼町神埼268-22）

第２章　修理方針の検討

第１節　修理前の破損状況

（１）基礎

コンクリート基礎上に煉瓦基礎がある。

（２）軸部

土台は腐食しているため、腐食状況の確認が必要である。医院改築時に開口部が追加されているため、開口部分にあたる柱及び筋交が切断されている。

（３）１階床組

客溜り部分は、モルタル仕上げが残存している。業務室や応接室の床組部材（大引や根太）は一部が残存するが、板材は当初のものではない。

（４）軒廻り

軒樋の老朽化が目立つ。

（５）小屋組・屋根

軒先瓦の欠損や瓦の老朽化がみられ、一部で雨漏りが発生している。

（６）造作

壁の仕様は、柱に取り付く木摺下地の上に瓦材（竪瓦）が全面に貼られ、その上に漆喰、モルタル洗い出し仕上げとなっている。

当初吹き抜けだったが、２階床が付けられ、部屋も壁で区切られている。

応接室の衝立についたくりものに似せる形で、福成歯科時代の部屋の間仕切りのくりものが作られていた。

（７）照明器具

一部の天井に吊り金具が残存しているが、当時の照明器具は残っていない。

（８）塗装・装飾

外壁は、モルタル洗い出し仕上げで、比較的良好な状態を保っているが、一部に亀裂・剥落等が確認される。

（９）金庫室

主屋南側に付属する金庫室は土蔵造で、２階部分は昭和38、39年頃に増築された木造の混構造建物である。外壁は土壁のうえにモルタル塗りであり、内壁は板張の仕上げとなっている。

第２節　耐震診断と補強計画

（１）地盤調査

地盤調査は日本工業規格に基づき、株式会社有明エンジニアリングの協力を得て実施した。

調査日：平成25年12月

調査内容：機械ボーリング１箇所30m
　　標準貫入試験１箇所30回

ボーリング調査は、主に液状化に関する調査の目的で行った。この調査により、深 度 3.0～3.3 m、4.3～4.6 m、5.7～6.1m、8.8～9.3mの蓮池層の砂層と砂礫層で「液状化の可能性がある」と判断された。

（２）耐震診断

①　構造性能評価方針

本建物は、文化庁文化財部「重要文化財（建造物）耐震診断指針」（以下、文化財指針と呼ぶ）に準拠して性能評価を行った。構造検討は、建築基準法および同施工令、告示等の主旨に沿って実施した。

本建物は本館と金庫棟が通路を介して繋がっているが、一体と見なせないため、本館と金庫棟を別々の棟として構造計算を行った。

耐震診断、補強案策定、構造補強部分の実施設計は、㈱文化財構造計画の協力を得て実施した。

②　構造検討の概要

検討は、文化財指針の「等価線形化法」に基づいて行った。解析手法として以下の点を考慮した。

１）立体フレーム架構にモデル化する。

２）立体モデルの耐力要素は、柱と壁（土壁、木摺漆喰）および筋違の架構である。

３）屋根・床の変形を考慮して解析する。

４）建物の復元力特性（荷重－変形関係）は、荷重増分法を用いた静的弾塑性解析により求める。

③　構造性能の判定基準値

本建物は、地域活性化のために一般に公開する施設としての活用を予定しているため、地震時に人命を損なうことのない耐震性が要求される。ただし、地震後の防災拠点としての使用は考慮されていないため、耐震性能の目標は「大地震動時に倒壊しない」水準である「安全確保水準」とした。

文化財指針によると「安全確保水準」の層間変形角の目安は、大地震動時に倒壊しない性能として1/30以下となっている。

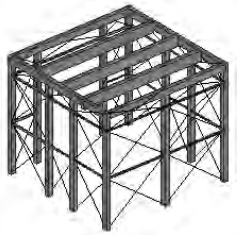
本館は柱と筋違、木摺漆喰壁の架構である。筋違は靱性のばらつきが多く1/30を超える大変形時において耐力が保証できない。そのため、最大層間変形角は1/30以下とした。

金庫棟は柱と土壁の架構であり、1/30を超える大変形時においても耐力を保持している構造である。そのため、最大層間変形角は1/20以下とした。

また、大変形時において倒壊しない性能として、構造部材（特に柱）が脆性破壊しないことを確認した。

地震力には地震地域係数0.8を考慮した。地盤調査の結果より、地盤種別は第2種地盤とした。また、本館は受圧面積が大きいため、風に対する安全性も考慮し検討を行った。

本館 解析モデル



金庫棟 解析モデル

④　構造性能評価

１）液状化

液状化の検討の結果、10m までの砂層と砂礫層で「液状化の可能性がある」と判断された。液状化が発生した場合、建物を地盤が支持できなくなり地盤沈下等が起こる可能性がある。

２）本館

大地震動時の最大層間変形角は東西方向1/10、南北方向1/18であり、目標値1/30を大きく超える値となった。柱は早い段階で曲げ降伏した。筋違の靱性が低いため、大変形時に建物耐力がかなり低下する。建物の保有耐力が層せん断力係数に換算して0.10程度と小さいため、近傍での直下型地震などの衝撃的な地震の場合に予期せぬ倒壊に至る恐れもある。

風の影響も大きく、稀に生じる強風時において柱が曲げ降伏した。極稀に生じる強風時においては倒壊する可能性がある。

また､柱断面に対して階高が高いため、風圧に対する柱の曲げ耐力が不足する。

３）金庫棟

建物の保有耐力は層せん断力係数に換算して0.30程度であるが、大地震時の最大層間変形角は東西方向1/12、南北方向1/10と目標値1/20を超える値となった。また、北側に開口を有するため東西方向の偏心が大きい。

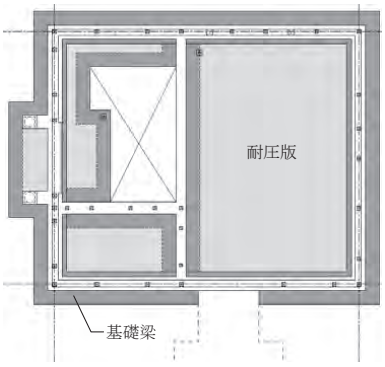
（３）耐震補強案の策定

①　構造補強の方針

【地盤】

地盤の液状化について、当初は液状化防止を検討したが、当地盤においては対策に多額の費用が必要となるため、本工事においては実施しないこととした。本館については、液状化が発生した場合における不同沈下防止と被害の軽減を目的としてRC 造基礎を設置した。金庫棟は規模が小さいため補強しないこととした。

本館は外周部および内部に、既設煉瓦基礎を挟み込むようにRC 造基礎を配置した。当初の土間たたきを可能な限り保存するため、土間部の基礎は既設基礎から１ｍの範囲とした。



RC 造基礎配置図

【本館】

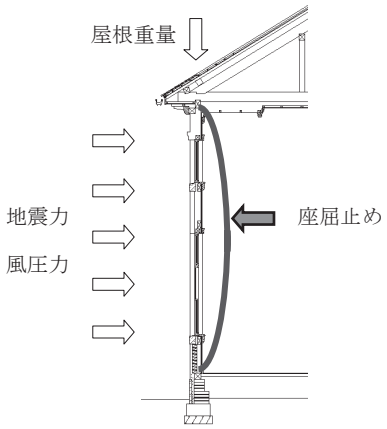
本館は階高が高いため、柱が断面に対して材長が大きいく座屈しやすい。風圧力に対しても耐力が不足する。そのため、座屈止めとして以下の3案を提案した。

案①：鉄骨トラス耐風梁

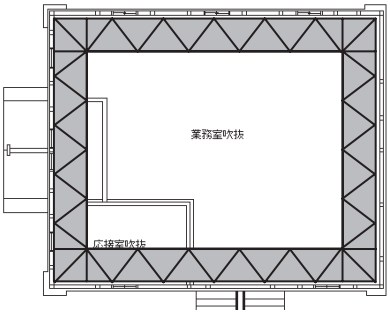
案②：鉄骨耐風梁と火打ち梁

案③：鉄骨フレーム

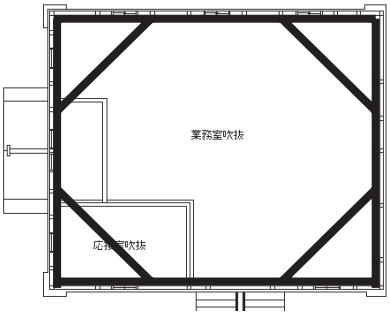
座屈は、構造物に加える荷重を次第に増加すると、ある荷重で急に変形の模様が変化し大きなたわみを生ずることをいう。座屈荷重は柱の長さに依存するため、短い柱は座屈を起こさず長い柱のみに発生する。



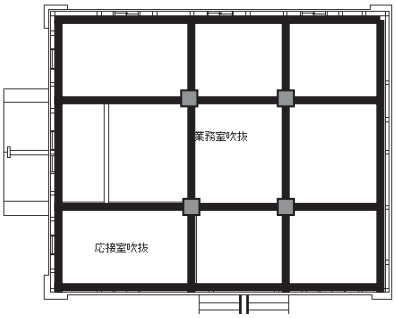
柱の座屈補強



案①：鉄骨トラス耐風梁



案②：鉄骨耐風梁と火打ち梁



案③：鉄骨フレーム

座屈止めとして必要な剛性を得るために、案①は耐風梁を鉄骨トラスとした。案②は鉄骨耐風梁に火打ち梁を、案③は井桁状に鉄骨梁を配置し、たわみ止めの柱を設けた。

案②は鉄骨部材が大きくなるため、案③は吹き抜けらしさがなくなるため、案①が採用された。

筋違が限界変形に達することにより耐力が不足するため、筋違の靱性を向上させると建物耐力が・現状における筋違接合部は釘２本打ちであるため、耐力・靱性が低い評価となる。筋違に接合金物を取り付け、耐力・靱性を増大させた。そのため、最大層間変形角の目標値は1/20以下とした。また、建物重量を軽くするため、屋根の葺土を撤去した。

本館の内壁は木摺漆喰壁である。大変形時に漆喰が落下する危険性があるため、鉄骨トラスから上部は石膏ボード貼りに変更した。

補強により、大地震動時の最大層間変形角は東西方向1/24、南北方向1/20となり、目標値を満足した。また、風荷重時に対しても目標値を満足すること、地震時・風荷重時ともに柱が曲げ降伏しないことを確認した。

【金庫棟】

建物重量を軽くするため、屋根の葺土を撤去した。

補強により、大地震動時の最大層間変形角は東西方向1/23、南北方向1/31となった。東西方向の偏心は改善されていないが、建物規模が小さく水平耐力も十分あるためこの偏心を許容した。

第３章　現状変更

第１節　現状変更の理由

福成歯科医院は、古賀銀行神埼支店として大正３年に建設されたもので、大正期における銀行支店建築の好例として評価されている。本建物は、旧長崎街道神埼宿の中心部に立地しており、周囲は神埼町の中心商店街となっている。現在、建物の老朽化が進み､見学者の安全が確保できないため、外観のみを公開している状況であるが、歴史的建造物を活かしたまちづくりや、地元商店街の活性化を目的として広く公開・活用を図るため、資料に基づき保存修理・補強工事を行う。その内容としては、下記のとおりである。

イ．経年により瓦が破損し、雨漏りしているため早急に修理が必要である。

ロ．地盤調査により、地震時に地盤が液状化する可能性があるため、液状化の被害を低減する補強が必要である。

ハ．耐震診断により、上部木造架構が東西・南北両方向とも水平耐力が不足していたため、水平耐力を向上させる補強が必要である。

ニ．階高の高さに対して柱断面が小さいために柱の耐力が小さく、耐震診断により柱が折損する可能性が指摘されたため、柱の耐力を向上させる補強が必要である。

ホ．現状の本館と金庫室は、後世に改築が行われており、資料等に基づき創建当初の姿に復原する。

第２節　現状変更の内容

イ．液状化への対応のため、コンクリート基礎（ベタ基礎）を設置する。

ロ．屋根の葺き土を撤去して空葺きすることで上部重量を低減し、筋違い端部を金物で接合するなどして補強を行う。

ハ．柱には座屈止めを設置して補強を図る。

ニ．現状の粘土瓦・葺き土及び下地を撤去し、下地を調整の上、新規粘土瓦に葺き替える。葺き替えにあたっては古瓦の再用に努める。

ホ．本館と金庫室は後補の二階部分を取り除き、金庫室は古写真に基づいて旧来の土蔵の外観へ修景を図る。

第４章　修理工事

第１節　工事の内容

旧古賀銀行神埼支店の意匠と構造形式において、文化財的価値を有している部分を保存するとともに、管理活用のために整備する部分についても、建築当初の時代性と様式を考慮したものとなるよう保存・整備を行うものとする。

第２節　工事実施仕様

（１）仮設

敷地の北と南の道路と建物が接近しているため、外部の基礎コンクリートの打設が完了した後に、その上に足場を設置した。

内部についても、鉄筋コンクリートのベタ基礎後に足場を設置した。

（２）基礎工事

割栗石に基礎コンクリート、その上に煉瓦積みの基礎の現況を温存し、構造補強として新たに後施行アンカーを設置し、鉄筋コンクリートで挟んだ。客溜まりの当初の土間が残っている部分を除き、鉄筋コンクリートのベタ基礎を設置した。

客溜まりの当初の土間は、後世の改造で水道管などの穴が空いていたが、無収縮モルタルを注入し破損部分の補修を行った。土間はストーブの墨で踏み固められていたため、補修部分のモルタルは墨を使い、違和感がないように色合わせをした。

現状の束石は、一旦撤去し、土間コンクリート設置後、旧位置に真砂土３・石灰２・セメント１の配合ソイルセメントで固定した。

（３）耐震補強工事

座屈止めのCTトラスは、幅600㎜で四方の壁の柱に取り付けた。トラスは柱と鉛直方向のトラスで支持した。トラスを支える北側の柱のアンカーボルトは、鉄筋コンクリート打設前に設置した。アンカーボルトは、柱とダブルナットで締めた後に無収縮グラウトを充填した。

また柱や筋違いは金物を取り付けた。

（４）木工事

材料については、腐朽の確認を行い、腐食部の部材断面が４分の３以下であれば、矧木や埋木による繕いを行い、取り替えや継木が必要な材料については、同様の材料を使い、「平成27・28年度修補」の焼印を押した。

土台は腐朽が激しかったため全て取り替えた。開口に伴い取り除かれた柱や筋違いは新たに設置した。

床の束と束石はウレタン樹脂系の接着剤で固定し、束と大引きはかすがい金物で固定した。フローリングは、根太の方向から業務室と応接室ともに南北方向に張った。

天井は、改築により取り除かれた西側半分を復原した。

（5）石工事

玄関にある花崗岩の円柱やレンガ基礎の外部に貼られた花崗岩などの既存の石材は、外壁用の特殊洗浄剤やサビ取り剤を使って清掃を行った。

玄関ポーチは撤去し、コンクリート基礎を打設後に復旧した。その周辺については、当時の写真から石造であったと判断されたため、小叩き仕上げの花崗岩を貼った。

（6）屋根工事

在来の瓦は、形式、破損状況、耐久性などにより選別を行い、使用できる瓦は水洗いをして乾燥させた。古瓦は屋根の南面と東側の庇に再用した。補足瓦は福岡県久留米市城島町で在来品に倣って製作し、丸桟いぶし瓦を使用した。地瓦は空葺とし、大棟と隅棟は紐付き熨斗瓦と雁振瓦で葺いた。

玄関ポーチの棟端飾は、当時の古写真から、輪郭が判明したが、木芯に銅板打ち出しとしていたのか瓦製なのか判別出来なかったことから、大棟の棟端瓦に倣って瓦製とし、形状が近い香港上海銀行長崎支店を参考に設計し、加藤瓦が作成した。

（7）左官工事

外壁の洗い出しは、場所により、砂の粒度及び色味に３種類の洗い出しが使い分けられていた。当初は剥落防止のため、すべて取り除き、塗り直す予定であったが、補修で対応可能となったため、クラックで補修できる部分は補修を行い、クラックが開き、剥落の危険性がある部分は修復を行った。洗い出しは、サンプルを作成し、現存しているものに近いものを使用した。開口されていた部分や東側の住宅と接続していた部分については、旧古賀銀行当時の姿に復原した。

（8）塗装工事

外部のペンキは、調査の結果から、玄関は黒、その他の窓枠は水色とした。
内部の鉄骨は、漆喰壁と合うように、艶消しの少し黄色い白色とした。

内部の木部の古色塗りについては、既存の部分も塗り直すため、やや濃い色とした。

床のタモ材のフローリングは、かちいろで塗装し、ワックス掛けにて表面を処理した。

金庫室外壁の黒漆喰は、高分子エマルジョン系接着剤と左官用黒墨を調合したものを、スポンジローラーで3回塗った。

金庫室の内部も調査の結果から薄緑色とした。

（9）建具工事

設計書から当初はシオジが多く使われていたが、復原にあたってシオジが手に入らなかったため、協議の結果、一番似た材料であるタモを代用せざるを得なかった。

福成歯科医院時代に作られた部屋の間仕切りに木製の蛇腹飾りがあった。これは、旧古賀銀行の応接室に付けられた蛇腹飾りを真似て作られたものであった。今回、衝立を復原するにあたり、福成歯科医院時代の蛇腹飾りを再利用した。

応接室にはカーテンロットが残って

いたため、これに倣い不足分を作成した。

(10) 外壁工事

外壁下地に四角形の瓦が貼られていた。窓の下は煉瓦積みであった。当初は剥落の恐れがあったため全面取り替えの予定であったが、外壁診断を行い、補強を行うこととなった。

窓の鉄格子は、設計書に「光明丹溜色」とあったが、これは錆止めを示していたと考えられることから、古写真のトーンから、つや消しの黒色とした。

北側の外壁面に塗り込んであった金具は、電気の引き込み金具と考えられる。年代等が確定できなかったため、そのまま塗り込んで残した。

本館と付属家を接続する東側の軒先は、痕跡から当初の形がわかったため、それを表現した。

(11) 内壁工事

補強トラスより上については、脱落の危険を考え、木摺り下地板の上にプラスターボード（9㎜）を貼り、その上に漆喰（3㎜）を塗った。補強トラスの下は、木摺り下地の上にネットを張り漆喰（12㎜）を塗った。

(12) 雑工事（防蟻、塗装、畳）

エアコン、ピクチャーレール、スポットライトは文化財構造計画に重量計算を依頼し、問題がないことを確認の上、設置した。

屋根裏点検用の梯子と天井扇は、周囲の色と合わせ、今回復原した天井の部分に設置した。

館名板は、「古賀銀行神埼支店」を右から左に書く。字体は、古賀銀行本店に保存している古賀銀行の旗の字を参考にした。

(13) 金庫室

扉は、軸刷り式の鉄の親子扉であったと考えられるが、木製に取り替えられていた。重量軽減のため、鉄扉風の木建具とした。

古賀銀行当時の棚は南奥だけであったため、福成歯科医院に作られた東西方向の棚は撤去した。

床はシートが張られていたため剥がし、モルタルを塗り直した。

もっこう形の小屋裏換気口は、水返し立ち上がりのついた土管を加藤瓦が作成し、内側には防虫平織金網を設置した。飾りは古写真を元に漆喰で作成した。

(14) 渡り廊下

屋根の痕跡が残っていたことから、屋根の勾配の痕跡に沿って作成した。天井を貼った痕跡は残っていなかったことから、貼っていない。

(15) 外構工事

金庫室の西側は、当初の写真から土であったことがわかっているため、自然土舗装材で舗装した。

その他の部分については、砕石敷きとした。

設計書

雜工之部

一金

内訳

足場損料　材工共　壱式

大工小屋損料　材工共　壱式

建具釣用木綿機械燃電　壱式

木土台下コールタール塗方　壱式

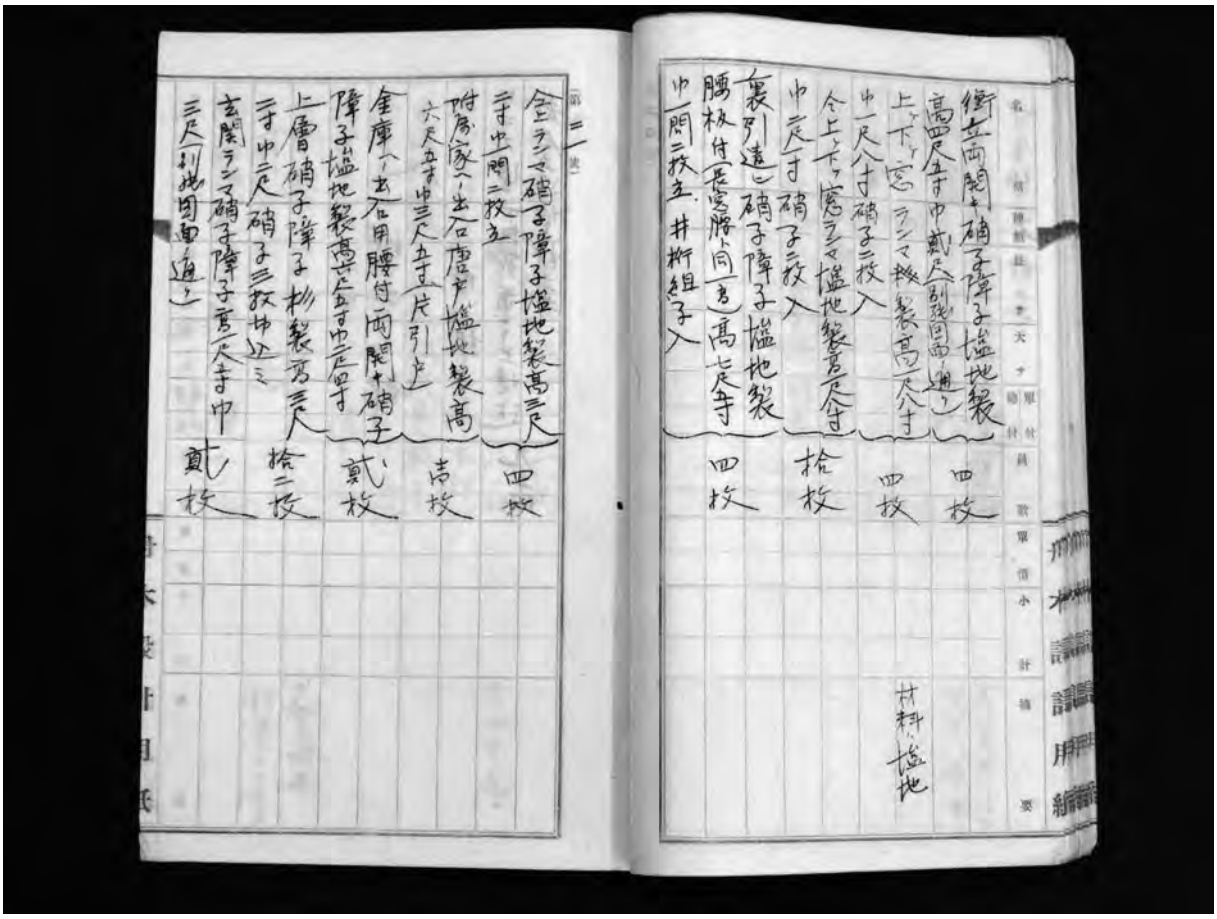
小屋材防腐材塗方　壱式

跡掃除人夫　人

名　品　種類　長サ　大サ　單材　總材　員數　單價　小計　摘要

床板油ワニス拭ヒ　材工共　面　一八坪

名　品　種類　長サ　大サ　單材　總材　員數　單價　小計　摘要



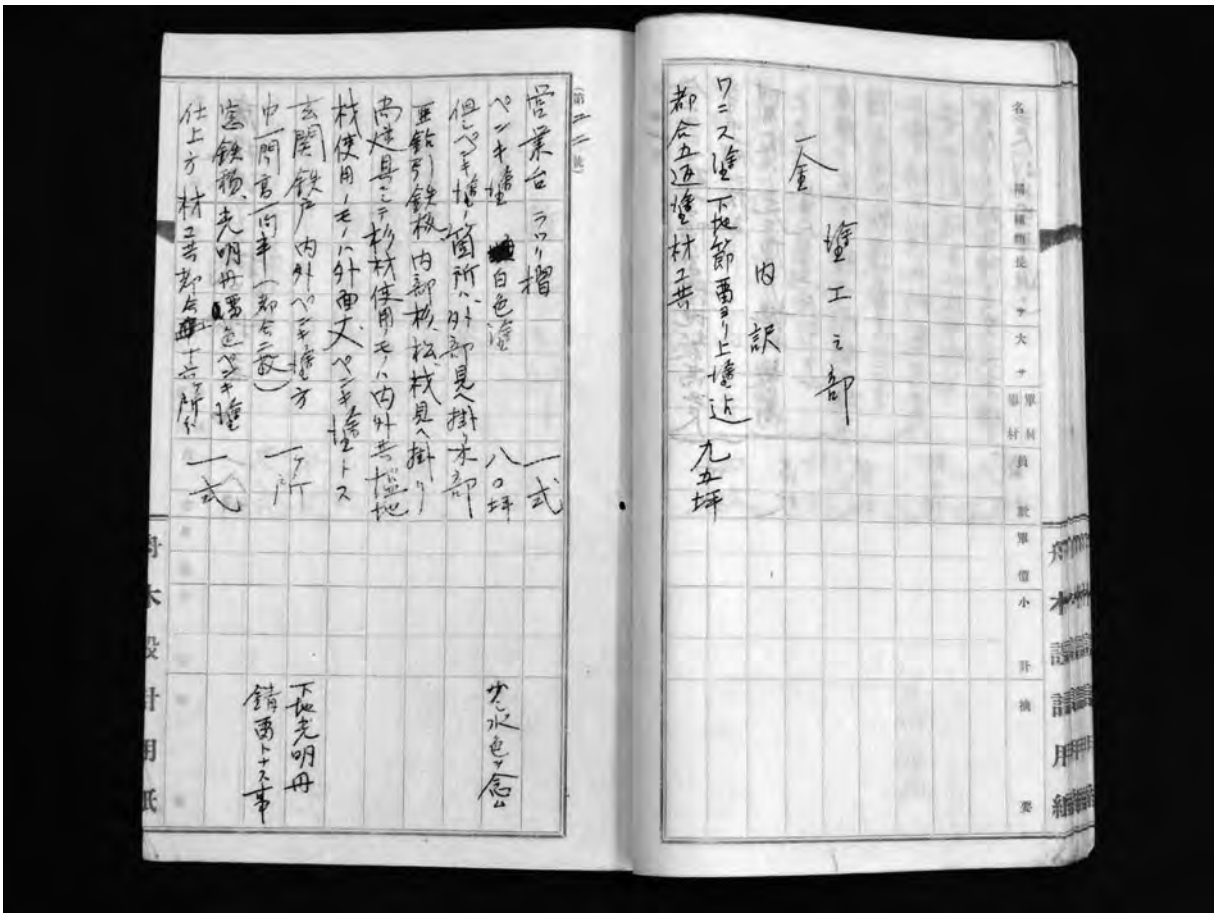
衛立両開キ硝子障子塩地製
高四尺五寸巾貳尺（別残図面通り）
上ヶ下ヶ窓ランマ板製高一尺八寸
巾一尺八寸硝子二枚入
今上ヶ下ヶ窓ランマ塩地製高一尺八寸
巾二尺一寸硝子二枚入
裏引違ヒ硝子障子塩地製
腰板付（長窓腰ト同一寸）高七尺五寸
巾一間二枚立 井桁組子入

四枚
四枚
拾枚
四枚

材料ハ塩地

合上ランマ硝子障子塩地製高三尺
二寸巾一間二枚立
附属家ヘ出入口唐戸塩地製高
六尺五寸巾三尺五寸（片引戸）
金庫ヘ出入口用腰付両開キ硝子
障子塩地製高六尺五寸巾二尺四寸
上層硝子障子杉製高三尺
二寸巾二尺硝子三枚巾込ミ
玄関ランマ硝子障子高一尺二寸巾
三尺（別残図面通り）

四枚
吉枚
貳枚
拾二枚
貳枚



一金 塗工之部
内訳
ワニス塗 下地節面ヨリ上塗迄
都合五返塗 材工共

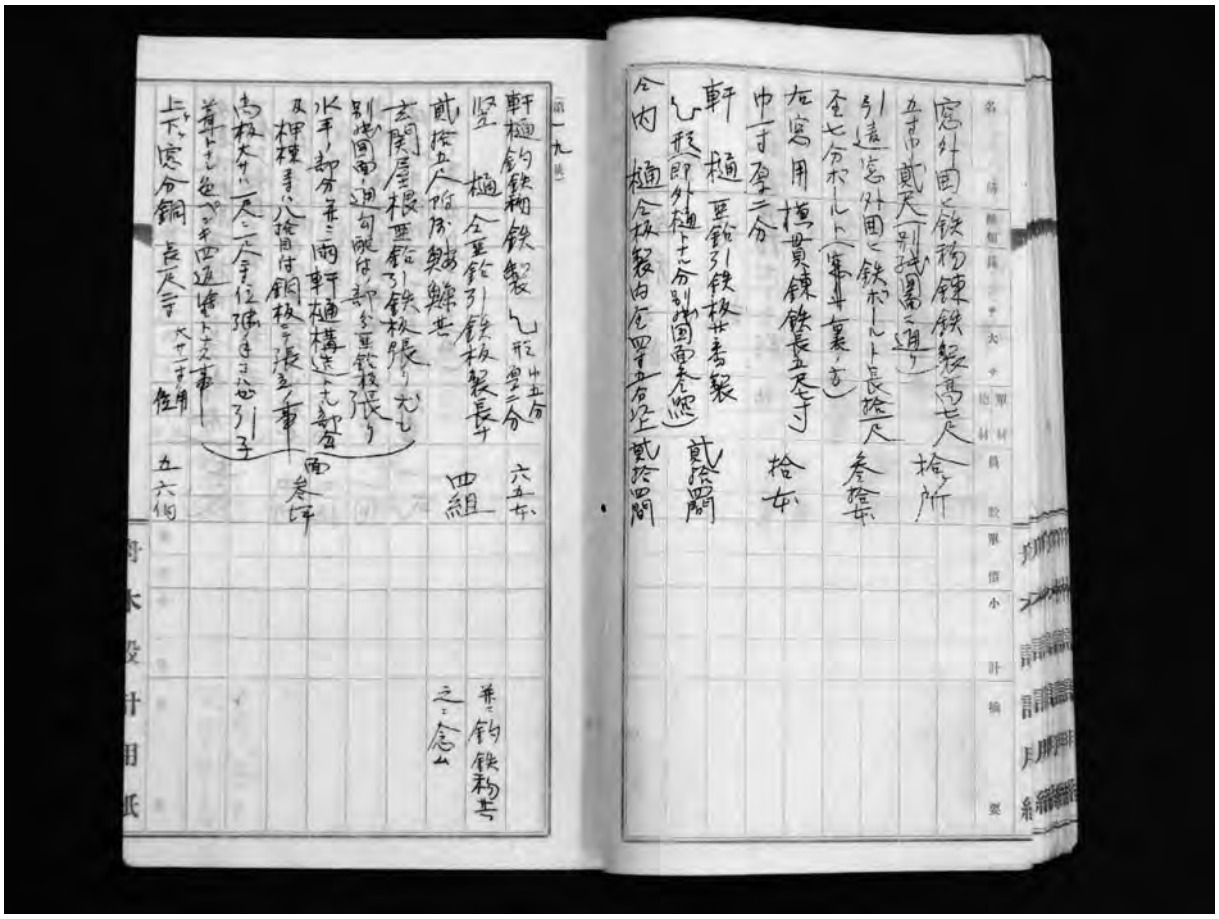
九五坪

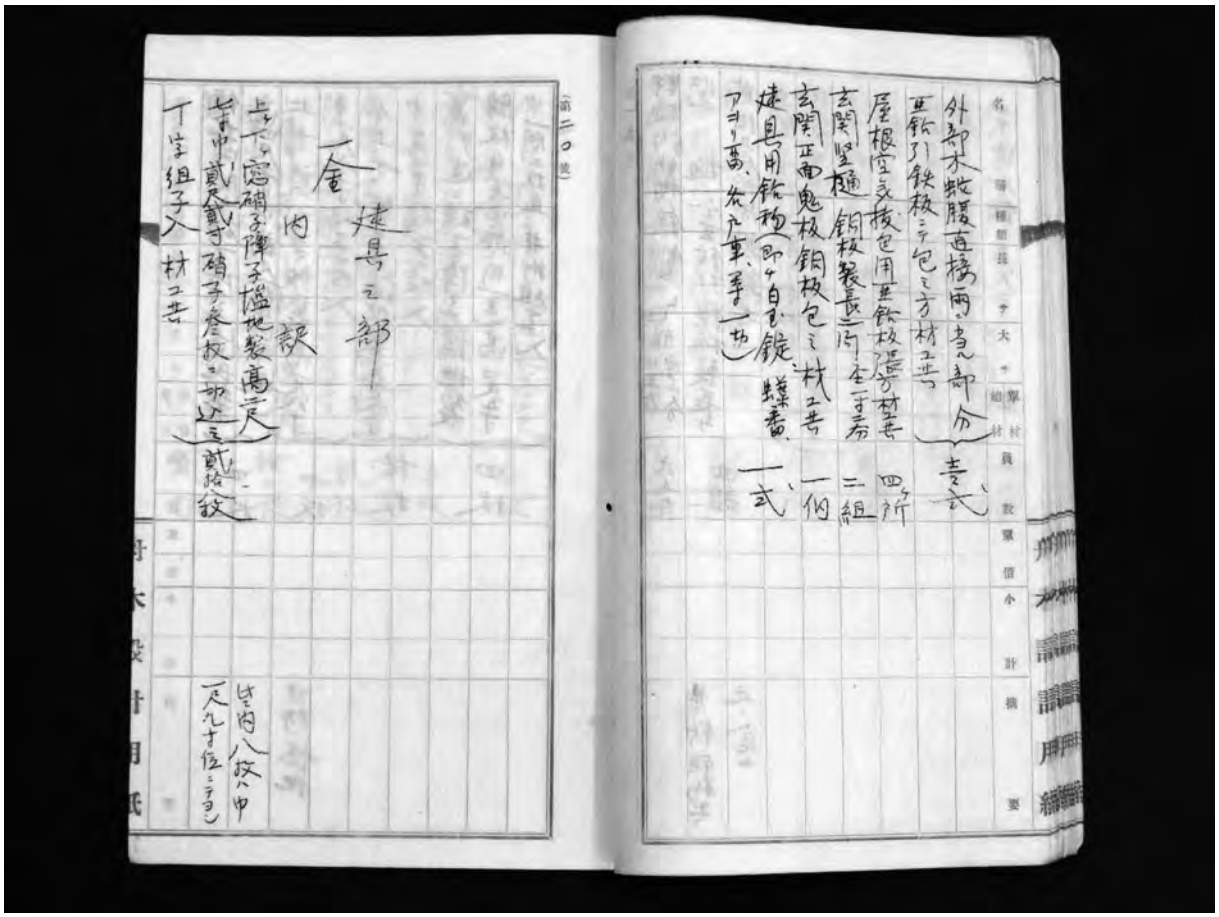
営業台 ラワリ摺
ペンキ塗 白色塗
但シペンキ塗ノ箇所ハ外部見ヘ掛ル木部
亜鉛引鉄板 内部杉、松、桟見ヘ掛リ
尚建具ニテ杉材使用ノモノハ内外共塩地
桟使用ノモノハ外面丈ペンキ塗トス
玄関鉄戸 内外ペンキ塗方
巾一間高一尺半（都合二枚）
窓鉄積、光明丹 黒色ペンキ塗
仕上方 材工共都合十六ヶ所ニ

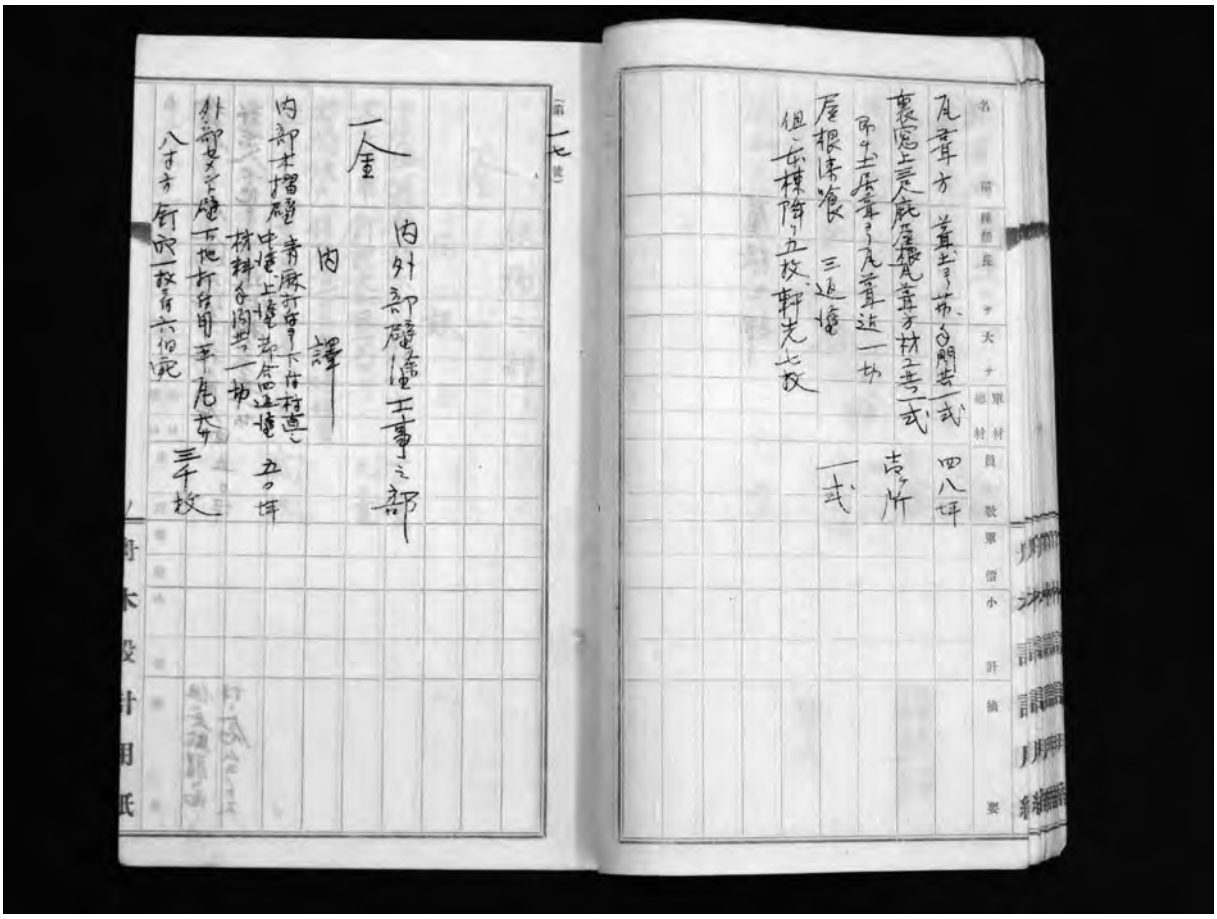
一式
八〇坪
一ヶ所
一式

少シ水色ヲ含ム
下地光明丹
錆面トナス事

設計書







名 間 種類 長サ 大サ 単材 員 数量 単価 小 計 摘 要

瓦葺方 葺替ヲ施ス間歩 弐 四八坪

裏窓上裏底屋根葺方材工共 弐 壱ヶ所

内外土居葺ヲ瓦葺迄一切

屋根漏浪 三迄塗

一弐

但 妙楽隣ノ五枚 軒先七枚

(第一七號)

一金 内外部壁塗工事之部

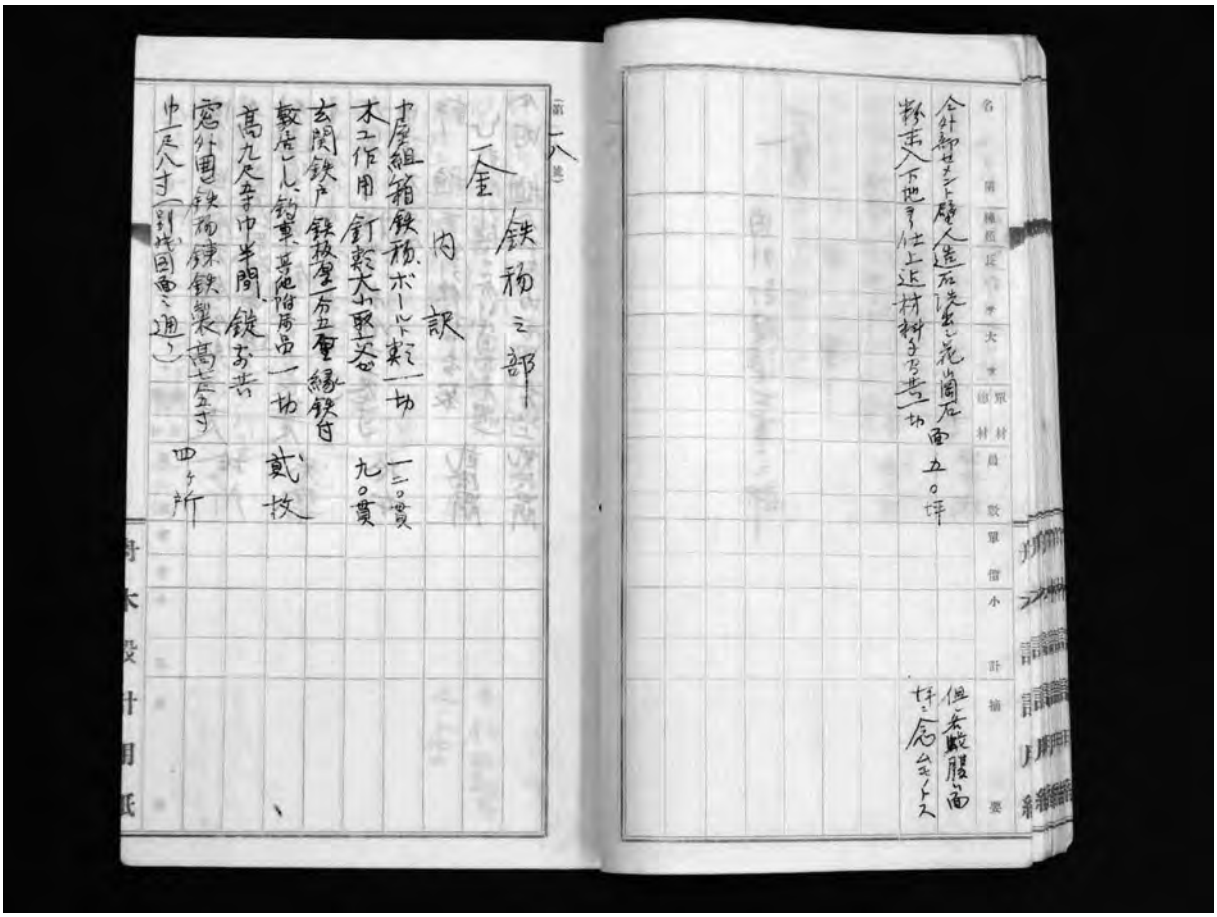
内 譯

内部本瓦壁 青厚ヲ下地材共 中塗上塗迄 五〇坪

材料ハ内共一切

外部モルタル壁下地打ヲ用平尾共 三千枚

八寸方 釘敷一枚ニ付六個宛



名 間 種類 長サ 大サ 単材 員 数量 単価 小 計 摘 要

合外部モルタル壁人造石洗出し花崗石面 五〇坪

縁石入下地ヲ仕上迄材料ヲ共一切

但 表裏腰面共合ムキ

(第一八號)

一金 鉄物之部

内 訳

小屋組箱鉄物ボールト類一切 一三〇貫

木工作用 釘類大小取合 九〇貫

玄関鉄戸 鉄板壁方五重縁鋲付

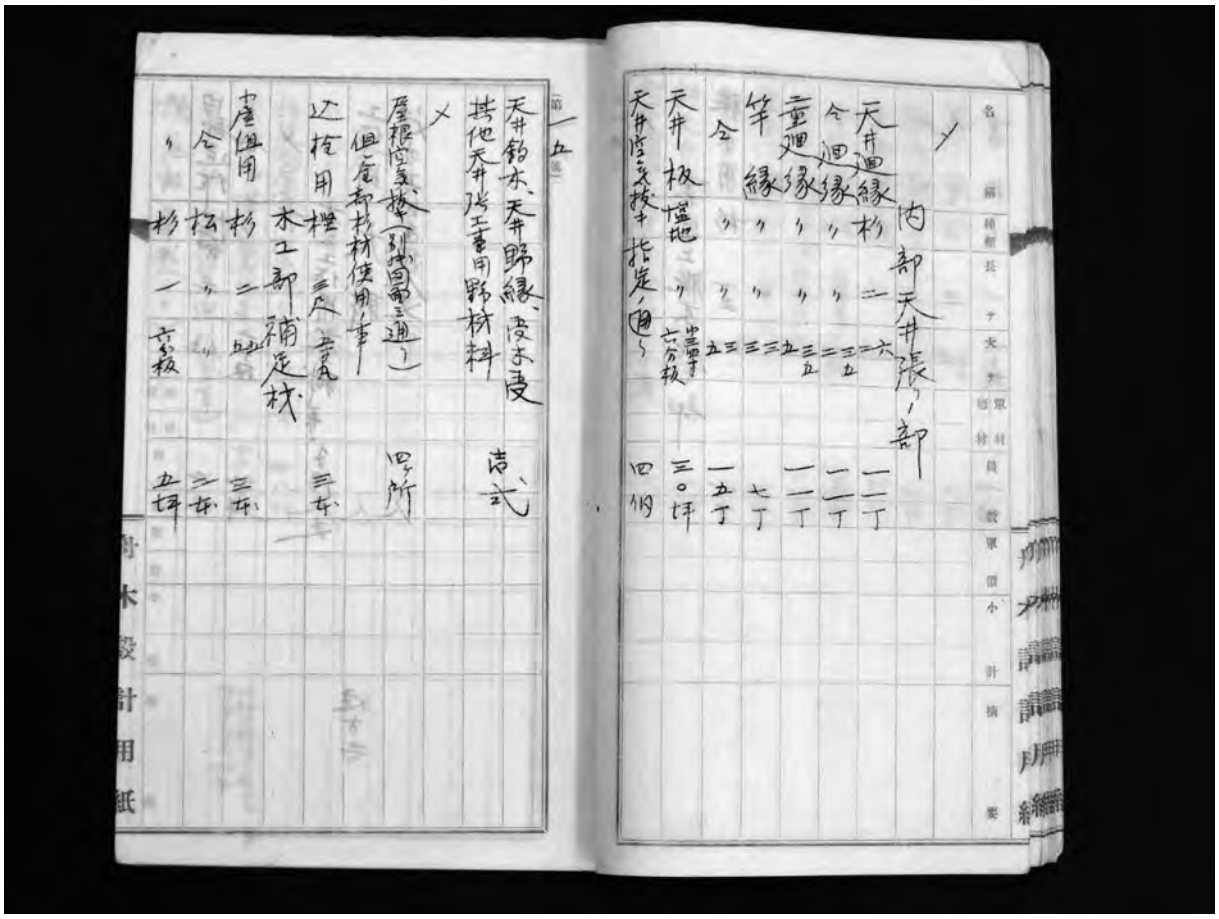
敷居レール 鉄車 共他附属品一切 貳枚

高九尺幅中半間 錠ヲ共

窓外面鉄柵 鉄製高 五寸

巾一尺八寸(別地図面ニ通リ) 四ヶ所

設計書

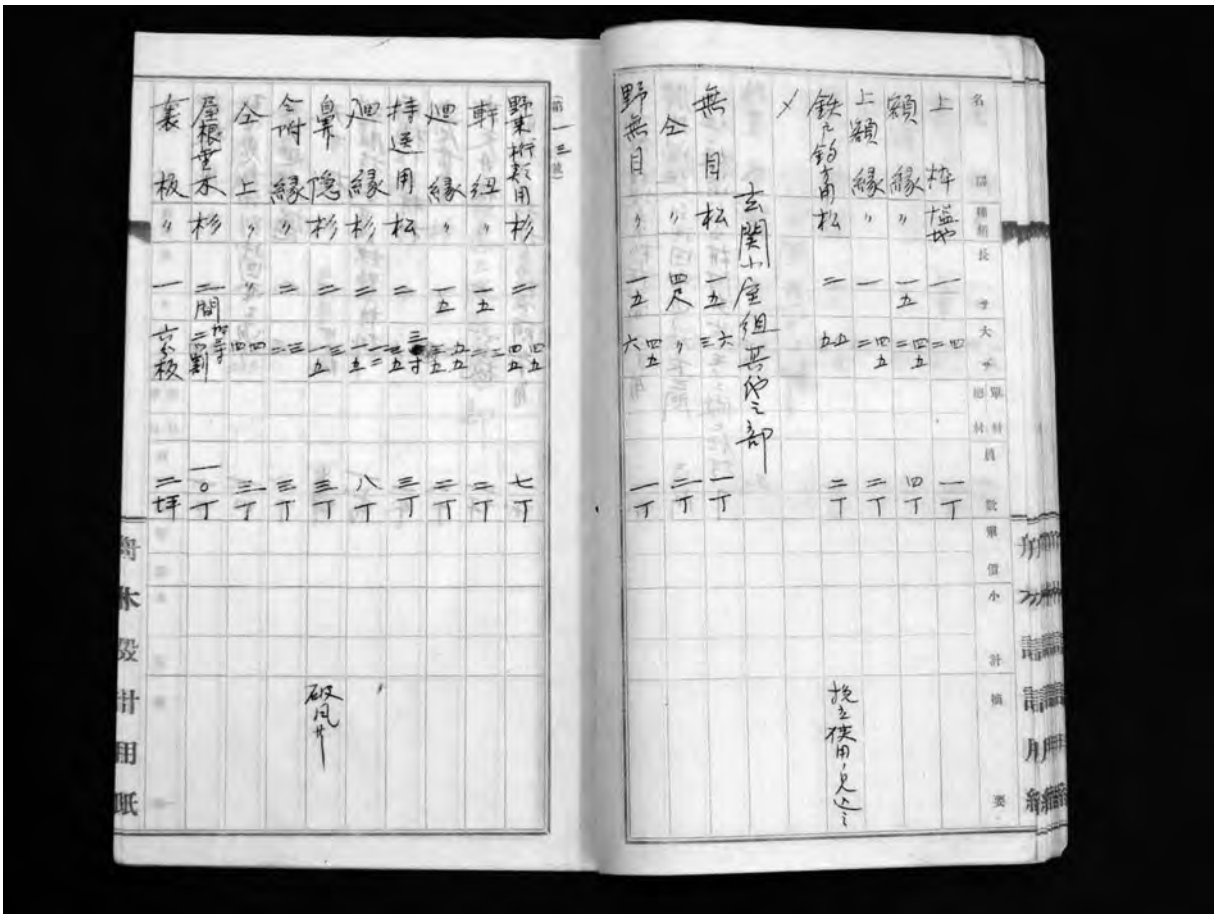


名稱	種類	長サ	大サ	單位	材料費	工賃	單價	小計	摘要
〃									
内部天井張ノ部									
天井廻縁	杉	二六			一一丁				
〃 廻縁	〃	〃	三五		一一丁				
〃 廻縁	〃	〃	三五		一一丁				
竿縁	〃	〃	三五		七丁				
〃	〃	〃	三五		一五丁				
天井板	檜地	〃	中巾三寸 六分板		三〇坪				
天井隅ニ丸板ヲ指定ノ通リ					四個				

名稱	種類	長サ	大サ	單位	材料費	工賃	單價	小計	摘要
天井鉋水、天井縁、皮木及其他天井張工事用野材料							壱式		
〃									
屋根隅丸桧（別図第三通ノ但金部杉材使用事）							四ヶ所		
辺柱用檜		三尺	五寸九		三本				
木工部補足材									
中屋但用	杉	二	四		三本				
〃	松	〃	〃		二本				
〃	杉	一	六寸板		五坪				

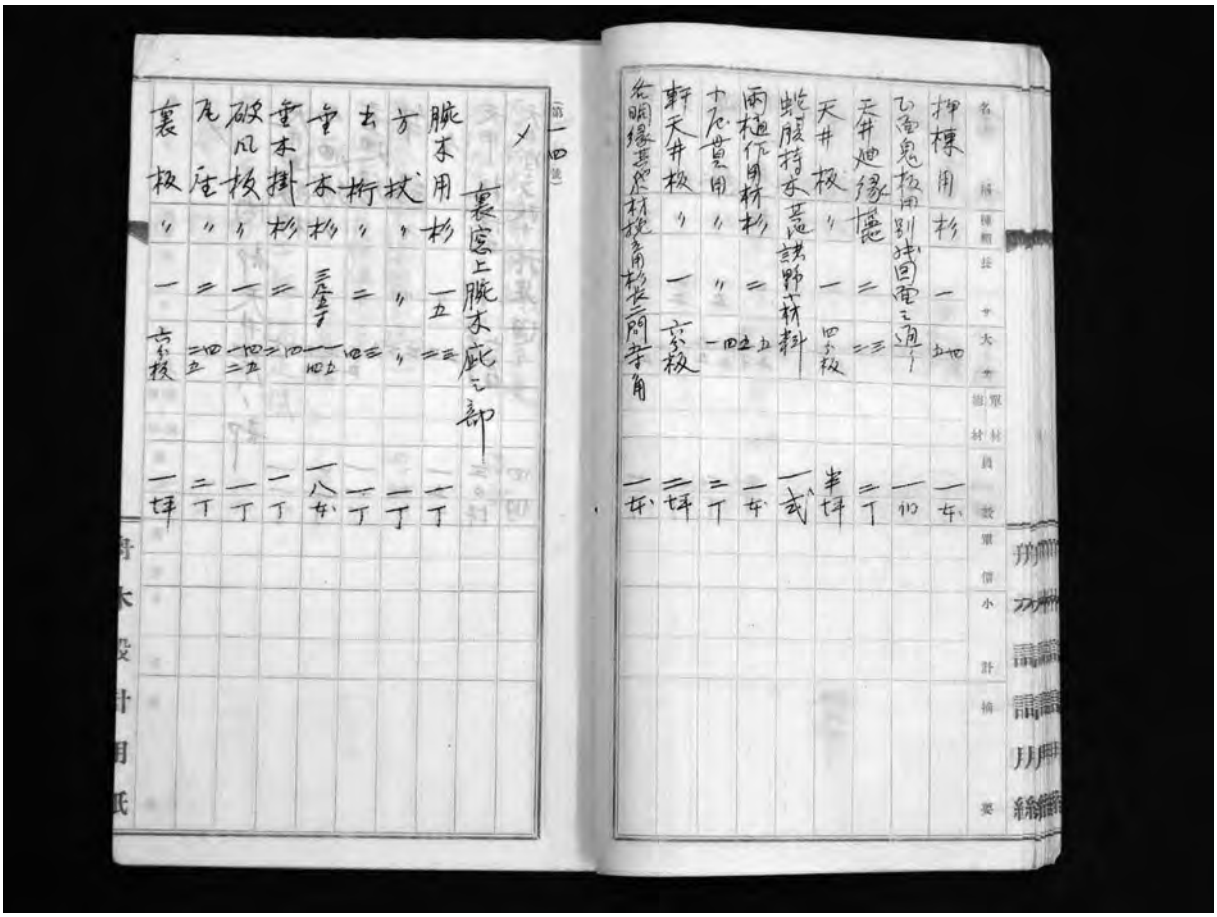
名稱	種類	長サ	大サ	單位	材料費	工賃	單價	小計	摘要
内部造作指図									
〃			五五		二本				
〃		一	六寸板		二坪				
〃									
木工工作用大工職并手伝人夫						人	人	人夫	
工作用大工職									
建方其他手伝人夫								建方共	

名稱	種類	長サ	大サ	單位	材料費	工賃	單價	小計	摘要
屋根ニ部									
一金									
内訳									
杉皮葺	但井隅ニ合ス共材工共				四八坪				
屋根尾	隅谷製ニ付足				四十七面敷				
鬼板	大棟指足但別製事				二個				地坪三坪ニ付ニ個
隅鬼板	中棟〃				四個				隅鬼尾共一切



名称	種類	長さ	大さ	単位	材員	数量	単価	小計	摘要
上梯	檜	一	二四	〃	一	一丁			
額縁	〃	一五	二四五	〃	四	四丁			
上額縁	〃	一	二四五	〃	三	三丁			
鉄砲角松		二	九五		二	二丁			挽き使用ノ見込ミ
〃									
玄関小屋組其他ノ部									
無目松	〃	一五	三六	〃	一	一丁			
仝	〃	四尺	〃	〃	二	二丁			
野無目	〃	一五	六四五	〃	一	一丁			

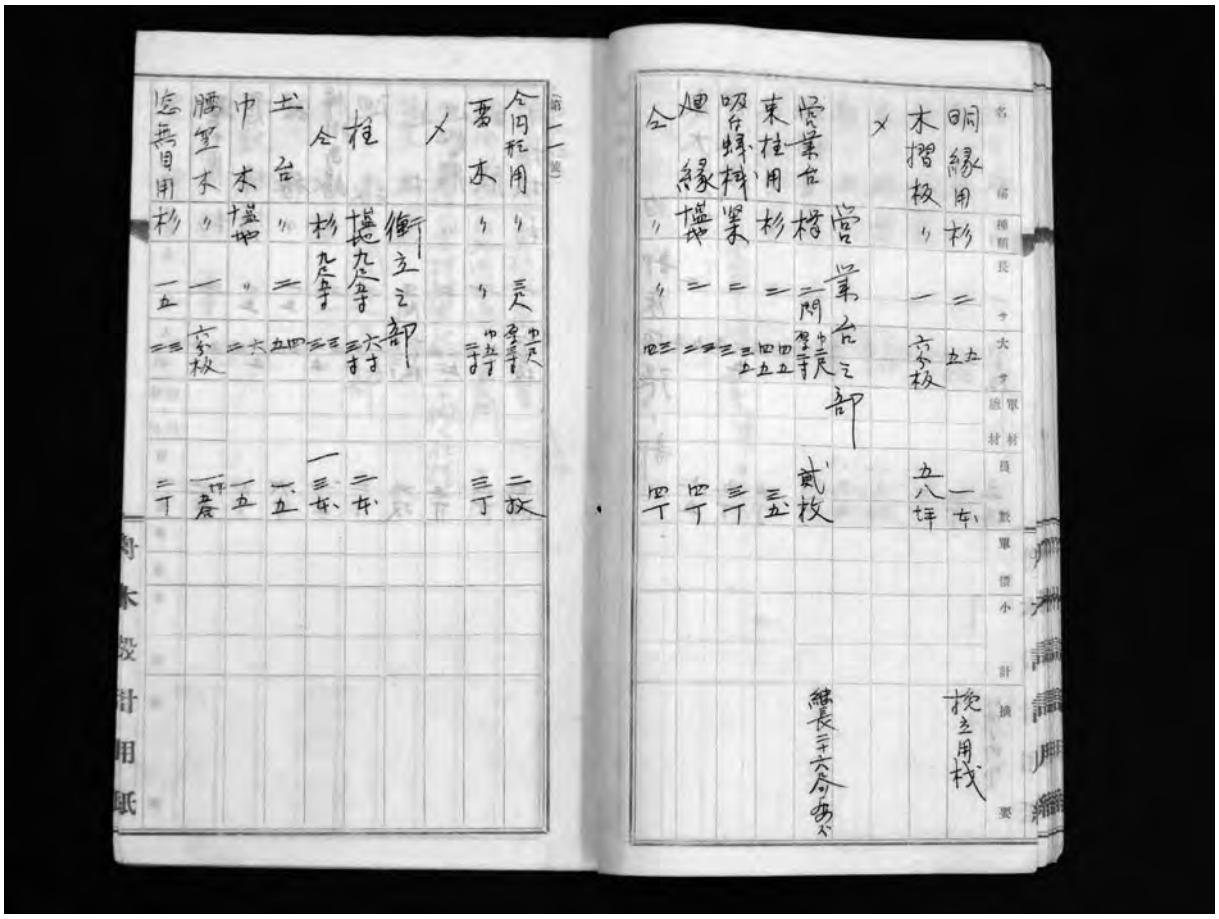
名称	種類	長さ	大さ	単位	材員	数量	単価	小計	摘要
野栗桁類用	杉	二	四五	〃	二	七丁			
軒紐	〃	一五	二四五	〃	二	二丁			
廻縁	〃	一五	二五	〃	二	二丁			
持送用	松	二	三寸	〃	二	三丁			
廻縁	杉	二	一五	〃	二	八丁			
鳥居	檜	二	一五	〃	二	三丁			破風ヤ
仝附縁	〃	二	二四	〃	二	三丁			
仝上	〃	二四	二四	〃	二	三丁			
屋根垂木	杉	二間半	二四割			一〇丁			
裏板	〃	一	京板			二坪			



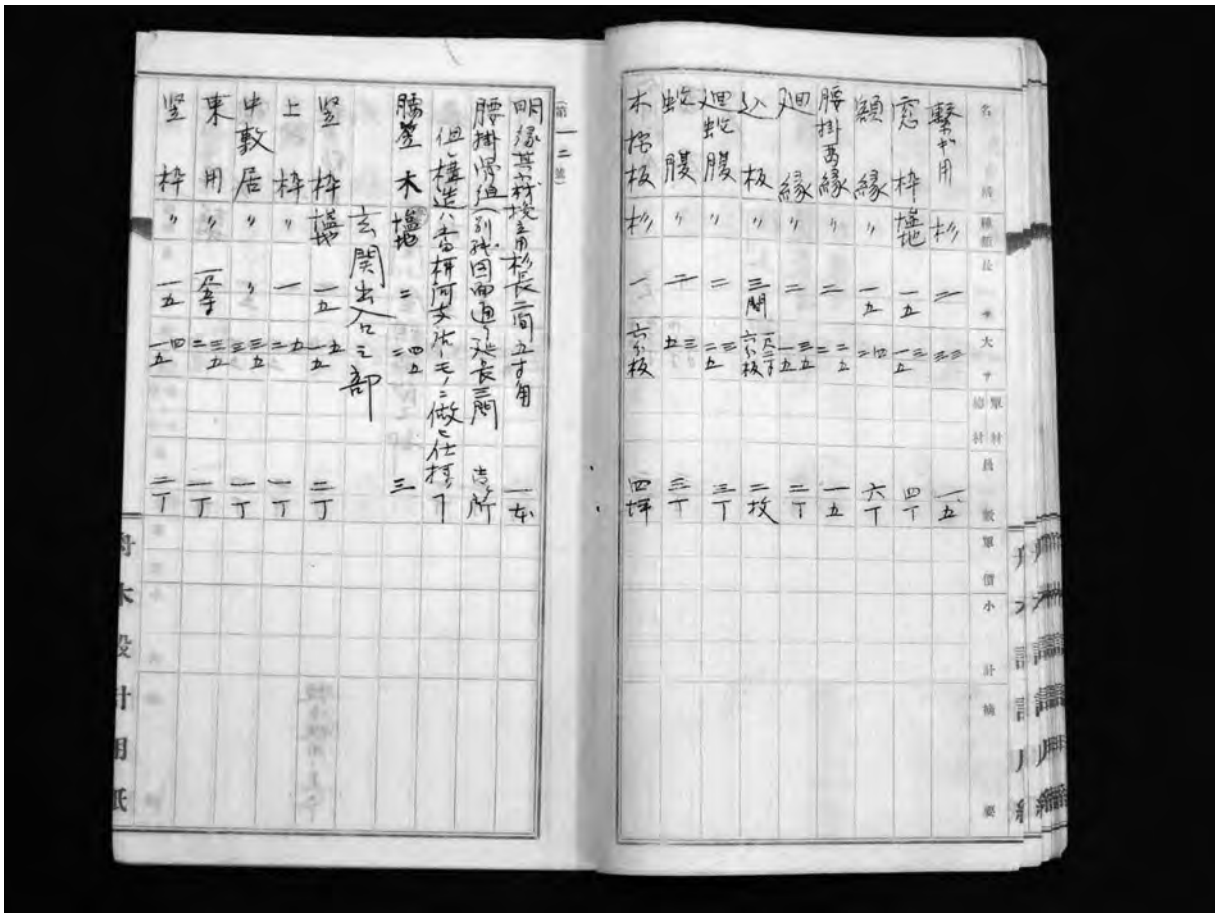
名称	種類	長さ	大さ	単位	材員	数量	単価	小計	摘要
柳棟用	杉	一	五四			一坪			
乙部鬼板用別持回廊ニ通ス						一四			
天井廻縁懸	〃	二	二三			二丁			
天井板	〃	一	四京板			半坪			
蛇腹持木造誘野材料						一式			
両廻作用材	杉	二	一四五			一坪			
十尺貫用	〃	〃				二丁			
軒天井板	〃	一	京板			二坪			
各隅縁其他材挽角杉長二間半角						一坪			

名称	種類	長さ	大さ	単位	材員	数量	単価	小計	摘要
〃									
裏窓上脇木庇ニ部									
脇木用	杉	一五	二二			一丁			
方杖	〃	〃	〃			二丁			
古桁	〃	二	一四二			一丁			
垂木	杉	三五寸	一四五			一八本			
垂木掛	杉	二	二四			一丁			
破風板	〃	一	一四五			一丁			
庇	〃	二	二四五			二丁			
裏板	〃	一	京板			一坪			

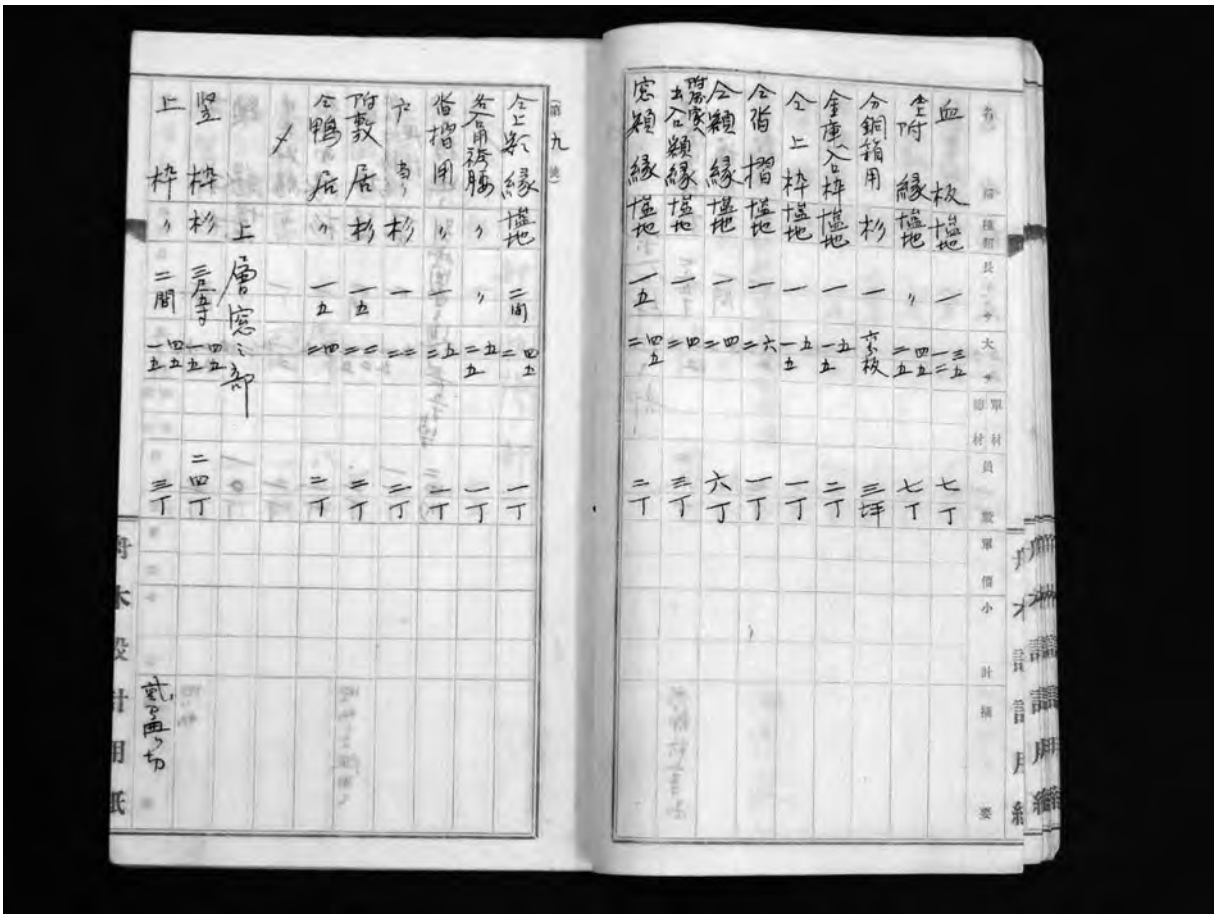
設計書



名称	種類	長サ	大サ	総材長	数量	単価	小計	摘要
明縁用	杉	二	五五	一五	一五			
木摺板	〃	一	六分板	九八坪				挽之用桟
〃								
當業台	當業台之部							
格	〃	二間	五尺	貳枚				總長二十六尺あり
東柱用	杉	二	四五	三五				
吸付蟻桟	〃	二	三五	三丁				
廻縁	〃	二	二	四丁				
仝	〃	二	四三	四丁				
今回新用	〃	三尺	四尺	二枚				
西木	〃	〃	四五	三丁				
〃								
衝立之部								
柱	檜地	九分	六寸	二本				
仝	杉	九分	三三	一三本				
土台	〃	二	四	一五				
中木	檜地	〃	六	一五				
腰笠木	〃	一	六分板	一坪五厘				
迄無目用	杉	一五	二二	二丁				

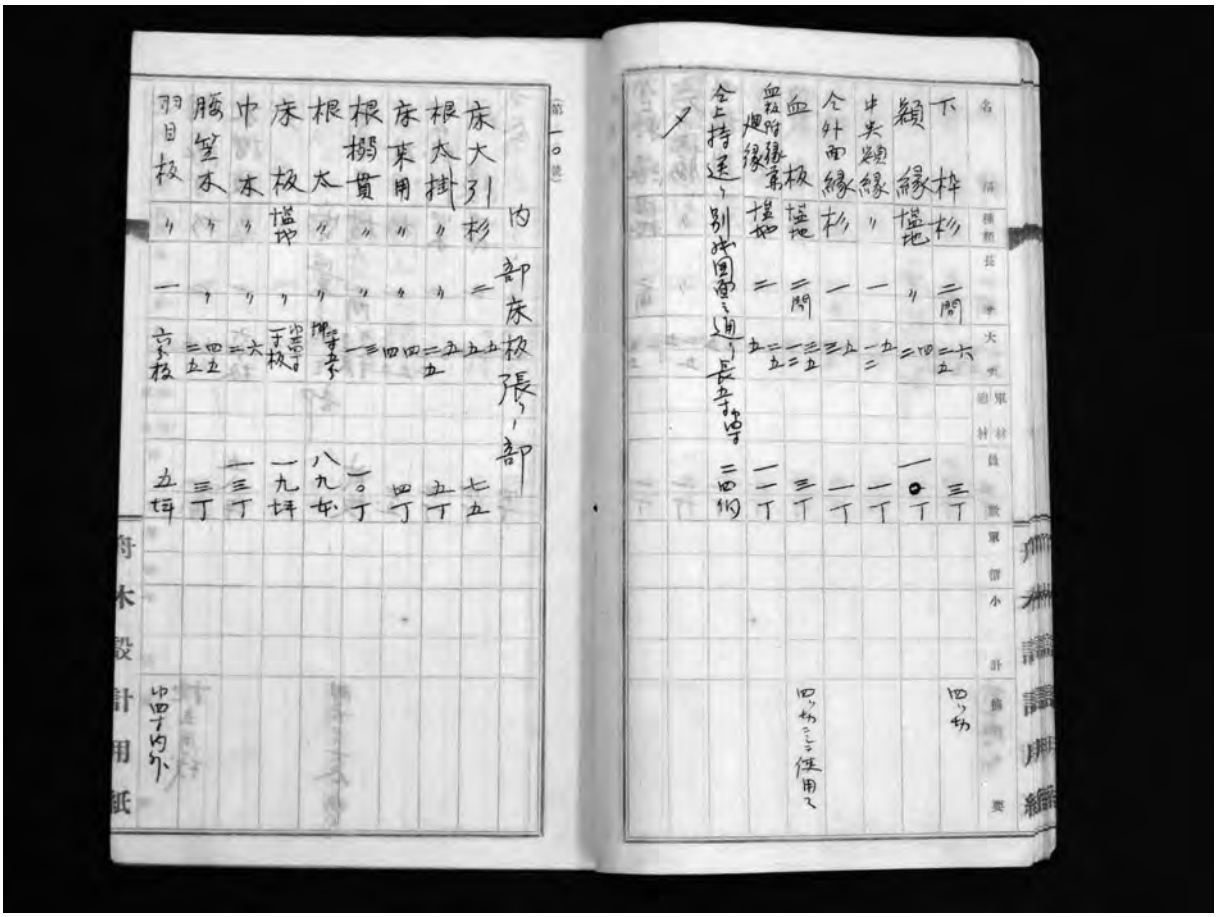


名称	種類	長サ	大サ	総材長	数量	単価	小計	摘要
明縁其他接合用	杉	一尺五寸角		一本				
腰掛當縁	〃	別紙図面通延長三間						
		但し檜造八畳棹何本ヲ必要ニ仕様ヲ						
腰笠	木	檜地	二四五	三				
玄関出入口之部								
竪	枠	檜	一五	二丁				
上	枠	〃	一	一丁				
中敷居	〃	〃	三五	一丁				
東用	〃	一尺	二五	一丁				
竪	枠	〃	一五	二丁				
繋ヶ用	杉	二	二二	一五				
窓枠	檜地	一五	一二五	四丁				
額縁	〃	一五	二四	六丁				
腰掛吾縁	〃	二	二五	一五				
廻縁	〃	二	一五	二丁				
入口	〃	三間	五寸	二枚				
廻蛇腹	〃	二	二二	三丁				
蛇腹	〃	二	五三	三丁				
木摺板	杉	一	六分板	四坪				



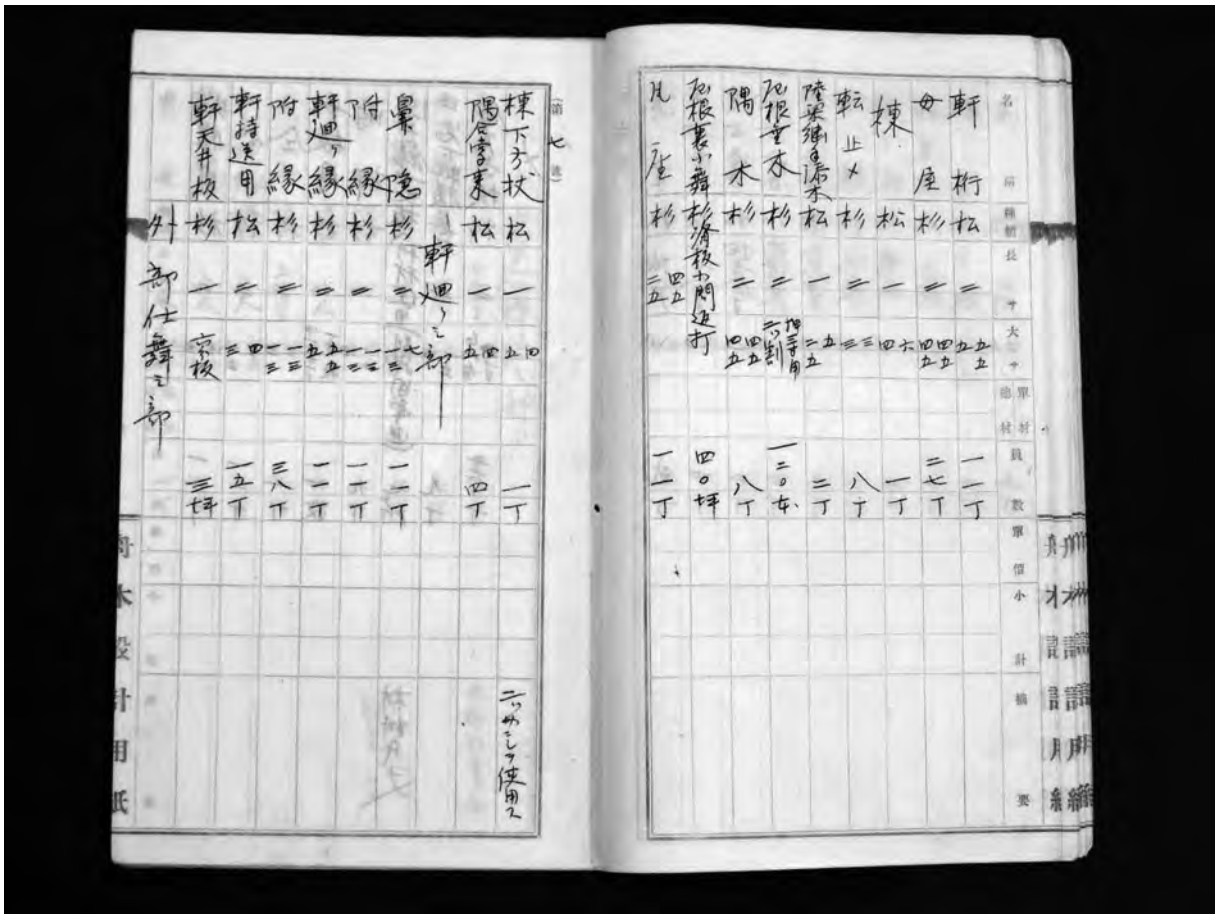
名称	種類	長さ	大さ	単材員数	単価	小計	摘要
血板	塩地	一	一三五	七丁			
仝附縁	塩地	〃	二四五	七丁			
分銅箱用	杉	一	京板	三坪			
金庫入枠	塩地	一	一五	二丁			
仝上枠	塩地	一	一五	一丁			
仝省摺	塩地	一	二六	一丁			
仝縁	塩地	一	二四	六丁			
階段仝縁	塩地	一	二四	三丁			
窓縁	塩地	一五	二四五	二丁			

名称	種類	長さ	大さ	単材員数	単価	小計	摘要
仝上新縁	塩地	二間	二四五	一丁			
各用箱脇	〃	〃	二五	一丁			
省摺用	〃	一	二五	一丁			
下枠	杉	一	二二	三丁			
附敷居	杉	一五	二二	三丁			
仝鴨居	〃	一五	二四	二丁			
〃							
上層窓ミ部							
竪枠	杉	三尺五寸	一四五	二四丁			
上枠	〃	二間	一四五	三丁			



名称	種類	長さ	大さ	単材員数	単価	小計	摘要
下枠	杉	二間	二六五	三丁			四ッ切
額縁	塩地	〃	二四	一〇丁			
中央額縁	〃	一	一九二	一丁			
仝外面縁	杉	一	二五	一丁			
血板	塩地	二間	二三五	三丁			四ッ切ニテ使用ス
血板附縁	塩地	二	二五	一丁			
仝上持送リ別ニ国産ニ通リ長サ六尺				二四枚			
〃							
内部床板張リ部							
床大引	杉	二	二五	七五			
根太掛	〃	〃	二五	五丁			
床束用	〃	〃	四	四丁			
根搦貫	〃	〃	一三	一〇丁			
根太	〃	〃	増サ五寸	八九坪			
床板	塩地	〃	巾三寸板	一九坪			
巾木	〃	〃	二六	一三丁			
脇笠木	〃	〃	二四五	三丁			
羽目板	〃	一	京板	五坪			巾四寸内外

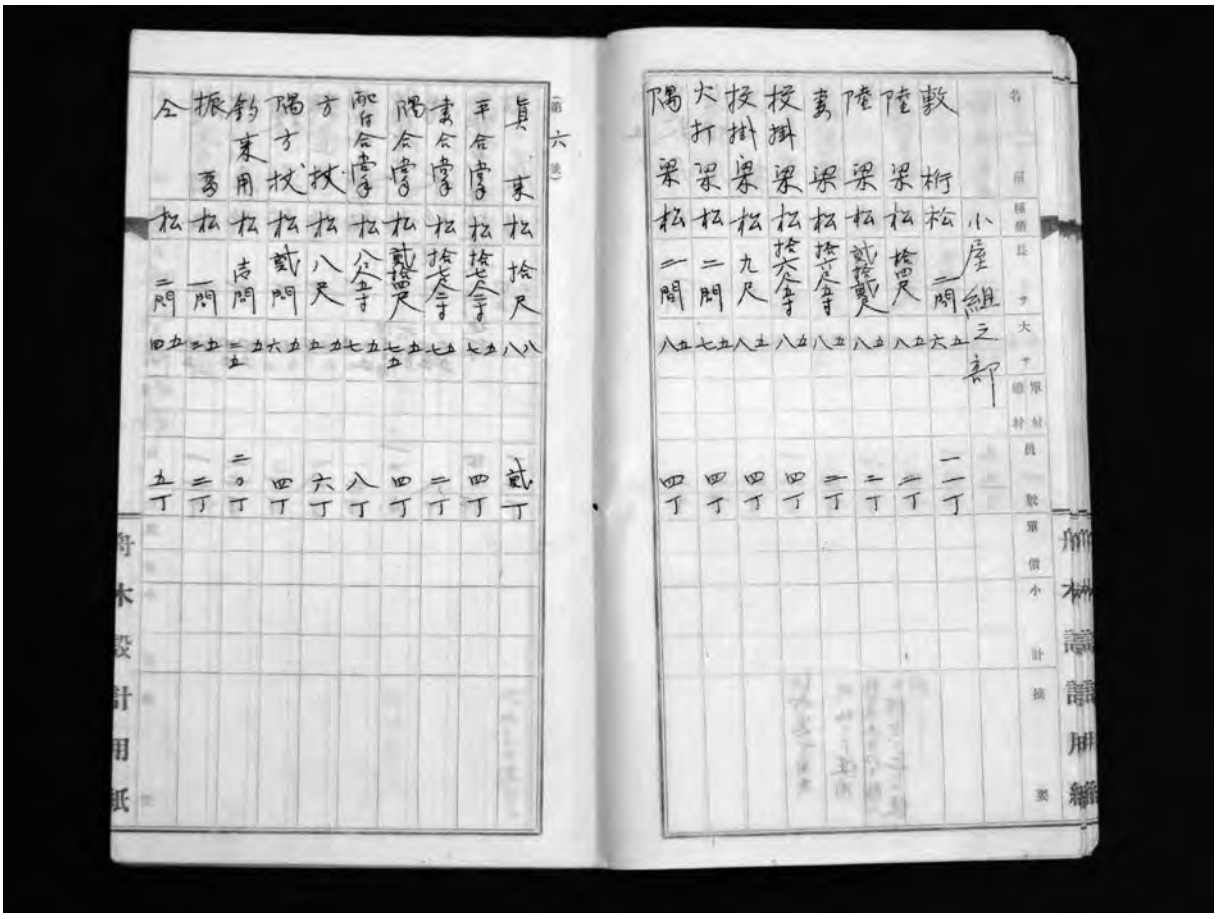
設計書



名	種類	長サ	大サ	単材	員数	単価	小計	摘要
軒桁	松	二	五五		一一丁			
母屋	杉	二	四五		二七丁			
棟	松	一	六		一丁			
転止メ	杉	二	三		八丁			
陸梁鎌手伝	松	一	二五		二丁			
砌根垂木	杉	二	四五		一三〇本			
隅木	杉	二	四五		八丁			
砌根裏ノ舞	杉	濟板ヲ間辺打			四〇坪			
見屋	杉	四五 二五			一一丁			
棟下ノ扶	松	一	四五		一丁			二ツ合シテ使用ス
隅合掌束	松	一	四五		四丁			
軒廻リ部								
鼠隠	杉	二	七二		一二丁			
附ケ縁	杉	二	一二		一一丁			
軒廻リ縁	杉	二	一五		一二丁			
附縁	杉	二	一二		三八丁			
軒詰迄用	松	二	四		一五丁			
軒天井板	杉	一	京板		三七坪			
外部仕舞ヲ部								

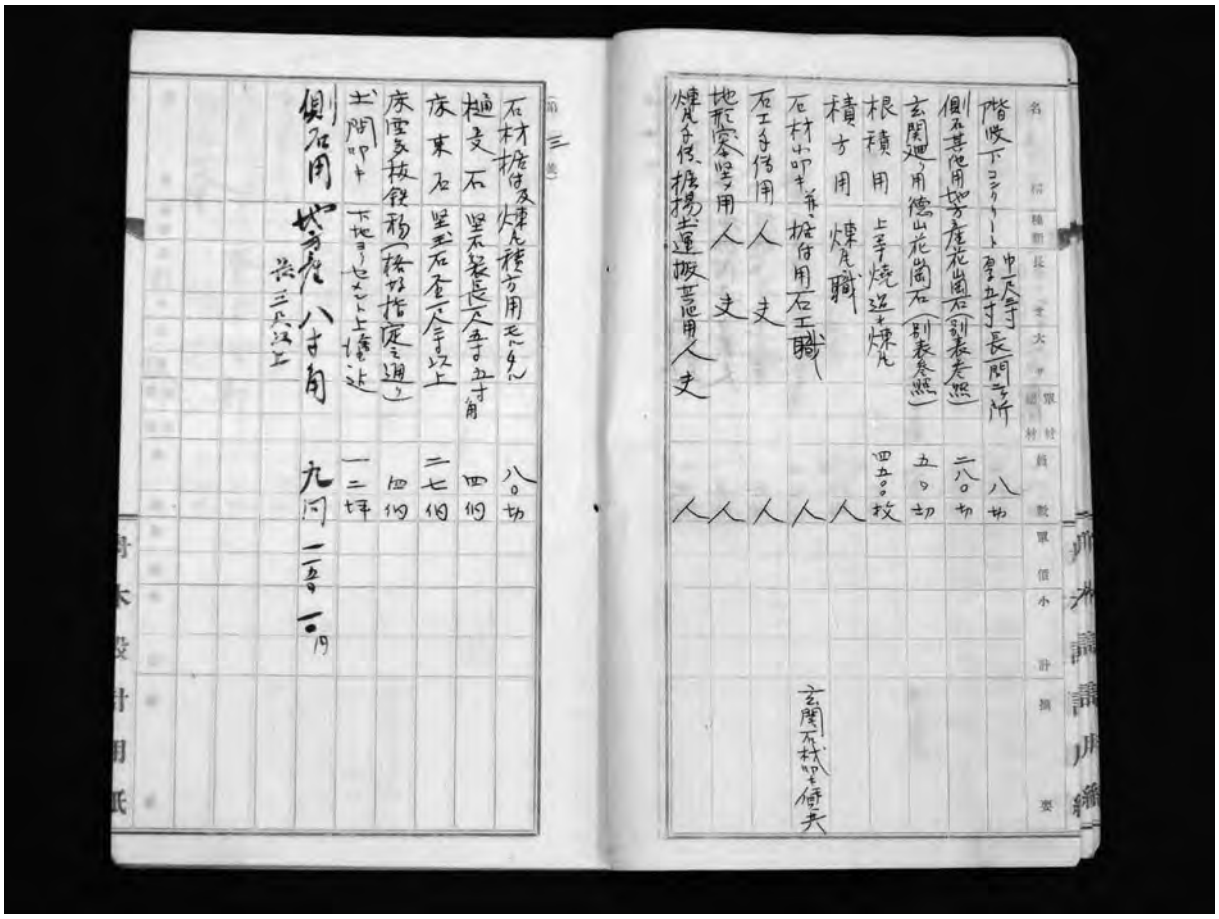
名	種類	長サ	大サ	単材	員数	単価	小計	摘要
蛇腹用	杉	二	四二		一一丁			
仝	杉	二	二五		一二丁			
仝	杉	二	二		一丁			
垂板用	杉	二	一寸板		一枚			
雨押	杉	二	一四二		九丁			
窓上鏡下地板（杉材使用別紙図面通）					七所			材料代丈
中窓下蛇腹長板	杉	二	一五		九丁			
壁見長板	杉	二	六八分		二六〇丁			
窓出石枠組ヲ部								
矢筈窓ノ枠	松	七尺五寸	一五		二八丁			巻節材上等品
仝上枠用	松	一間	二五		七丁			
仝中敷居	松	一	二五		七丁			
仝下枠	檜	一	二六		七丁			
縁縁用	檜	八尺	二四		一四丁			
仝上	檜	五尺五寸	一四		七丁			
中央縁縁	檜	八尺	一六五		七丁			
外部中央縁縁	杉	八尺	二六五		七丁			
窓台	杉	七尺	五五		一丁			

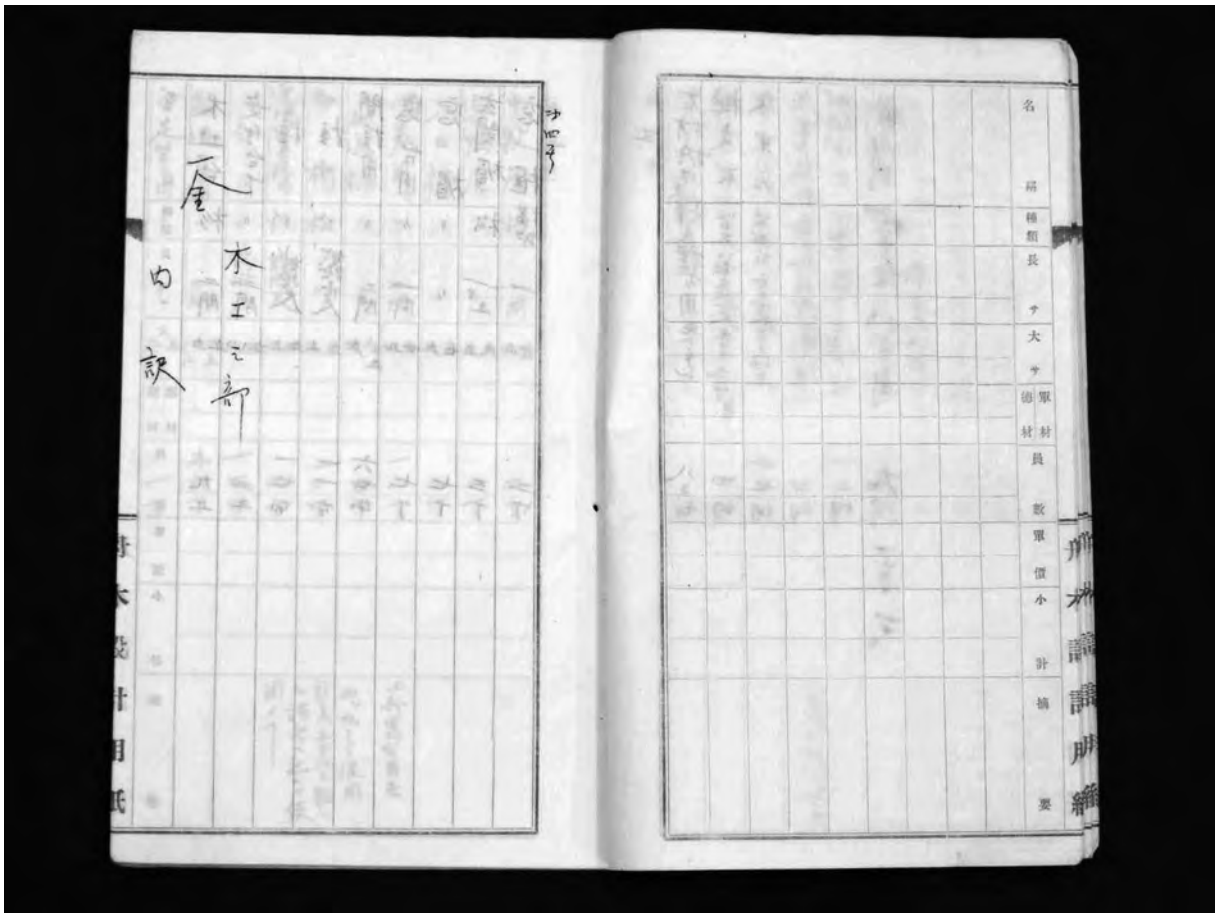
名稱	種類	長サ	大サ	單位	總材員	數量	單價	小計	摘要
木土台	杉	二間	五五			九五			
安付台下	〃	二間	四五			二五			
柱	〃	貳尺	五五			一七ヶ			
柱	〃	貳拾尺	五五			一一ヶ			
間柱用	〃	二間	五五			六七ヶ			
窓台用	〃	一間	四五			七丁			
窓楣	〃	〃	七五			七丁			
玄関楣	松	一間五	八五			三丁			
窓框	〃	一	六五			二丁			
中敷居	杉	一間	五五			二丁			
窓鴨居	〃	〃	六五			二丁			
入口楣	〃	〃	六五			二丁			
明尾用	〃	二間	四五			一二丁			上部窓台用ヒ
上部窓楣	〃	〃	四五			四丁			四〃ヨリ使用
脚	桁	〃	六五			一〇丁			桂長五寸以上脚ハ桁合ノ之ヒ使用ノ
定規貫桂用	杉	貳拾尺	四四			三ヶ			
仝	〃	貳拾尺	二四			一四ヶ			
鼠通貫用	〃	二間	一四五			五六丁			
合足巻ノ用	〃	〃	五五			一丁			

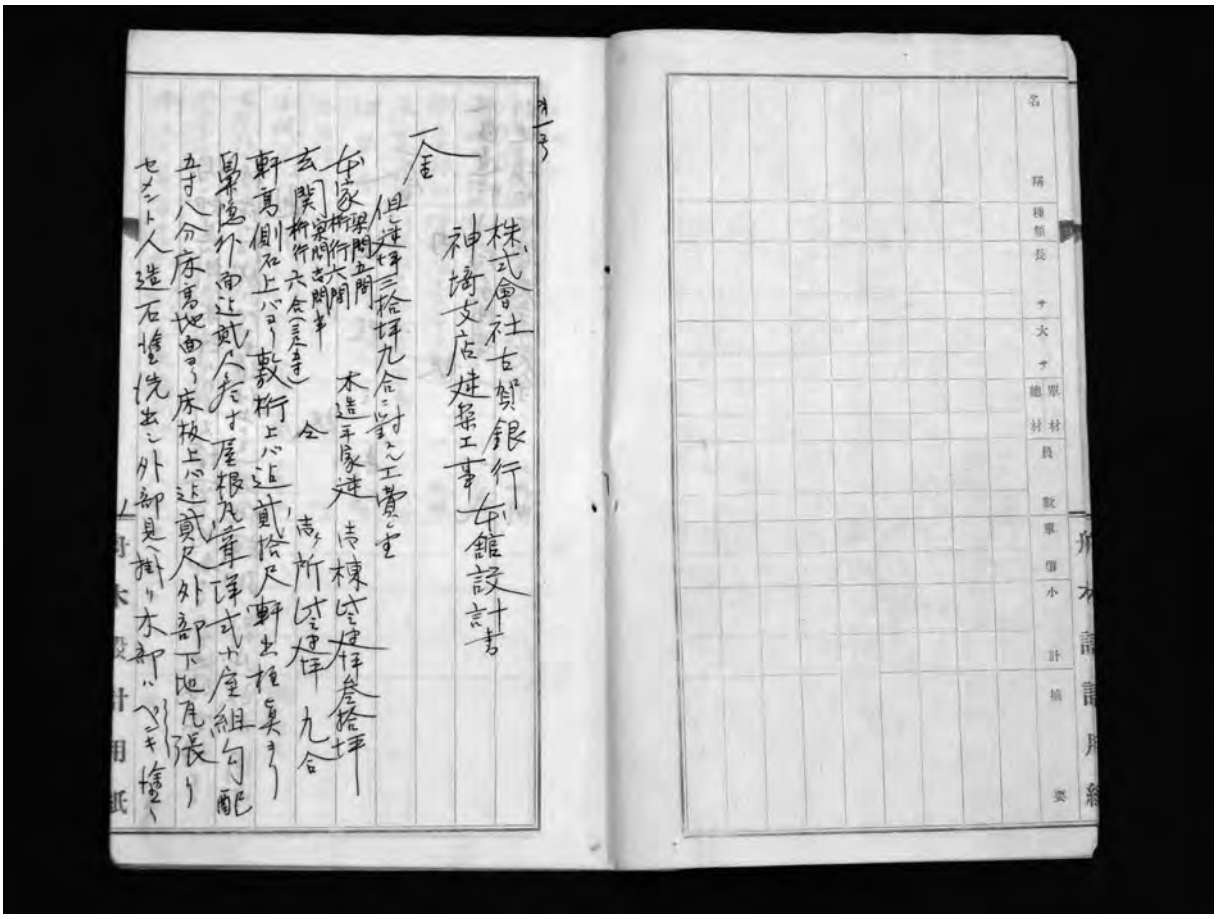


名稱	種類	長サ	大サ	單位	總材員	數量	單價	小計	摘要
敷	桁								
陸	梁	二間	小屋組之部			一一丁			
陸	梁	拾四尺	八五			二丁			
陸	梁	貳拾貳尺	八五			二丁			
妻	梁	拾七尺寸	八五			二丁			
投掛	梁	拾六尺寸	八五			四丁			
投掛	梁	九尺	八五			四丁			
大打	梁	二間	七五			四丁			
陽	梁	松	八五			四丁			
眞	束	松	拾尺			貳丁			
平合掌	松	拾七尺寸	七五			四丁			
妻合掌	松	拾七尺寸	七五			二丁			
隅合掌	松	貳拾尺	七五			四丁			
配付合掌	松	八尺五寸	七五			八丁			
方	杖	八尺	七五			六丁			
隅方	杖	貳間	六五			四丁			
釣束用	松	壱間	二五			二〇丁			
振	松	一間	二五			二丁			
仝	松	二間	四五			五丁			

設計書







株式會社古賀銀行
神埼支店建築工事 本館設計書

一金

但建坪三拾坪九合ニ對スル工費ニ當

本家 梁間五間 桁行六間 木造平家建 吉棟 建坪 參拾坪

玄関 梁間吉間半 桁行六合(三尺五寸) 仝 吉所 建坪 九合

軒高側石上バヨリ敷桁上バ迄貳拾尺軒出桁眞ヨリ

梟隠外面迄貳尺參寸屋根瓦葦洋式小屋組勾配

五寸八分床高地面ヨリ床板上バ迄貳尺外部下地瓦張リ

セメント人造石壇洗出シ外部見掛リ木部ハペンキ塗ヽ

内部見掛リ木部ハワニス塗(尤も内部ニテ、天井廻縁、窓枠等

杉、或ハ松材ハペンキ塗仕上ト云)其他詳細ハ別紙設計図面

ニ通リ

内訳

一金 地形ニ部

内訳

水盛遣形 杭料手間共 一式

側廻リ根切 布掘深二尺五寸巾二尺八寸 二二間

玄関柱下根切 坪掘深サ三尺巾三尺 長五尺 二ヶ所

営業台下根切 布掘深サ一尺巾貳尺 五間

衝立下根切 布掘深サ一尺巾一尺五寸 三間

床束下根切 坪掘深サ巾廿三尺五寸角 二七ヶ所

地堅用 川砂利(目潰入) 立 八坪

仝目潰用 川砂 立 三坪

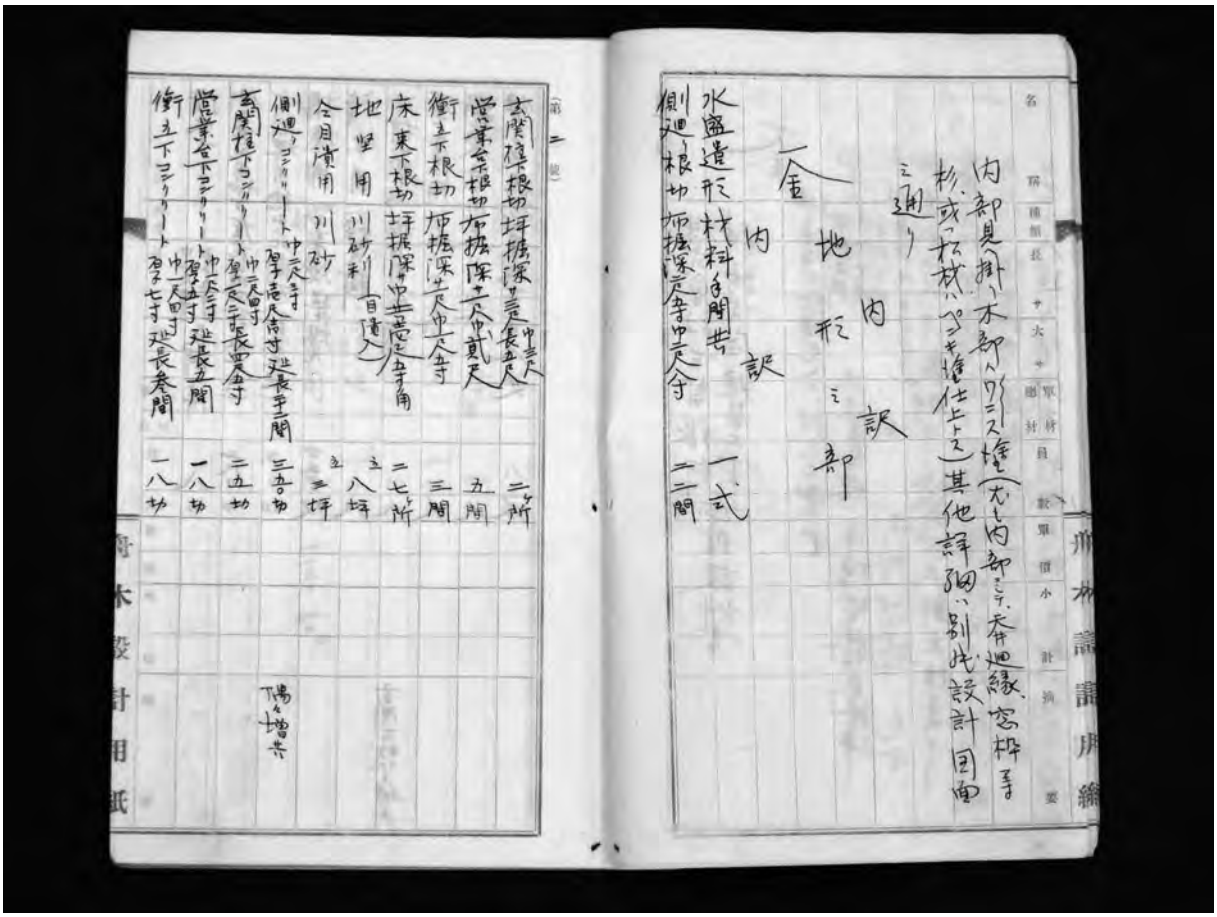
側廻リコンクリート 巾二尺三寸 厚三尺四寸 延長平二間 三五〇切

玄関柱下コンクリート 巾二尺四寸 厚二尺二寸 長四尺五寸 二五切

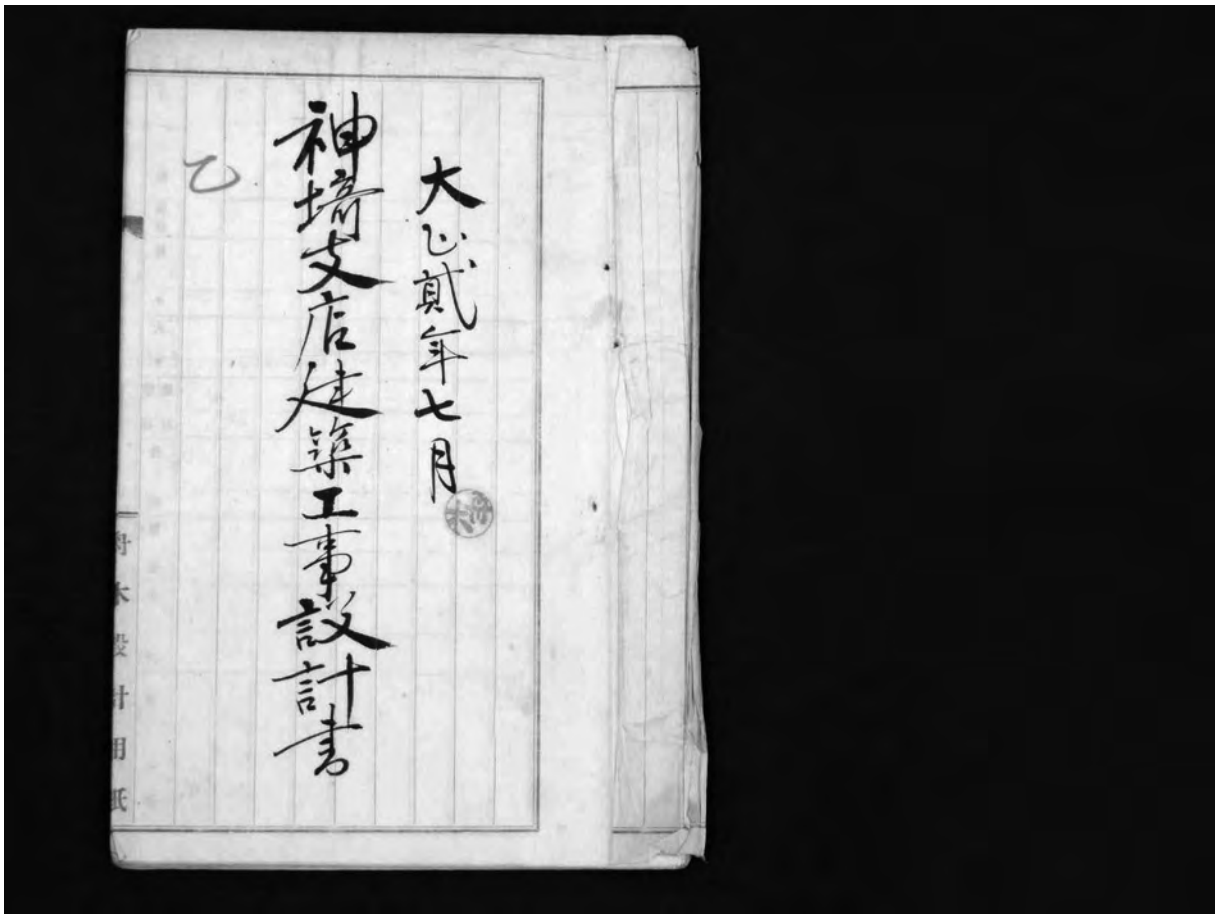
営業台下コンクリート 巾一尺三寸 厚五寸 延長五間 一八切

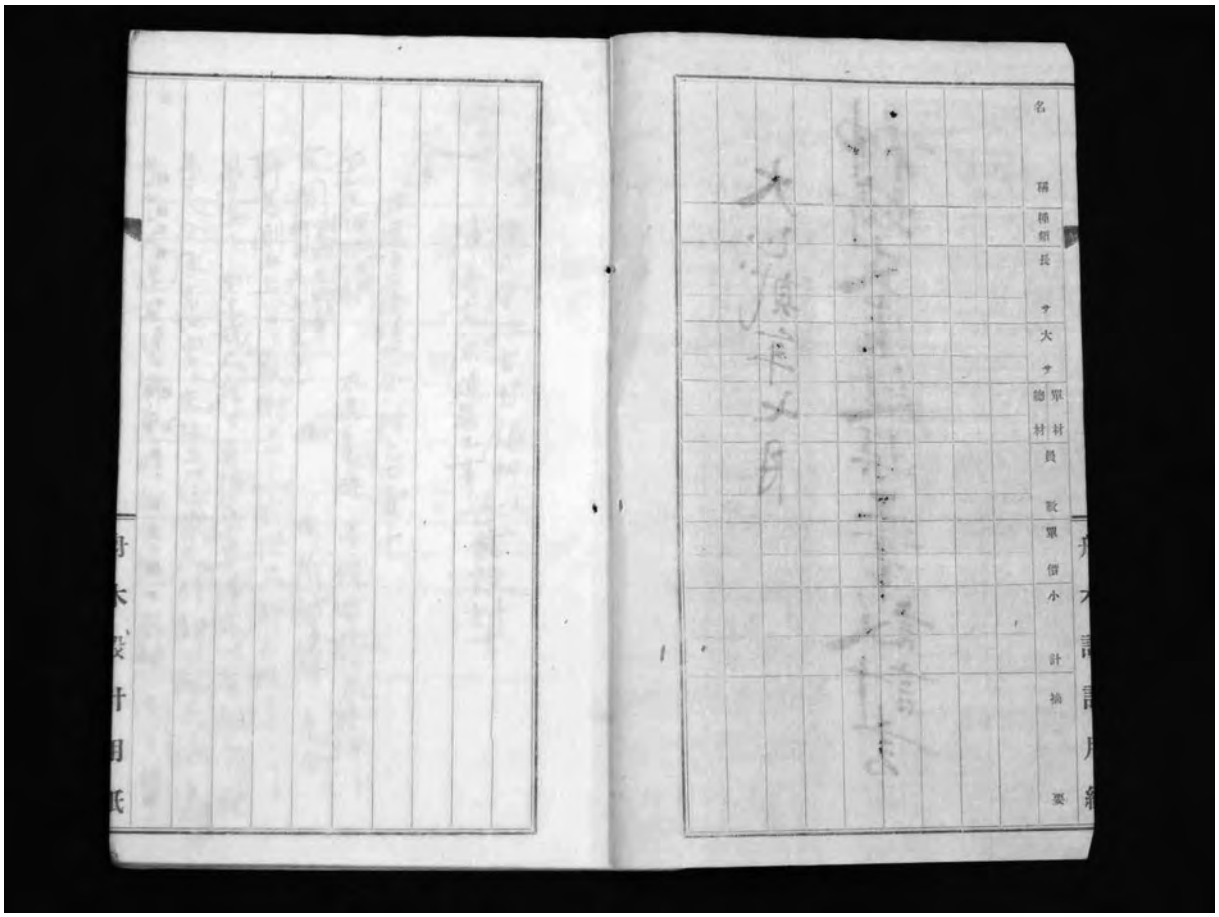
衝立下コンクリート 巾一尺四寸 厚七寸 延長參間 一八切

陽々増共



設計書





修理前-1　外観（南西より）

修理前-2　外観（北東より）

修理前-3　柱頭飾り

修理前-4　ドーマ窓

修理前-5　外壁

修理前-6　小屋組

修理前-7　天井

修理前-8　応接室（旧レントゲン室）

修理前

修理前-9　瓦壁

修理前-10　上げ下げ窓の滑車

修理前-11　鉄格子の跡

修理前-12　渡り廊下（本館外壁が残存）

修理前-13　渡り廊下（本館窓が残存）

修理前-14　渡り廊下の当初の屋根勾配

修理前-15　金庫室の壁

修理前-16　金庫室内部

仮-1　外部足場（北西より）

仮-2　内部足場

仮-3　外部仮設（４月）

仮-4　上部足場解体

基-1　　基礎掘削

基-2　基礎下栗石敷き込み

基-3　外部基礎配筋

基-4　コンクリート打設

土工

基-5　既設束石移動前調査

基-6　既設束石状況

基-7　あと施工アンカー

基-8　内部配筋（業務室）

基-9　土間コンクリート打設

土-10　内部立ち上がり（応接室）

基-11　内部立ち上がりコンクリート打設

基-12　束石据付

鉄-1　工場検査

鉄-2　鉄骨取付け状況

鉄-3　鉄骨接続状況

鉄-4　アンカーボルトセット完了

鉄-5　支柱施工状況

鉄-6　支柱無収縮グラウト充填

鉄-7　　隔て壁上部 取付け

鉄-8　隔て壁上部 取付け状況

木工

木-1　新規木下地組

木-2　開口部塞ぎ

木-3　外壁開口廻り　飾り下地

木-4　焼印

木-5　木筋違い補強材

木-6　　木補強金物　施工状況

木-7　天井板貼り

木-8　天井内断熱材　敷込み

木-9　壁下地受け材 取付け

木-10　木板下地完了

木-11　プラスターボード貼り

木-12　既存腰板貼り

木-13　束接着剤固定

木-14　かすがい金物固定

木-15　床フローリング施工状況

木-16　ドーマ窓木飾り施工

石工・屋根

石-1　既存石材清掃

石-2　既存石材清掃（サビ取り）

石-3　玄関廻り補修

石-4　玄関ポーチ石貼り

屋-1　既存瓦　撤去状況

屋-2　既存瓦　選別状況

屋-3　既存瓦　選別清掃状況

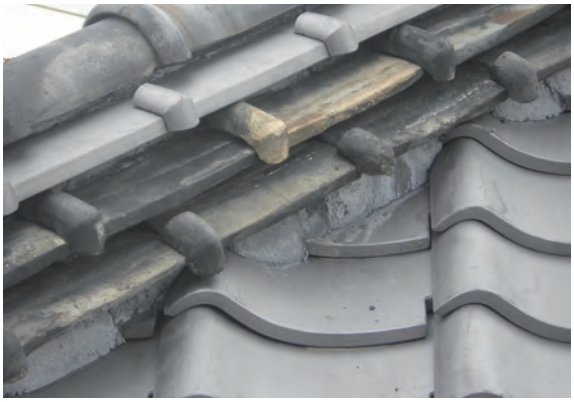
屋-4　木下地取替え

屋-5　瓦葺き状況（既存瓦使用）

屋-6　新規使用瓦（城島瓦今村製）

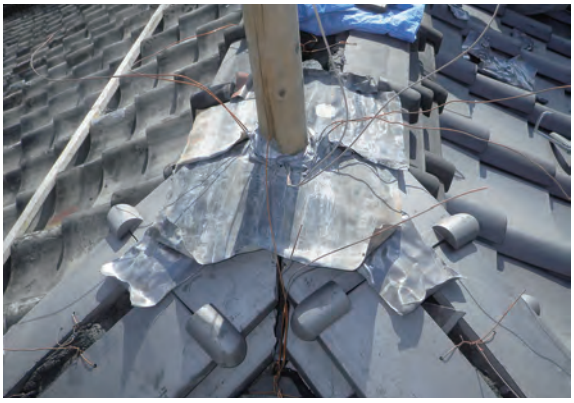
屋-7　新規瓦葺き

屋-8　鬼瓦葺き



屋-9　仕上げ補修

屋-10　鬼瓦廻り漆喰巻



屋-11　棟飾り

屋-12　棟飾り台座設置

屋根

屋-13　瓦葺き施工完了

屋-14　ドーマ窓屋根飾り

屋-15　鬼瓦工場検査

屋-16　玄関屋根鬼瓦（城島瓦今村製）

屋-17　玄関屋根鬼瓦　設置状況

屋-18　玄関屋根鬼瓦　設置状況

屋-19　東面庇木下地組

屋-20　東面瓦葺き

左-1　外壁高圧洗浄

左-2　外壁高圧洗浄

左-3　外壁クラック Ｖカット

左-4　外壁クラック 樹脂充填

左-5　既存壁下地瓦補修

左-6　外壁洗い出しサンプル照合

左-7　外壁洗い出し 下塗り

左-8　外壁洗い出し 上塗り仕上げ

左官

左-9　外壁洗い出し施工状況（飾り部）

左-10　玄関ボーダー施工状況

左-11　内壁上部 PB ジョイントボーダー施工

左-12　内壁上部 PB 仕上げ塗り

左-13　内壁下部　下地メッシュ貼り

左-14　内壁下部　上塗り仕上げ

左-15　土間モルタル塗り完了

左-16　既存土間清掃

塗-1　既存色残存（ドーマ窓）

塗-2　既存色残存（窓枠）

塗-3　塗膜調査（玄関）

塗-4　塗膜調査（玄関）

塗-5　塗膜調査（東面窓枠）

塗-6　塗膜調査（金庫室）

塗-7　仕上げ色現地調査・決定状況

塗-8　色サンプル決定品（床塗装）

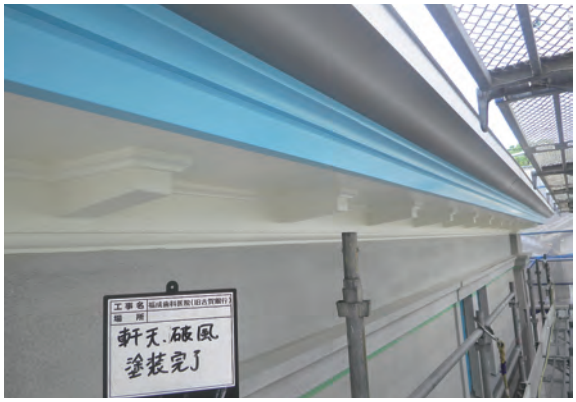
塗装

塗-9　色サンプル決定品（木部塗装）

塗-10　木部塗装（腰壁）

塗-11　床フローリング塗装

塗-12　鉄骨塗装



塗-13　外部木部塗装

塗-14　窓塗装

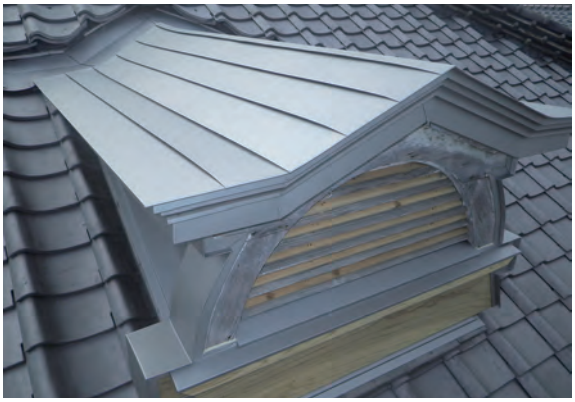
塗-15　庇木部塗装

塗-16　鉄扉塗装

金-1　軒二重樋施工

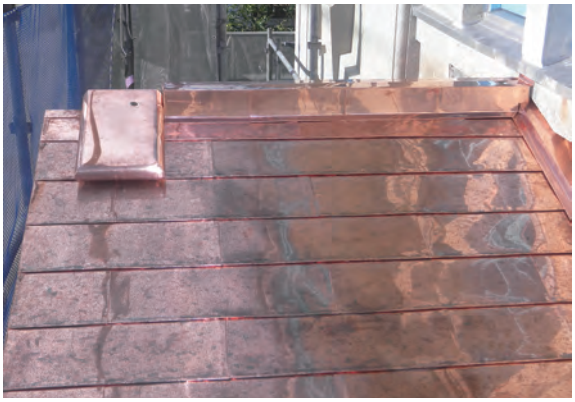
金-2　東側出入り口庇施工状況

金-3　東側窓庇水切り施工状況



金-4　ドーマ窓施工

金-5　床下換気口（内側から）



金-6　玄関屋根銅板貼り

金-7　窓格子施工完了

金-8　フェンス加工状況

その他

その他-1　　建付け調整

その他-2　ガラス入れ

その他-3　シーリング施工状況

その他-4　鉄骨シーリング施工状況

その他-5　鉄扉設置

その他-6　カウンター設置状況

その他-7　館名板

その他-8　真砂土舗装

木-1　　二階撤去

木-2　小屋組部材施工状況

木-3　屋根裏施工状況

木-4　屋根施工状況

木-5　渡り廊下屋根小屋組

木-6　渡り廊下　既設取合い状況

木-7　木補強金物取付け

木-8　壁下地組

金庫室（屋根）

屋-1　屋根下地

屋-2　屋根下地ルーフィング貼り

屋-3　瓦葺き施工状況

屋-4　瓦葺き施工完了

屋-5　鬼瓦施工完了

屋-6　渡り廊下下地

屋-7　渡り廊下ルーフィング貼り

屋-8　渡り廊下瓦葺き施工状況

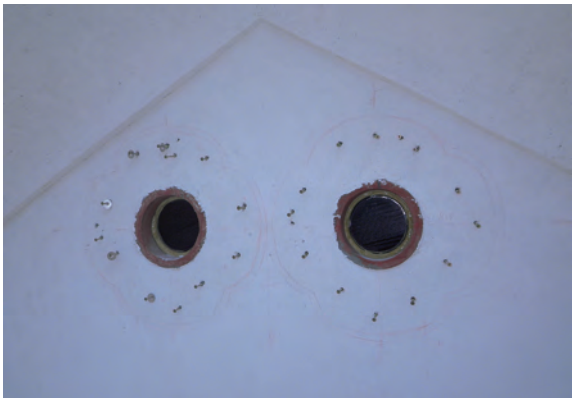
左-1　換気用管

左-2　換気用管取付け

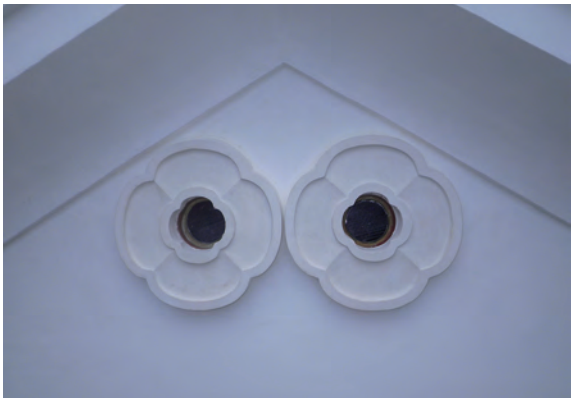
左-3　下塗り

左-4　中塗り

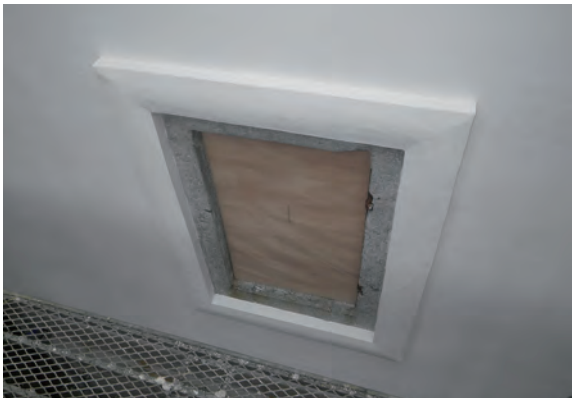
左-5　換気飾り施工前



左-6　換気飾り　アンカー打ち



左-7　換気飾り　漆喰飾り完了



左-8　開口部　だき補修完了

金庫室（左官ほか）

左-9　上塗り仕上げ完了

左-10　黒色塗装仕上げ

左-11　土間補修

左-12　木部塗装

石-1　既存石材清掃

金-1　　既存鉄扉

金-2　既存鉄扉　修繕完了

金-3　窓鉄格子

史料-1　平成21年外観（南西より）

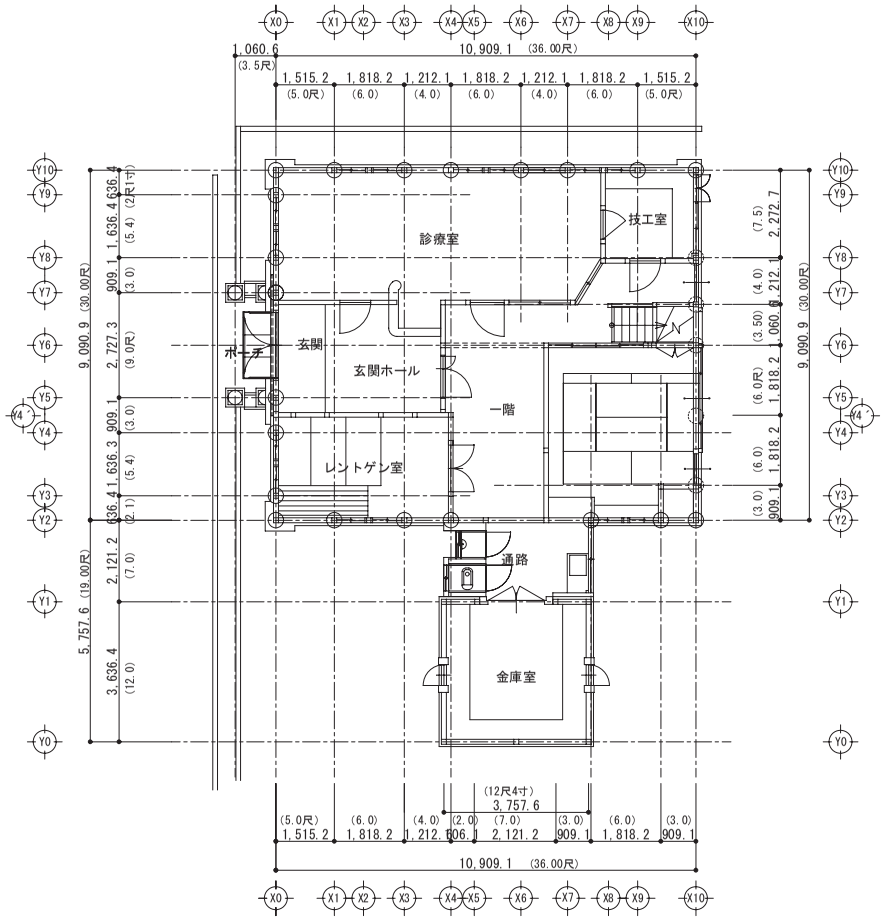
史料-2　平成21年外観（北東より）

史料-3　外観（東より）（手前は平成21年に解体した母屋）

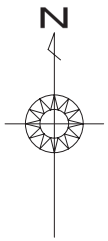
史料-4　屋根（東より）（手前は平成21年に解体した母屋）

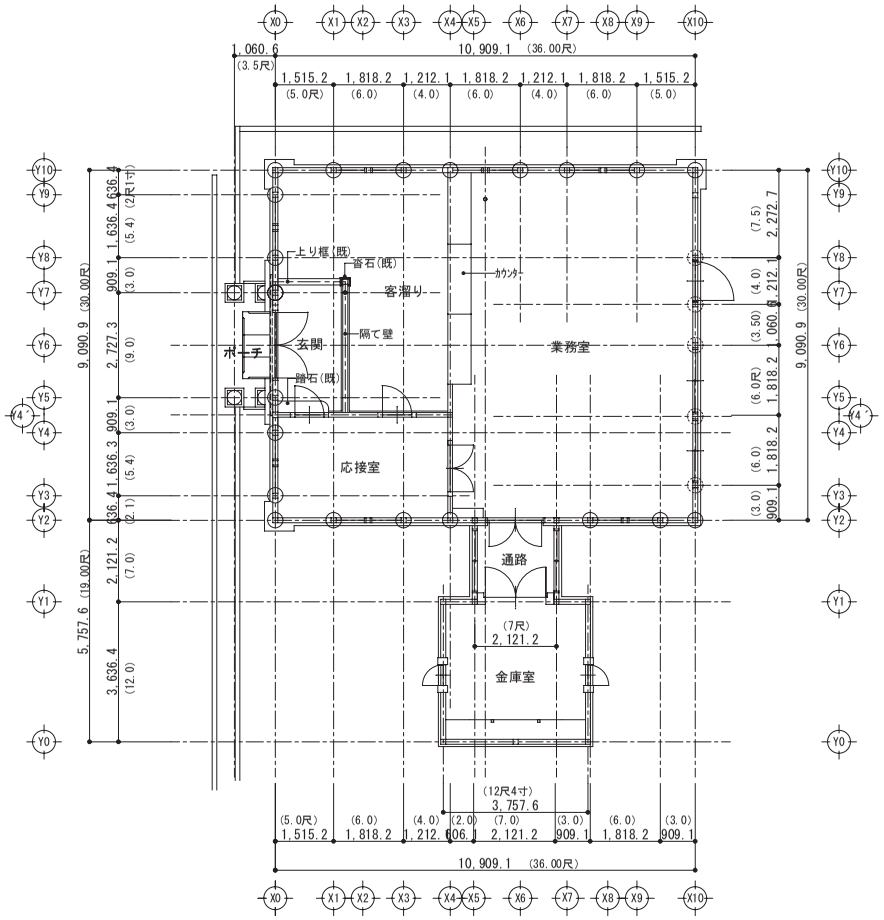
N
民家
民家
民家
民家
民家
民家
民家
民家
民家
民家
民家
民家
民家
里 道
工事建物
ボーリング実施箇所
前面道路 県道・佐賀外環状線
駐車場
工事場所

附近見取図・近隣配置図


診療室
技工室
玄関
ポーチ
玄関ホール
一階
レントゲン室
通路
金庫室

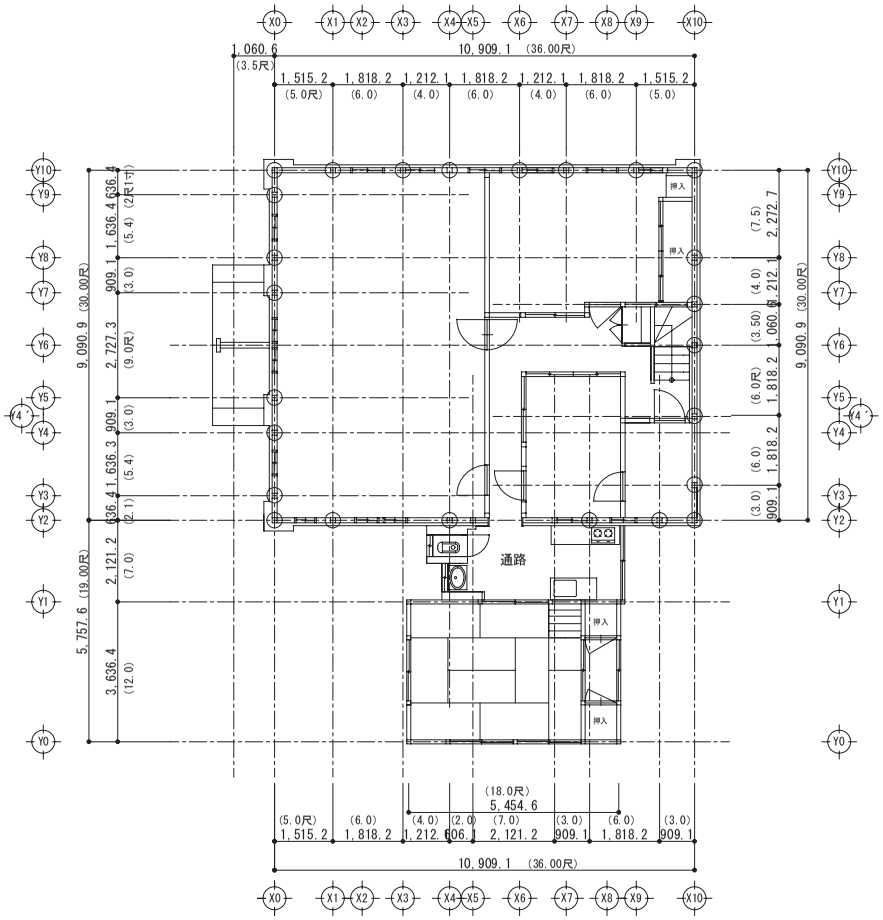
現状


N

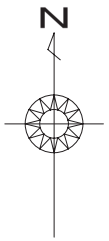

とり框(既)
沓石(既)
カウンター
客溜り
隔て壁
玄関
ポーチ
踏石(既)
業務室
応接室
通路
金庫室

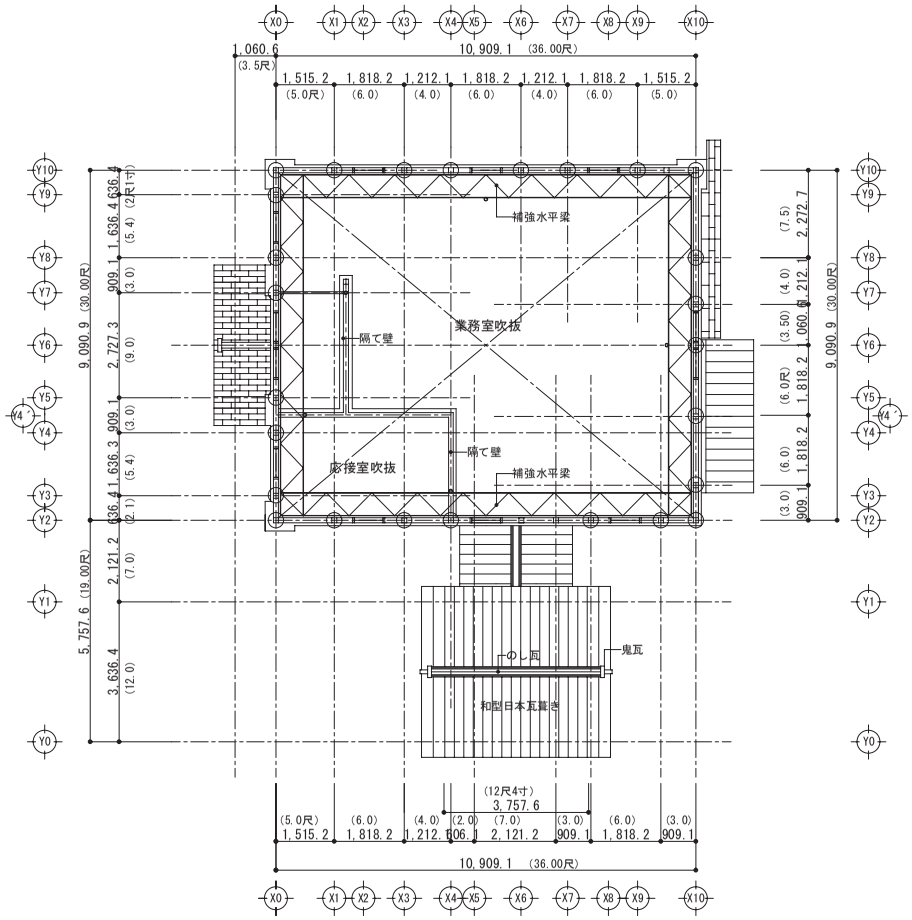
復原

1階平面図


通路
押入
10,909.1 (36.00尺)
9,090.9 (30.00尺)
5,757.6 (19.00尺)

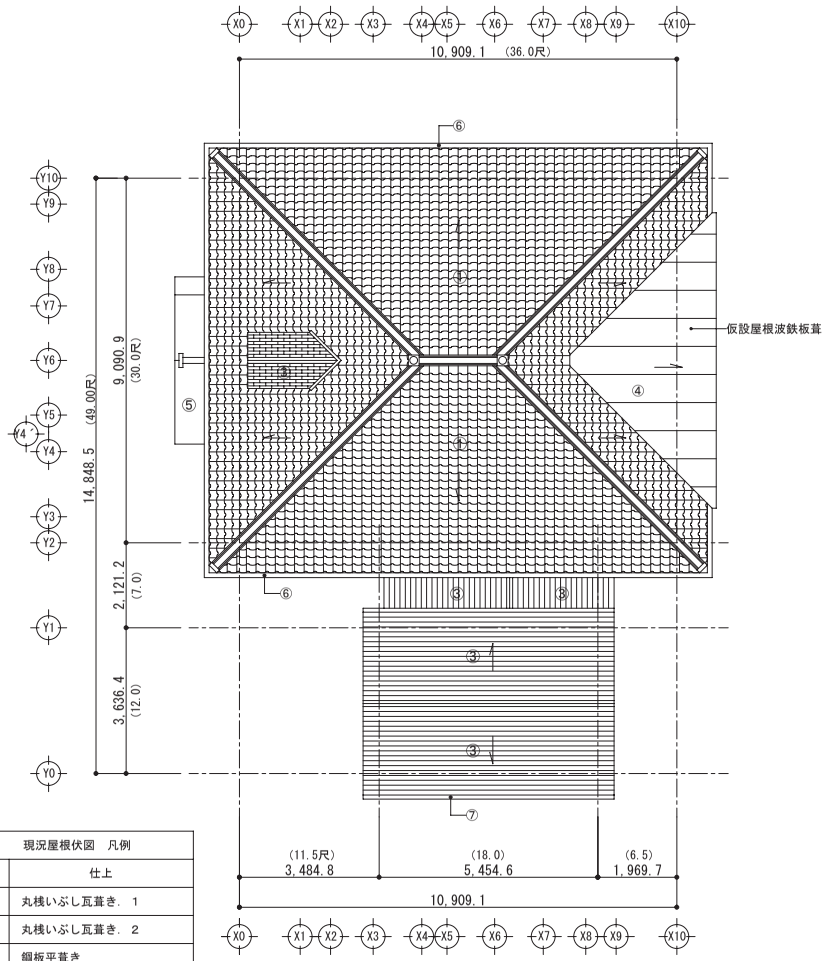
現状


N


補強水平梁
業務室吹抜
隔て壁
応接室吹抜
のし瓦
鬼瓦
和型日本瓦葺き
10,909.1 (36.00尺)
9,090.9 (30.00尺)
5,757.6 (19.00尺)

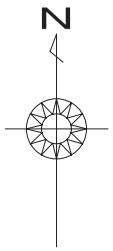
復原

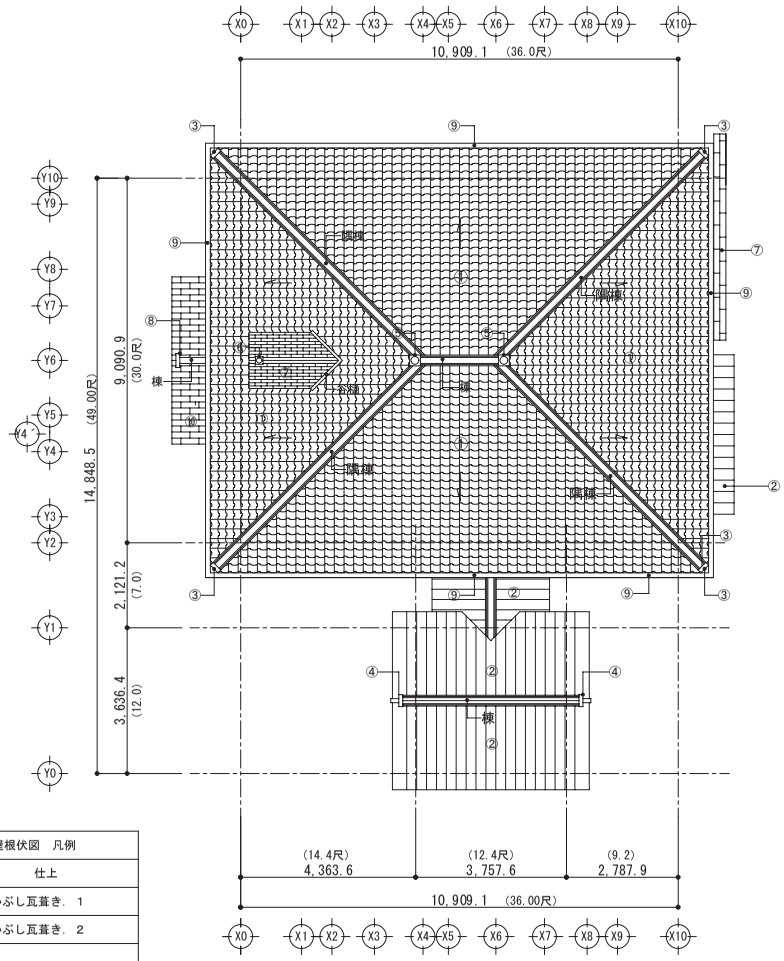
2階平面図



現況屋根伏図　凡例	
記号	仕上
①	丸桟いぶし瓦葺き．1
②	丸桟いぶし瓦葺き．2
③	銅板平葺き
④	波板銅板葺き
⑤	モルタル塗り
⑥	軒樋　銅板製
⑦	軒樋　銅板製

現状





復原屋根伏図　凡例	
記号	仕上
①	丸桟いぶし瓦葺き．1
②	丸桟いぶし瓦葺き．2
③	鬼瓦．1
④	鬼瓦．2
⑤	立ち物瓦．1
⑥	立ち物瓦．2
⑦	ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ(G)銅板一文字葺き
⑧	鬼瓦
⑨	軒樋　ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ(G)銅板
⑩	銅板一文字葺き

復原

屋根伏図

設計概要

工事名称	登録有形文化財建造物 「福成歯科医院（旧古賀銀行神埼支店）」復原工事
工事場所	佐賀県神埼市神埼町神埼４３８
工事内容	１、復原（改修）工事 ２、構造補強工事 ３、外構工事 ４、解体工事
敷地概要	用途地域　都市計画区域内　（区域区分非設定）
	防火指定　指定なし　（法第22条区域）
	前面道路　□県道　（■市道）　幅員6500
	敷地面積　451.02 ㎡
	建物用途　登録有形文化財建造物
建物概要	構造規模　木造１階建（現況２階建てを復原改修後、２階部分は１階の吹抜となる）
	基礎　増し打ち部分：鉄筋コンクリート造布基礎
	建築面積　120.21 ㎡　（現況：130.30㎡）
	延床面積　117.32 ㎡　（現況：247.35㎡）

階別＼床面積表	現況部分	解体部分	合計（復原後）	備考
１階	120.84 ㎡	3.52 ㎡	117.32 ㎡	㎡
２階	127.14 ㎡	27.97 ㎡	— ㎡	㎡
	㎡	２階床組部分　99.17 ㎡	㎡	但し吹抜部分　99.17 ㎡
計	247.98 ㎡	130.66 ㎡	117.32 ㎡	㎡

樹種等級＼区分	土台	床組	構造材	建具枠	内部造作材	腰板	内部天井板	外部造作材	軒天井材	敷居
檜　１等	○									
杉特１等		○	○							
杉　上小								○	○	
杉　無節					○					
檜　上小								○		
タモ無節				○	○	○	○			○

再用材	古材は支障ない限り努めて再用する
取替材	取り替え又は新補する材は原則として旧来と同品種・同等級とし、旧形状・旧工法を踏襲する
新材加工	在来品に倣うことを原則とする。但し、見え隠れに使用する釘・金物はJIS規格品を使用する。特殊金物はその都度作成する。
釘・金物	取り替え又は新補する材の化粧部分は在来の表面加工とする
補強	構造上不完全と認められる部分は添え木、金物等を用いて補強する

外部仕上表

区分	名称	記号	仕上（復原）	仕上（現況）
屋根	屋根	１	再用瓦：在来の瓦は、形式手法、破損度、耐久性等により選別する。再用瓦はすべて水洗い	丸桟いぶし瓦葺き：撤去（再利用可能なものは保存再利用）
			して十分乾燥させる	
			補足瓦：丸桟いぶし瓦葺き(在来品に倣う)　製作：今村慎一鬼瓦工場	
			銅　線：１６#～１８#を使用する	
	屋根	２	カラーガルバリウム鋼板ｱ0.4平葺き　㈱淀川製鋼所　KS15ﾒﾄﾛｼﾙﾊﾞｰ	ｶﾗｰ鋼板ｱ0.4平葺き：撤去
	軒天	３	杉下見板張りＯＰ塗り	桧下見板張り（腐朽部は撤去）ＯＰ塗り
			持送り木部(桧)ＯＰ塗り	持送り（腐朽部は撤去）ＯＰ塗り
樋	受樋	４	カラーガルバリウム鋼板ｱ0.4箱型加工　㈱淀川製鋼所　KS15ﾒﾄﾛｼﾙﾊﾞｰ	銅板箱型加工：撤去
	竪樋	５	カラーガルバリウム鋼板ｱ0.4丸型加工　㈱ﾀﾆﾀﾊｳｼﾞﾝｸﾞｳｪｱ　ｼﾙﾊﾞｰ	銅板丸型加工：撤去
外壁	外壁	６	洗い出し仕上げ塗り(特記仕様書参照)	洗い出し仕上げ：ひび割れ、劣化等は撤去
				東面波トタン張り：撤去
		７	御影石張り(新補石は旧来と同種石・工法とする)	御影石張り：修復
		８	黒漆喰塗り(鼠漆喰塗り・土塗り壁下地)	漆喰塗り(土塗り壁下地)：撤去
		９	—	モルタルリシン吹付：撤去
	開口部	１０	木製建具（建具表参照）	アルミサッシ　（一部スチール、木製有り）　：撤去
	根石	１１	御影石張り(新補石は旧来と同種石・工法とする)	御影石張り：修復
	窓面格子	１２	鉄製ＯＰ塗り　製作：山田工業㈱	—
	床下換気孔	１３	鋳鉄製150×220　製作：山田工業㈱	鋳鉄製150×220
その他	水切り	１４	外壁ﾎﾞｰﾀﾞｰ上部：水切りカラーガルバリウム鋼板ｱ0.4加工　㈱淀川製鋼所　KS15ﾒﾄﾛｼﾙﾊﾞｰ	外壁ﾎﾞｰﾀﾞｰ上部：亜鉛鍍金鉄板：撤去
			窓廻り：水切りカラーガルバリウム鋼板ｱ0.4加工	窓廻り：亜鉛鍍金鉄板：撤去
	シーリング	１５	変成シリコン15×10	—
外構	フェンス		スチール製ＯＰ塗り　製作：山田工業㈱	—

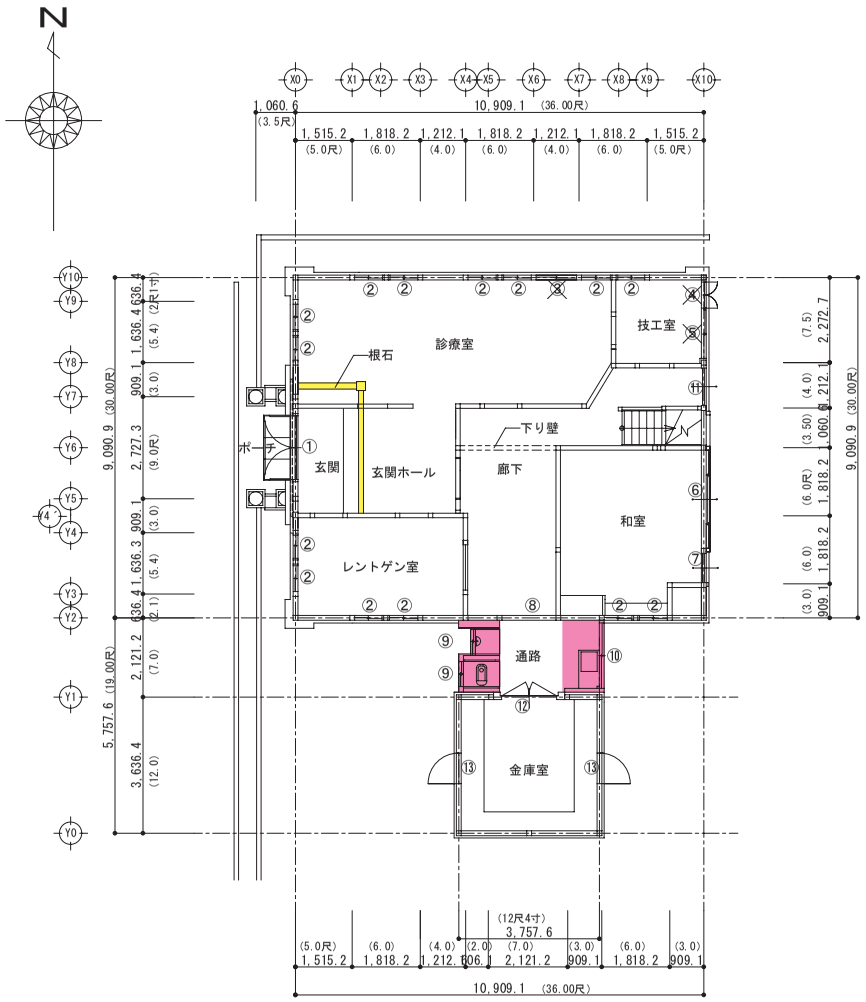
解体工事

準備	事前検査及び解体前に再用する部材には番付を行い、解体する部分については実測、写真撮影を行う
部材の取扱	再用する部材は、整理して損傷の生じないよう養生し、不要材は順次搬出し危険のない方法で処分する
	（注）絵様、繰形のある部材、年記等の墨書刻銘のある部材は適当な方法で保存する

内部仕上表

室名（改修後）	室名（改修前）	床高 GL基準	床 復原	床 現況	巾木 復原	巾木 現況	腰壁（上段）壁（下段） 復原	腰壁（上段）壁（下段） 現況	天井 復原	天井 現況	廻縁 復原	廻縁 現況	天井高	備考
玄関	（玄関）	240	モルタル金ゴテ押エ　古色仕上げ	既設材撤去 ただし根石はそのまま	同左 木製 OP　H=90	既設材撤去	小幅板ｱ9（9*45）下地 漆喰塗り 同上	漆喰塗り（下地共）撤去 同上	既存2階天井修復 タモ板張り	既設材(下地共)撤去	木製 OP	既設材撤去	6,230	廻縁、長押等ＯＰ塗 ﾋﾞｸﾁｬｰﾚｰﾙT-1(ﾎﾜｲﾄ)
客溜り	（玄関ﾎｰﾙ） （診療室）	420	モルタル金ゴテ押エ　古色仕上げ	既設材(下地共)撤去	同上	既設材撤去	小幅板ｱ9下地＋漆喰塗り 一部タモ板ｱ9縦張り（相決り） 小幅板ｱ9下地＋漆喰塗り	漆喰塗り（下地共）撤去 間仕切り壁全て撤去 同上	同上	既設材(下地共)撤去	同上	同上	6,050	廻縁、長押等ＯＰ塗 ﾋﾞｸﾁｬｰﾚｰﾙT-1(ﾎﾜｲﾄ) 天井収納用ﾊﾝｺﾞ （ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ　ﾊﾝｺﾞﾕﾆｯﾄ）
業務室	（診療室） （技工室） （廊下） （和室）	570	タモ板ｱ15本実張り 下地ｳﾏ合板Ｔ1ｱ12張り	既設材(下地共)撤去	木製 OP H=90	既設材撤去	タモ板ｱ9縦張り（相決り） 小幅板ｱ9下地＋漆喰塗り	漆喰塗り（下地共）撤去 間仕切り壁全て撤去 同上 下り壁撤去	同上	既設材(下地共)撤去	同上	同上	5,900	廻縁、長押等ＯＰ塗 ﾋﾞｸﾁｬｰﾚｰﾙT-1(ﾎﾜｲﾄ)
応接室	（ﾚﾝﾄｹﾞﾝ室）	570	タモ板ｱ15本実張り 下地ｳﾏ合板Ｔ1ｱ12張り	既設材(下地共)撤去	木製 OP H=90	既設材撤去	小幅板ｱ9下地＋漆喰塗り 小幅板ｱ9下地＋漆喰塗り くりもの、額縁、長押はＯＰ塗	既設材(下地共)撤去 漆喰塗り（下地共）撤去 くりもの、額縁、長押はそのまま	同上	既設材(下地共)撤去	同上	同上	5,900	廻縁、長押等ＯＰ塗 ﾋﾞｸﾁｬｰﾚｰﾙT-1(ﾎﾜｲﾄ)
通路	（通路）	570	タモ板ｱ15本実張り 下地ｳﾏ合板Ｔ1ｱ12張り	既設材(下地共)撤去	木製 OP H=90	既設材撤去	小幅板ｱ9下地＋漆喰塗り	既設材(下地共)撤去	タモ板ｱ9張り	既設材(下地共)撤去	木製 OP	—	2,500	ロールスクリーン ニチベイ　ポポラ PW106
金庫室	（金庫室）	570	モルタル金ゴテ押エ	既設塩ビシートは撤去 既存モルタルサンダーかけ	木製 OP H=90	既存のまま	既存相決り板ｱ9 ＯＰ塗	既存のまま	既存相決り板ｱ9 ＯＰ塗	既存のまま	木製 OP	既存のまま	2,990	カーテン 川島織物 FT0167 レース　川島織物　FT0460

設計概要・内外部仕上表



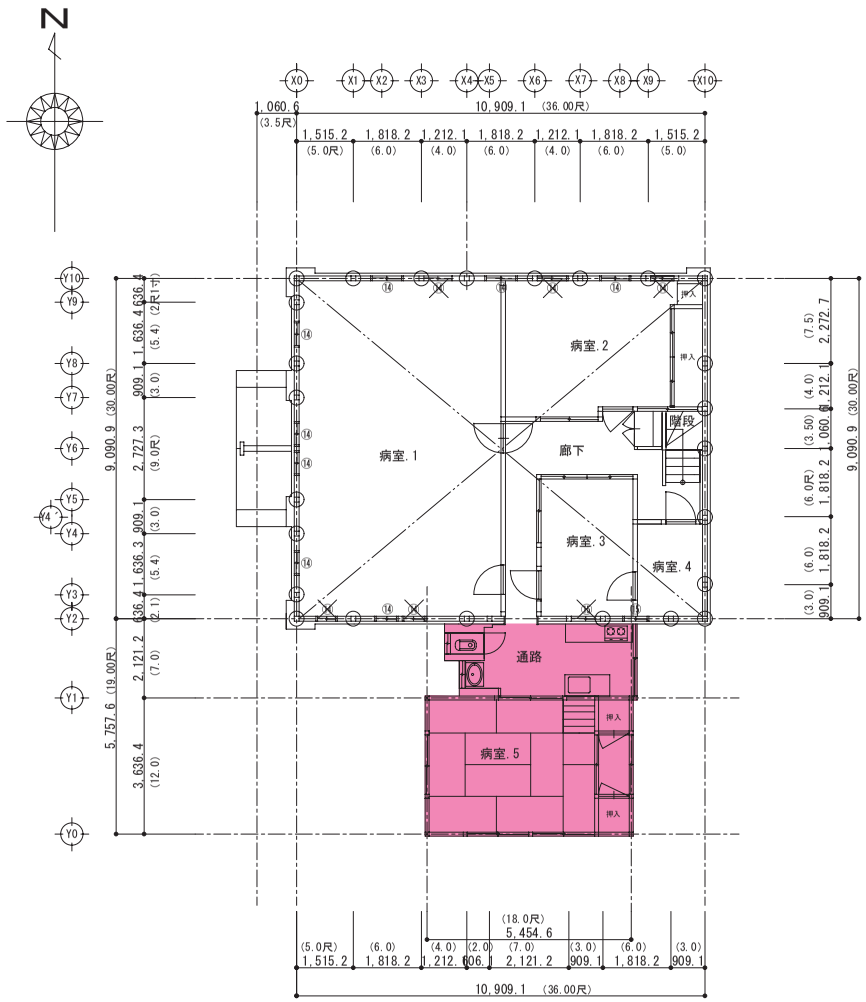
【 凡例 】

解体撤去面積減となる部分
3.52㎡

現況解体、撤去等リスト

		玄　関	玄関ホール	ﾚﾝﾄｹﾞﾝ室	診察室	技工室	和　室	廊　下	通　路	金庫室
床	現　況	タイル撤去 根石は残す	撤去（大引共）	撤去（大引共）	撤去（大引共） ※撤去済	撤去（大引共）	撤去（大引共）	撤去（大引共）	撤去 （面積減）	ﾓﾙﾀﾙ補修 塩ビシート撤去
	復　元	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押	ﾀﾓ板張り	×4通り 以西：ﾓﾙﾀﾙ	ﾀﾓ板板張り	ﾀﾓ板張り	ﾀﾓ板張り	ﾀﾓ板張り	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押
柱	現　況	既存そのまま	内壁部分撤去	内壁部分撤去	内壁部分撤去	内壁部分撤去	内壁部分撤去	内壁部分撤去	撤去 （面積減）	既存そのまま
	復　元	補修	—	—	—	—	—	—	—	補修
壁	現　況	既設材撤去 （下地共）	既設材撤去 （下地共） 間仕切り撤去	同左	同左	同左	同左	同左	撤去 （面積減）	既存そのまま
	復　元	しっくい塗り	しっくい塗り —	しっくい塗り 復元	しっくい塗り —	同左	同左	同左	しっくい塗り	相決り板ＯＰ塗
天井	現　況	既設材撤去 （下地共）	同左	同左	同左	同左	同左	同左	撤去 （面積減）	既存そのまま
	復　元	吹抜け ｼｵｼﾞ板模様張り	同左	同左	同左	同左	同左	同左	ｼｵｼﾞ板張り	相決り板ＯＰ塗
建具	現　況	①撤去		②撤去	②撤去 ~~③~~撤去	②撤去 ~~④~~撤去	②撤去 ⑥⑦撤去	⑧撤去（木製） ⑪なし	⑨⑩撤去	⑫撤去 ⑬そのまま
	復　元	木製建具付替え		木製建具付替え	木製建具付替え —　（壁復元）	木製建具付替え —　（壁復元）	木製建具付替え 木製建具付替え	木製建具付替え ⑪新設	木製建具付替え	木製建具付替え 補修
その他		くりもの、 長押、 建具廻りの額縁 補修ＯＰ塗り	同左	同左	内部建具は 現存しない	同左	同左	階段撤去	トイレ、手洗い 部分はすべて 解体	

現況１階平面図・解体図



【 凡例 】

解体撤去面積減となる部分
27.97㎡

２階床組解体撤去の部分
99.17㎡
↓
１階部分の吹抜となる

現況解体、撤去等リスト

		病室.1	病室.2	病室.3	病室.4	廊下	階段	通路	病室.5
床	現　況	2階床組撤去 既設材撤去	同左	同左	同左	同左	同左	すべて解体撤去	
	復　元	吹抜け	同左	同左	同左	同左	同左		
柱	現　況	外壁部分は そのまま 内壁部分撤去	同左	同左	同左	同左	同左		
	復　元	同上修復 —	同左	同左	同左	同左	同左		
壁	現　況	既設材撤去 （下地共） 間仕切り撤去	同左	同左	同左	同左	同左		
	復　元	しっくい塗り —	同左	同左	同左	同左	同左		
天井	現　況	既設材撤去 （下地共）	同左	同左	同左	同左	同左		
	復　元	吹抜け ｿｵﾞ板模様張り	同左	同左	同左	同左	同左		
建具	現　況	⑭撤去 ~~14~~撤去	⑭撤去 ~~14~~撤去	⑮撤去 ~~15~~撤去	—	—	—		
	復　元	木製建具付替え —　（壁復元）	木製建具付替え —　（壁復元）	木製建具付替え —　（壁復元）	—	—	—		
その他		廻り縁くりものは残して補修ＯＰ塗り 出入口建具は現存しない	同左 同左	同左 同左	同左 同左	同左	同左 階段撤去		

現況２階平面図・解体図

現状

現況外部仕上					
記号	部　位	仕　上	記号	部　位	仕　上
①	屋　根	丸桟いぶし瓦葺き	⑦	外　壁	白御影石張り
②	屋　根	ｶﾗｰ鋼板70.4平葺き	⑧	外　壁	シックイ塗り(土塗り壁下地)
③	軒　天	桧下見板張りＯＰ塗	⑨	外　壁	モルタルリシン吹付
④	受　樋	銅板箱型加工	⑩	開口部	アルミサッシ(カラー)
⑤	立　樋	銅板丸型加工	⑪	根　石	白御影石張り
⑥	外　壁	洗い出し仕上げ	⑫	窓面格子	—

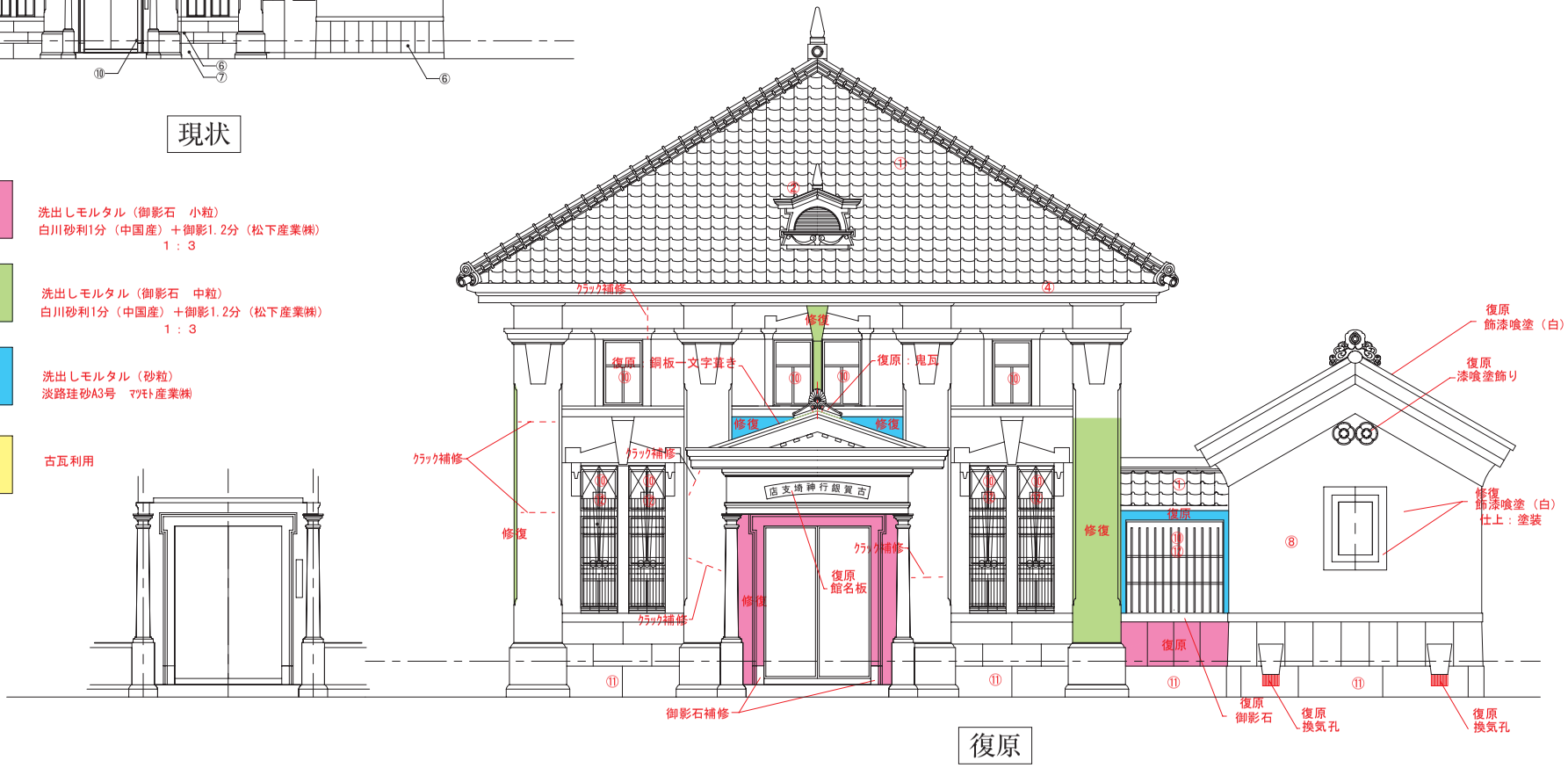
復原外部仕上					
記号	部　位	仕　上	記号	部　位	仕　上
①	屋　根	丸桟いぶし瓦葺き	⑦	外　壁	白御影石張り
②	屋　根	ガルバリウム鋼板ｱ0.4平葺き	⑧	外　壁	シックイ塗り(土塗り壁下地)
③	軒　天	桧下見板張りＯＰ塗	⑨	外　壁	—
④	受　樋	ガルバリウム鋼板箱型加工	⑩	開口部	木製建具
⑤	立　樋	ガルバリウム鋼板丸型加工	⑪	根　石	白御影石張り
⑥	外　壁	洗い出し仕上げ	⑫	窓面格子	鉄製ＯＰ塗り

洗出しモルタル（御影石　小粒）
白川砂利1分（中国産）＋御影1.2分（松下産業㈱）
１：３

洗出しモルタル（御影石　中粒）
白川砂利1分（中国産）＋御影1.2分（松下産業㈱）
１：３

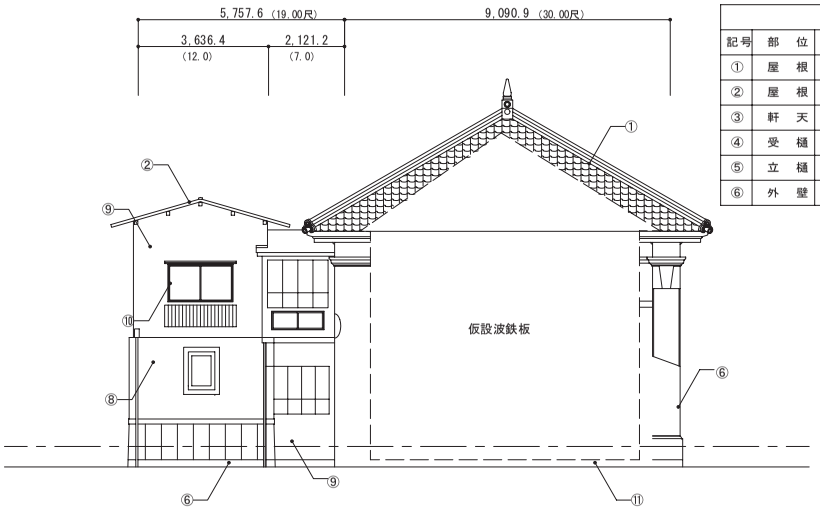
洗出しモルタル（砂粒）
淡路珪砂A3号　ﾏﾂﾓﾄ産業㈱

古瓦利用



復原

西側立面図



現状

現況外部仕上					
記号	部　位	仕　上	記号	部　位	仕　上
①	屋　根	丸桟いぶし瓦葺き	⑦	外　壁	白御影石張り
②	屋　根	ｶﾗｰ鋼板70.4平葺き	⑧	外　壁	シックイ塗り(土塗り壁下地)
③	軒　天	桧下見板張りＯＰ塗	⑨	外　壁	モルタルリシン吹付
④	受　樋	鋼板箱型加工	⑩	開口部	アルミサッシ(カラー)
⑤	立　樋	鋼板丸型加工	⑪	根　石	白御影石張り
⑥	外　壁	洗い出し仕上げ	⑫	窓面格子	—

復原外部仕上					
記号	部　位	仕　上	記号	部　位	仕　上
①	屋　根	丸桟いぶし瓦葺き	⑦	外　壁	白御影石張り
②	屋　根	ガルバリウム鋼板ｱ0.4平葺き	⑧	外　壁	シックイ塗り(土塗り壁下地)
③	軒　天	桧下見板張りＯＰ塗	⑨	外　壁	—
④	受　樋	ガルバリウム鋼板箱型加工	⑩	開口部	木製建具
⑤	立　樋	ガルバリウム鋼板丸型加工	⑪	根　石	白御影石張り
⑥	外　壁	洗い出し仕上げ	⑫	窓面格子	鉄製ＯＰ塗り

洗出しモルタル（御影石　小粒）
白川砂利1分（中国産）＋御影1.2分（松下産業㈱）
１：３

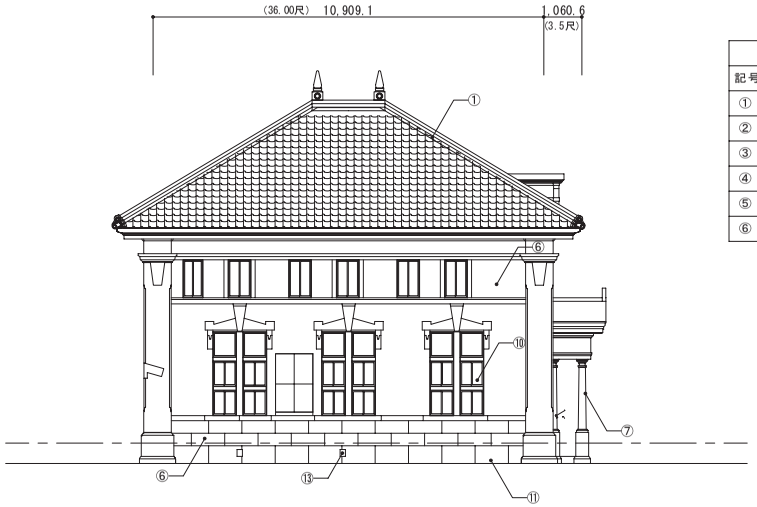
洗出しモルタル（御影石　中粒）
白川砂利1分（中国産）＋御影1.2分（松下産業㈱）
１：３

洗出しモルタル（砂粒）
淡路珪砂A3号　ﾏﾂﾓﾄ産業㈱

古瓦利用

復原

東側立面図



現状

現況外部仕上					
記号	部　位	仕　上	記号	部　位	仕　上
①	屋　根	丸桟いぶし瓦葺き	⑦	外　壁	白御影石張り
②	屋　根	ｶﾗｰ鋼板70.4平葺き	⑧	外　壁	シックイ塗り（土塗り壁下地）
③	軒　天	桧下見板張りＯＰ塗	⑨	外　壁	モルタルリシン吹付
④	受　樋	鋼板箱型加工	⑩	開口部	アルミサッシ（カラー）
⑤	立　樋	鋼板丸型加工	⑪	根　石	白御影石張り
⑥	外　壁	洗い出し仕上げ	⑫	窓面格子	—

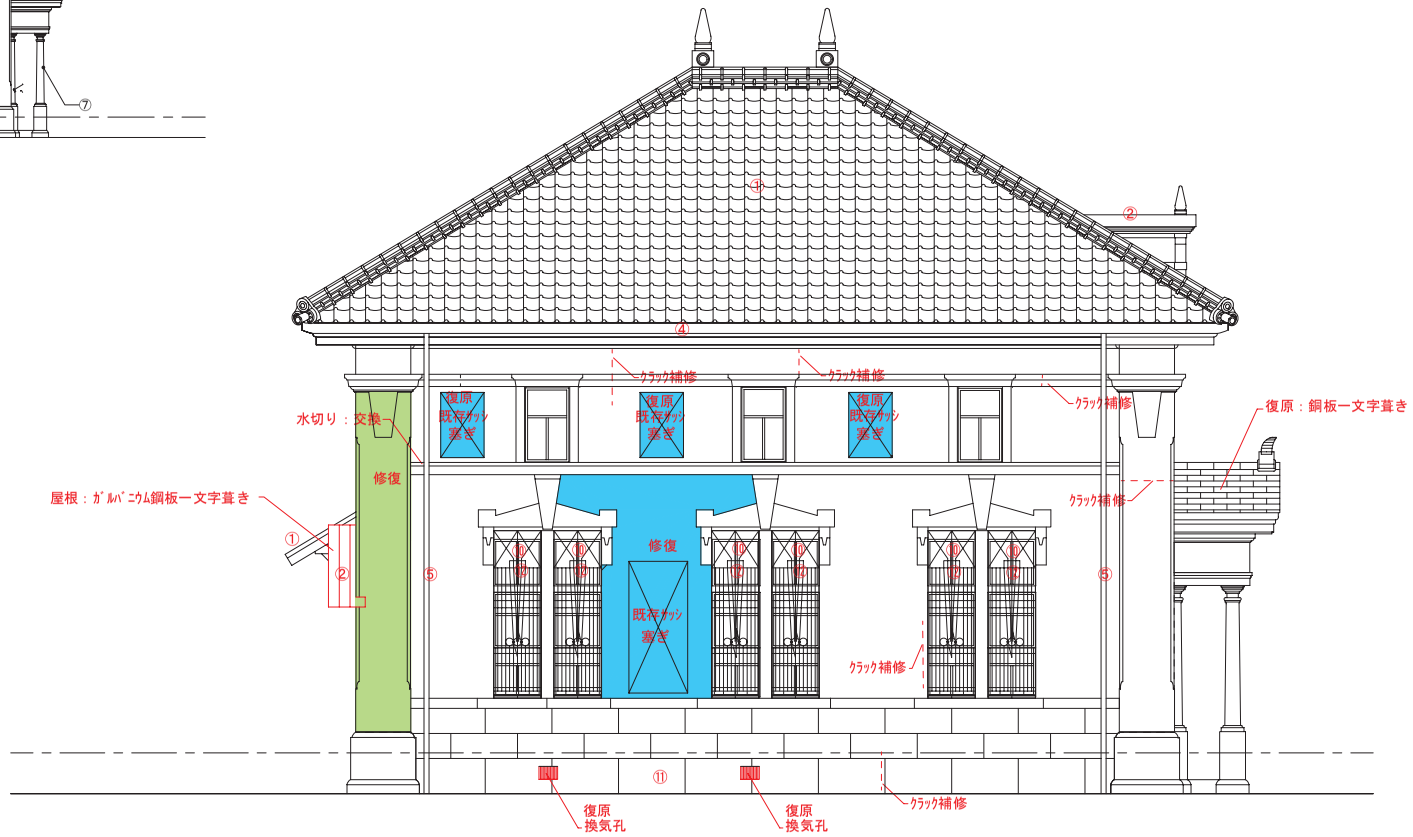
復原外部仕上					
記号	部　位	仕　上	記号	部　位	仕　上
①	屋　根	丸桟いぶし瓦葺き	⑦	外　壁	白御影石張り
②	屋　根	ガルバリウム鋼板ｱ0.4平葺き	⑧	外　壁	シックイ塗り（土塗り壁下地）
③	軒　天	桧下見板張りＯＰ塗	⑨	外　壁	—
④	受　樋	ガルバリウム鋼板箱型加工	⑩	開口部	木製建具
⑤	立　樋	ガルバリウム鋼板丸型加工	⑪	根　石	白御影石張り
⑥	外　壁	洗い出し仕上げ	⑫	窓面格子	鉄製ＯＰ塗り

洗出しモルタル（御影石　小粒）
白川砂利1分（中国産）＋御影1.2分（松下産業㈱）
１：３

洗出しモルタル（御影石　中粒）
白川砂利1分（中国産）＋御影1.2分（松下産業㈱）
１：３

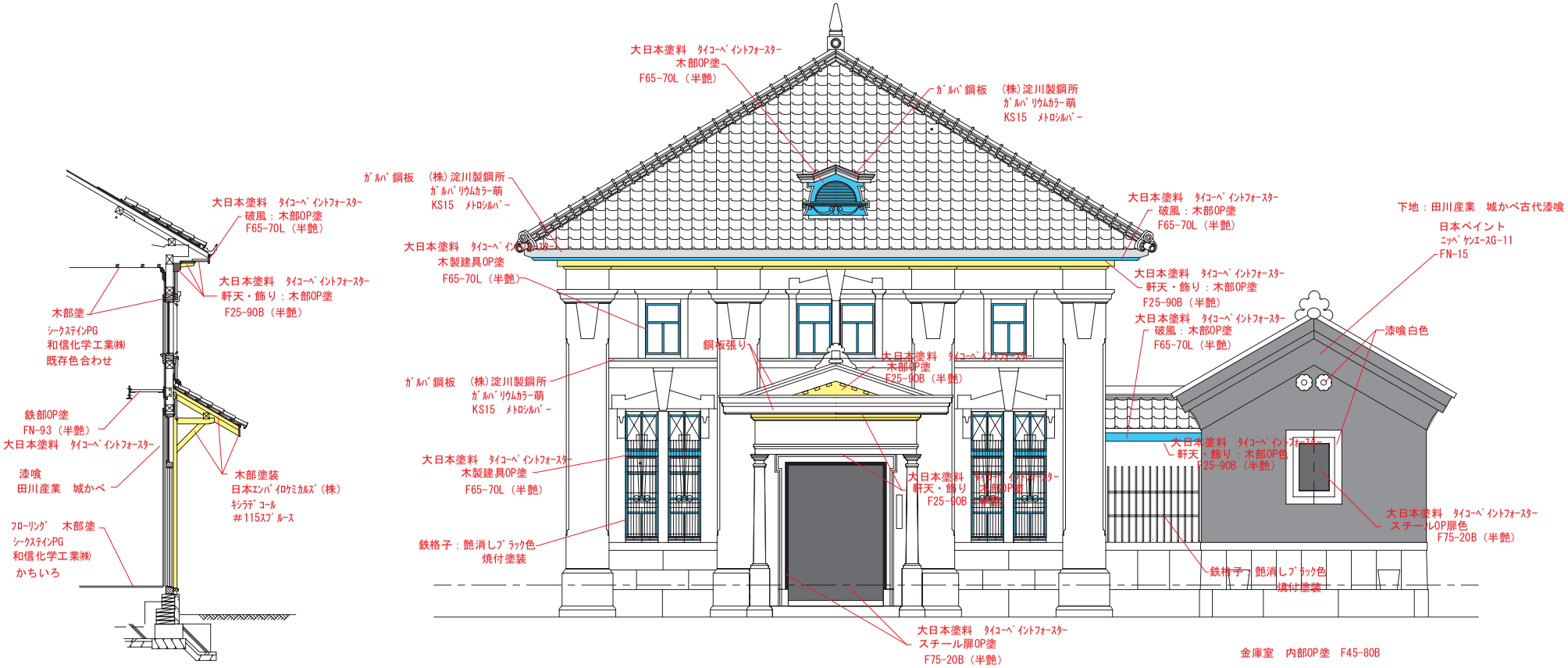
洗出しモルタル（砂粒）
淡路珪砂A3号　ﾏﾂﾓﾄ産業㈱

古瓦利用

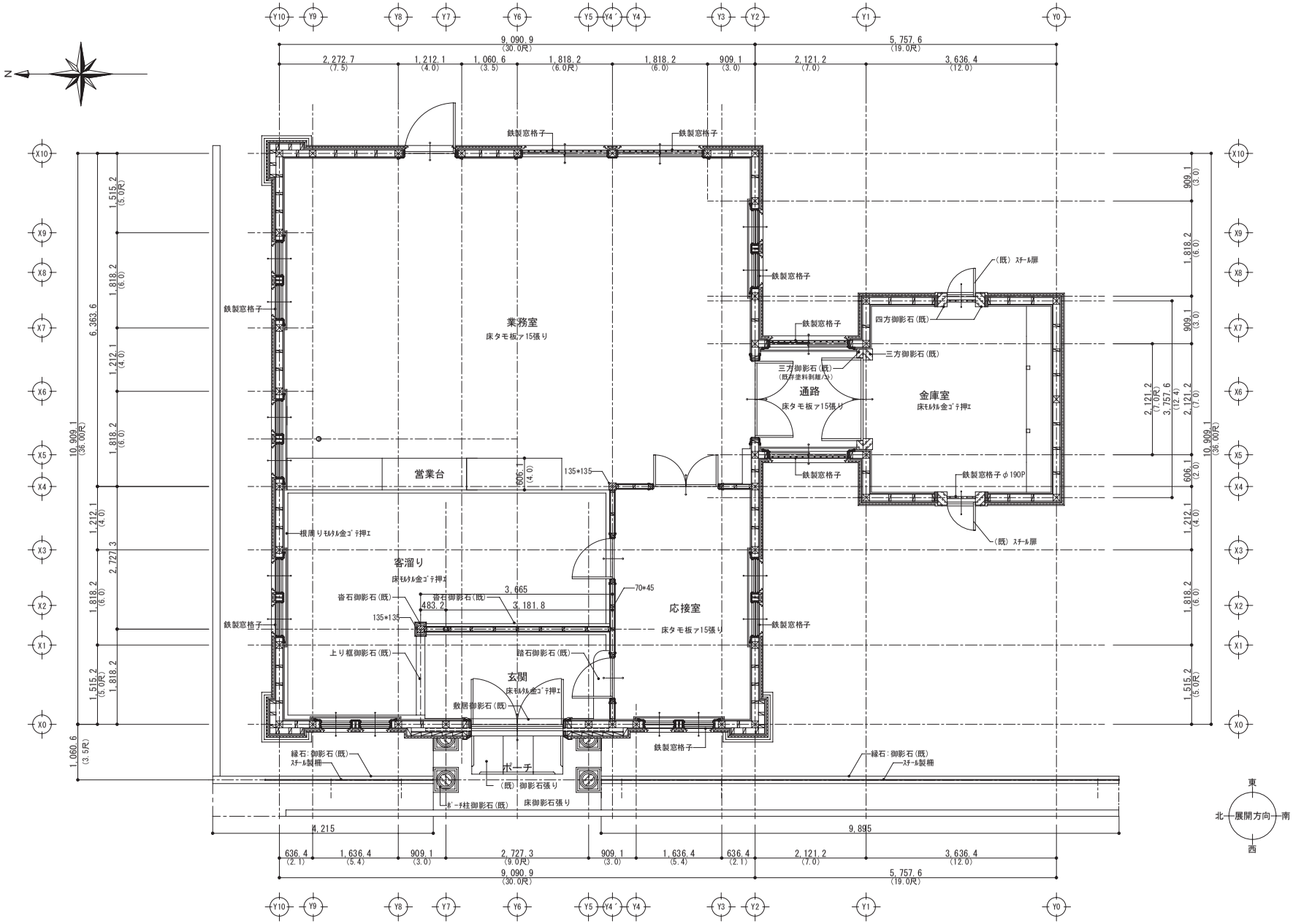


復原

北側立面図

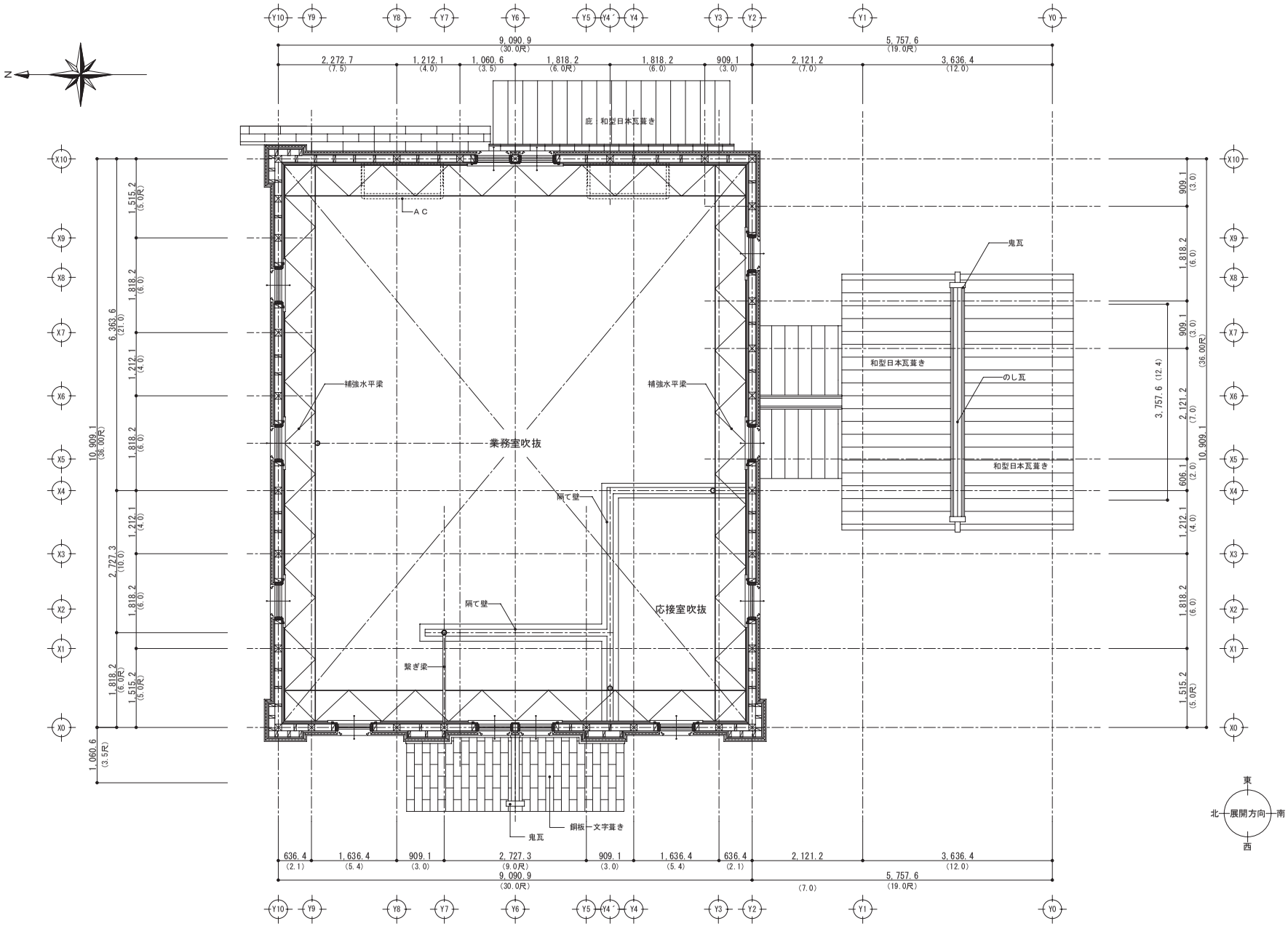

大日本塗料　ﾀｲｺｰﾍﾟｲﾝﾄﾌｫｰｽﾀｰ
木部OP塗
F65-70L（半艶）
ｶﾞﾙﾊﾞ鋼板　(株)淀川製鋼所
ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑｶﾗｰ萌
KS15　ﾒﾄﾛｼﾙﾊﾞｰ
大日本塗料　ﾀｲｺｰﾍﾟｲﾝﾄﾌｫｰｽﾀｰ
破風：木部OP塗
F65-70L（半艶）
大日本塗料　ﾀｲｺｰﾍﾟｲﾝﾄﾌｫｰｽﾀｰ
軒天・飾り：木部OP塗
F25-90B（半艶）
木部塗
ｼｰｸｽﾃｲﾝPG
和信化学工業㈱
既存色合わせ
鉄部OP塗
FN-93（半艶）
大日本塗料　ﾀｲｺｰﾍﾟｲﾝﾄﾌｫｰｽﾀｰ
漆喰
田川産業　城かべ
木部塗装
日本ｴﾝﾊﾞｲﾛｹﾐｶﾙｽﾞ(株)
ｷｼﾗﾃﾞｺｰﾙ
＃115ｽﾌﾟﾙｰｽ
ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ　木部塗
ｼｰｸｽﾃｲﾝPG
和信化学工業㈱
かちいろ
ｶﾞﾙﾊﾞ鋼板　(株)淀川製鋼所
ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑｶﾗｰ萌
KS15　ﾒﾄﾛｼﾙﾊﾞｰ
大日本塗料　ﾀｲｺｰﾍﾟｲﾝﾄﾌｫｰｽﾀｰ
木製建具OP塗
F65-70L（半艶）
鋼板張り
大日本塗料　ﾀｲｺｰﾍﾟｲﾝﾄﾌｫｰｽﾀｰ
木部OP塗
F25-90B（半艶）
ｶﾞﾙﾊﾞ鋼板　(株)淀川製鋼所
ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑｶﾗｰ萌
KS15　ﾒﾄﾛｼﾙﾊﾞｰ
大日本塗料　ﾀｲｺｰﾍﾟｲﾝﾄﾌｫｰｽﾀｰ
木製建具OP塗
F65-70L（半艶）
大日本塗料　ﾀｲｺｰﾍﾟｲﾝﾄﾌｫｰｽﾀｰ
軒天・飾り：木部OP塗
F25-90B（半艶）
鉄格子：艶消しﾌﾞﾗｯｸ色
焼付塗装
大日本塗料　ﾀｲｺｰﾍﾟｲﾝﾄﾌｫｰｽﾀｰ
スチール扉OP塗
F75-20B（半艶）
大日本塗料　ﾀｲｺｰﾍﾟｲﾝﾄﾌｫｰｽﾀｰ
破風：木部OP塗
F65-70L（半艶）
大日本塗料　ﾀｲｺｰﾍﾟｲﾝﾄﾌｫｰｽﾀｰ
破風：木部OP塗
F65-70L（半艶）
下地：田川産業　城かべ古代漆喰
日本ペイント
ﾆｯﾍﾟﾝｴｰｽG-11
FN-15
漆喰白色
大日本塗料　ﾀｲｺｰﾍﾟｲﾝﾄﾌｫｰｽﾀｰ
軒天・飾り：木部OP色
F25-90B（半艶）
大日本塗料　ﾀｲｺｰﾍﾟｲﾝﾄﾌｫｰｽﾀｰ
スチールOP扉色
F75-20B（半艶）
鉄格子：艶消しﾌﾞﾗｯｸ色
焼付塗装
金庫室　内部OP塗　F45-80B

塗装仕上げ　立面図



業務室
床タモ板ア15張り
営業台
客溜り
床ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押ｴ
応接室
床タモ板ア15張り
玄関
床ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押ｴ
通路
床タモ板ア15張り
金庫室
床ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押ｴ
ポーチ
床御影石張り
鉄製窓格子
鉄製窓格子φ190P
四方御影石(既)
三方御影石(既)
三方御影石(既)
(既存塗料剥離ﾊﾟﾃ)
(既) ｽﾁｰﾙ扉
根周りﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押ｴ
沓石御影石(既)
上り框御影石(既)
踏石御影石(既)
敷居御影石(既)
縁石:御影石(既)
ｽﾁｰﾙ製柵
ﾎﾟｰﾁ柱御影石(既)
(既) 御影石張り
135*135
70*45
9,090.9
(30.0尺)
5,757.6
(19.0尺)
10,909.1
(36.00尺)
6,363.6
4,215
9,895
東
北
展開方向
南
西

1階平面詳細図


庇 和型日本瓦葺き
AC
補強水平梁
補強水平梁
業務室吹抜
隔て壁
隔て壁
応接室吹抜
繋ぎ梁
鬼瓦
和型日本瓦葺き
のし瓦
和型日本瓦葺き
銅板一文字葺き
鬼瓦
9,090.9
(30.0尺)
5,757.6
(19.0尺)
10,909.1
(36.00尺)
6,363.6
(21.0)
2,727.3
(10.0)
1,060.6
(3.5尺)
3,757.6 (12.4)
東
北
展開方向
南
西

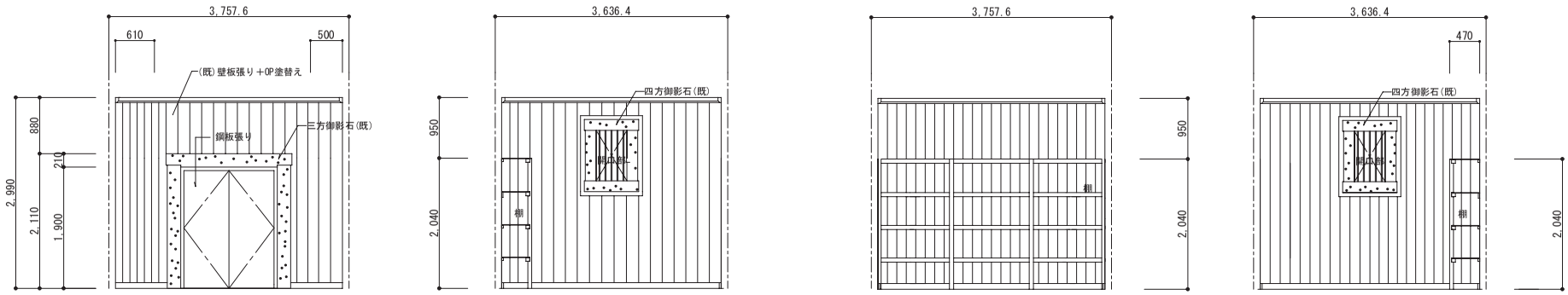
2階平面詳細図

X0
X4
X10
Y2
Y4´
Y10
1,740
1,590
1,590
5,700
5,790
840
145
695
150
180
840
110
2,230
2,140
2,490
10,909.1 (36尺)
9,090.9 (30尺)
北面 展開図
玄関
客溜り
業務室
西面 展開図
応接室入口
玄関
くりもの
長押
しっくい塗り
▽客溜り土間ＦＬ
175
2,490
2,140
500
1,840
840
150
180
南面 展開図
業務室
客溜り
玄関
東面 展開図
業務室

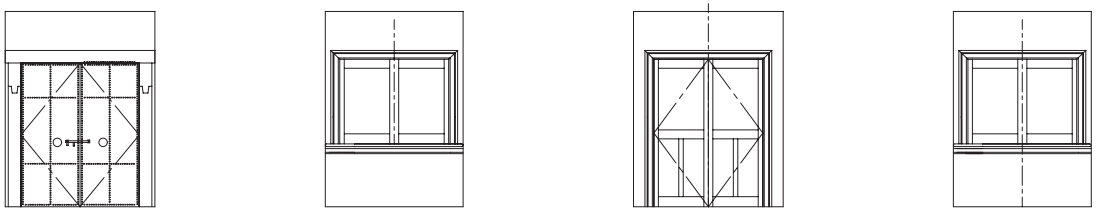
業務室展開図. 1

X0
X4
5,790
500
175
1,840
2,515
150
4,545.5 (15尺)
応接室　北展開図
Y2
Y4´
5,700
2,515
2,727.3 (9.0尺)
西展開図
Y4´
Y7
Y8
Y10
隔て壁
客溜り　西展開図
1,740
南展開図
175
110
2,230
1,730
840
40
東展開図
カウンター
990
▽客溜りＦＬ
▽応接室ＦＬ
▽玄関ＦＬ
180
玄関　東展開図

業務室展開図.２（応接室）

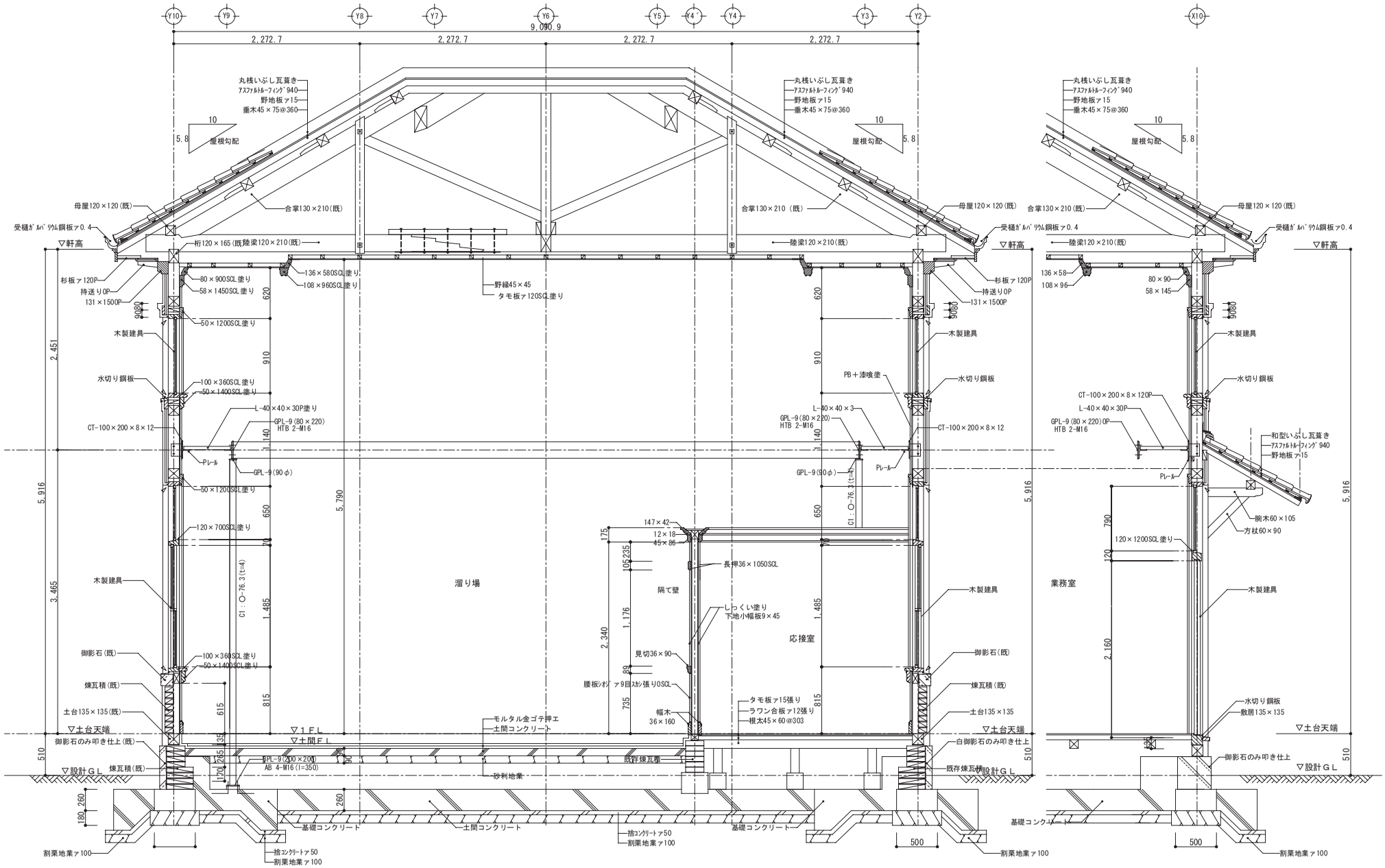


金庫室　北展開図　　西展開図　　南展開図　　東展開図



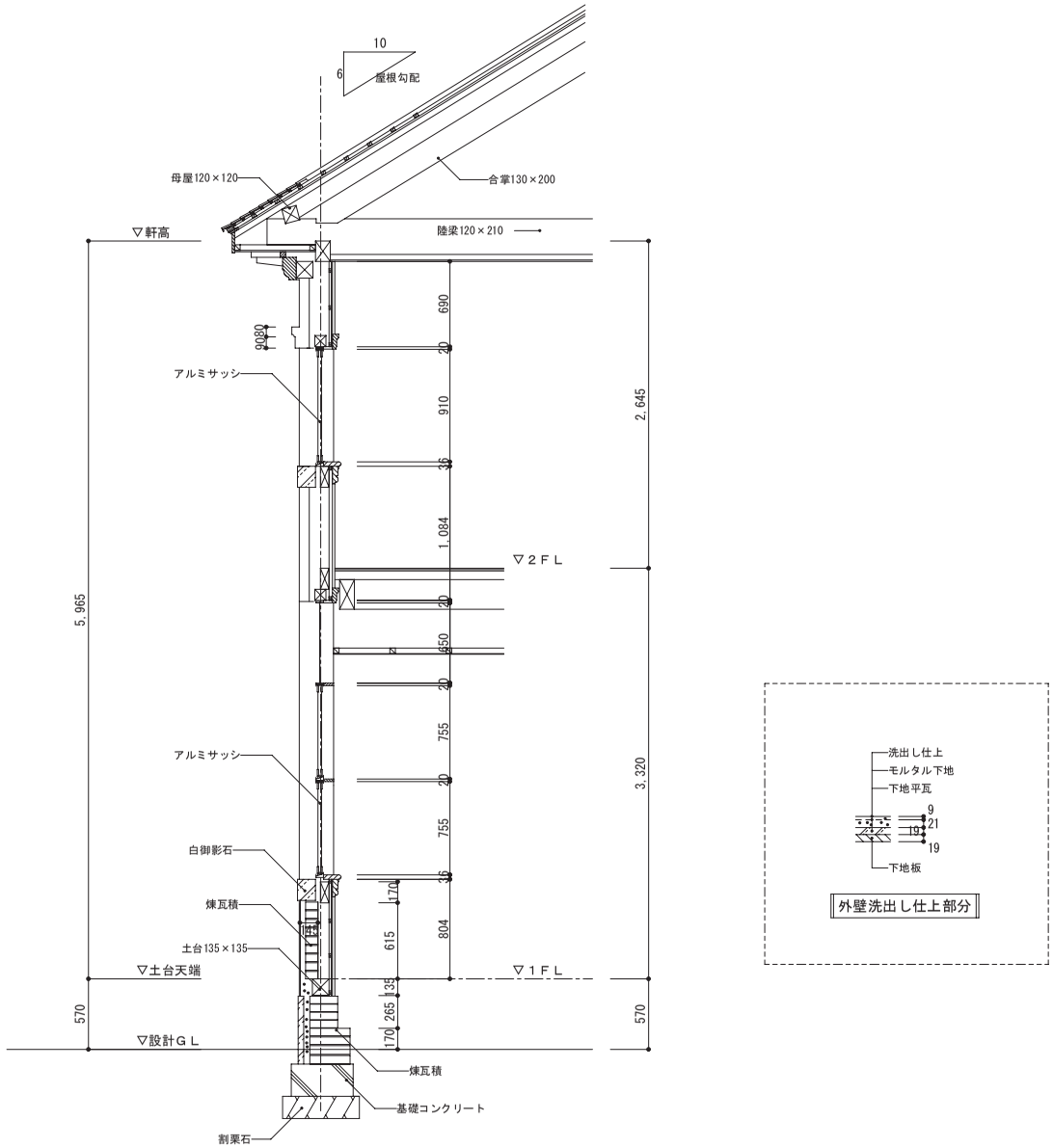
通路　南展開図　　東展開図　　北展開図　　西展開図

金庫室展開図

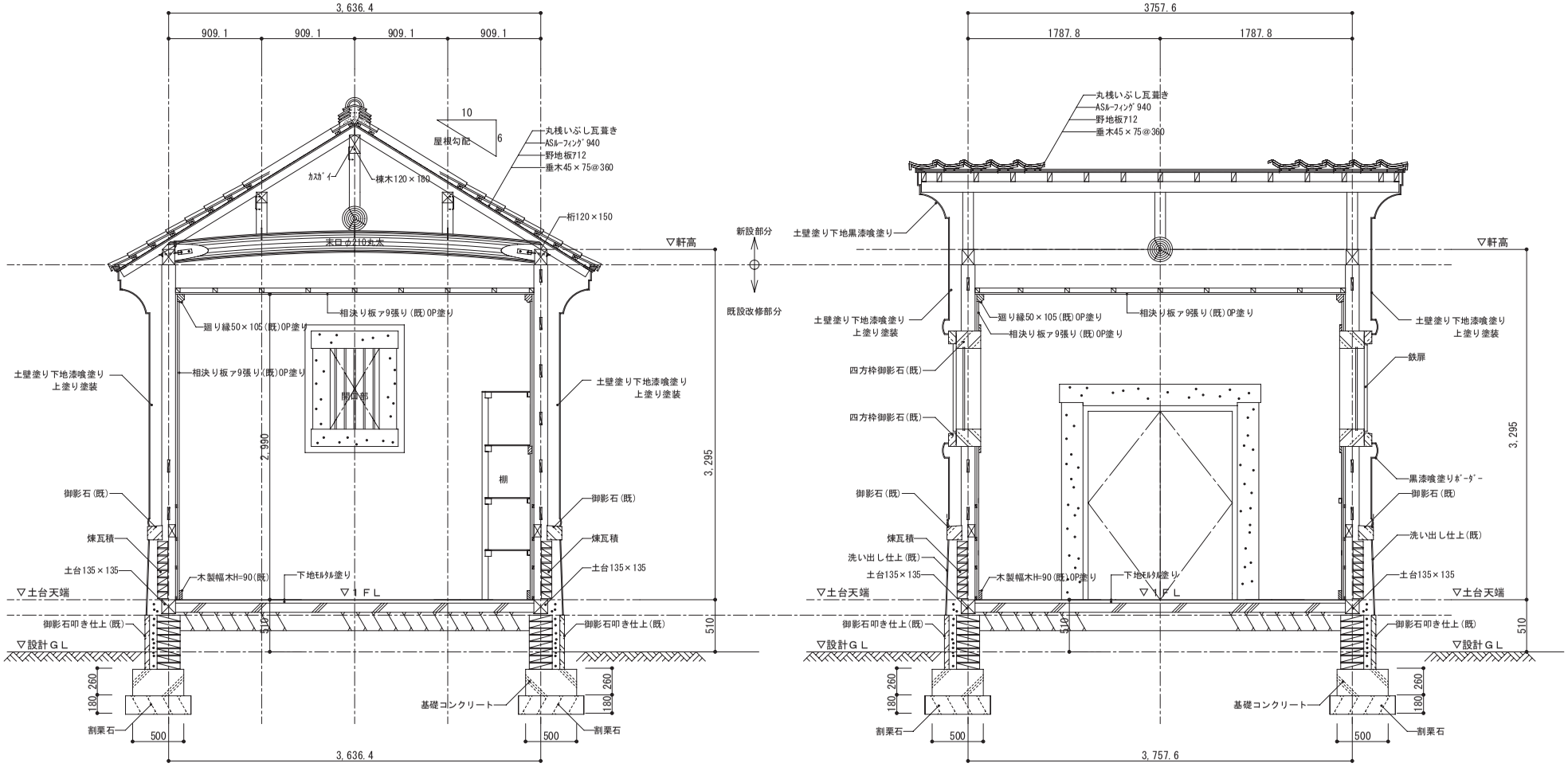


Y10
Y9
Y8
Y7
Y6
Y5
Y4´
Y4
Y3
Y2
X10
9,090.9
2,272.7
2,272.7
2,272.7
2,272.7
丸桟いぶし瓦葺き
アスファルトルーフィング940
野地板ア15
垂木45×75@360
屋根勾配
10
5.8
母屋120×120(既)
受樋ガルバリウム鋼板ア0.4
合掌130×210(既)
桁120×165(既)
陸梁120×210(既)
▽軒高
杉板ア120P
持送り0P
131×1500P
80×900SCL塗り
58×1450SCL塗り
136×580SCL塗り
108×960SCL塗り
野縁45×45
タモ板ア120SCL塗り
50×1200SCL塗り
木製建具
水切り鋼板
100×360SCL塗り
50×1400SCL塗り
L-40×40×30P塗り
GPL-9(80×220)
HTB 2-M16
CT-100×200×8×12
Pレール
GPL-9(90φ)
120×700SCL塗り
C1：O-76.3(t=4)
溜り場
御影石(既)
煉瓦積(既)
土台135×135(既)
▽土台天端
▽1FL
▽土間FL
御影石のみ叩き仕上(既)
▽設計GL
GPL-9(200×200)
AB 4-M16(l=350)
モルタル金ゴテ押エ
土間コンクリート
砂利地業
基礎コンクリート
割栗地業ア100
捨コンクリートア50
割栗地業ア100
147×42
12×18
45×86
長押36×1050SCL
隔て壁
しっくい塗り
下地小幅板9×45
見切36×90
腰板シオジア9目スカシ張りOSCL
幅木
36×160
応接室
タモ板ア15張り
ラワン合板ア12張り
根太45×60@303
PB＋漆喰塗
L-40×40×3
GPL-9(80×220)
HTB 2-M16
CT-100×200×8×12
C1：O-76.3(t=4)
白御影石のみ叩き仕上
既存煉瓦積
業務室
136×58
108×96
80×90
58×145
CT-100×200×8×120P
L-40×40×30P
GPL-9(80×220)0P
HTB 2-M16
和型いぶし瓦葺き
アスファルトルーフィング940
野地板ア15
腕木60×105
方杖60×90
120×1200SCL塗り
水切り鋼板
敷居135×135
御影石のみ叩き仕上
500

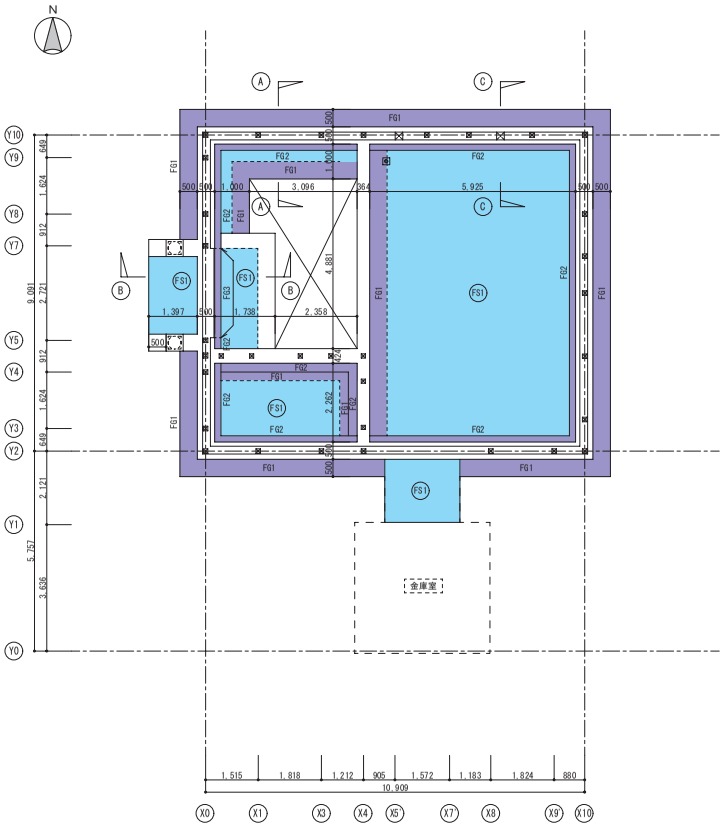
矩計詳細図


10
6
屋根勾配
母屋120×120
合掌130×200
陸梁120×210
▽軒高
アルミサッシ
▽２ＦＬ
アルミサッシ
白御影石
煉瓦積
土台135×135
▽土台天端
▽１ＦＬ
▽設計ＧＬ
煉瓦積
基礎コンクリート
割栗石
5,965
570
2,645
3,320
570
690
20
910
36
1,084
20
550
20
755
20
755
36
804
170
615
135
265
170
洗出し仕上
モルタル下地
下地平瓦
9
21
19
19
下地板
外壁洗出し仕上部分

現況断面図

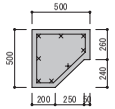
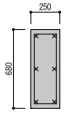

3,636.4
909.1
909.1
909.1
909.1
10
6
屋根勾配
丸桟いぶし瓦葺き
ASﾙｰﾌｨﾝｸﾞ940
野地板712
垂木45×75@360
ｶｽｶﾞｲ
棟木120×180
桁120×150
末口φ210丸太
▽軒高
新設部分
既設改修部分
土壁塗り下地黒漆喰塗り
巡り縁50×105(既)OP塗り
相決り板ｱ9張り(既)OP塗り
土壁塗り下地漆喰塗り
上塗り塗装
四方枠御影石(既)
鉄扉
開口部
棚
2,990
3,295
御影石(既)
黒漆喰塗りﾎﾞｰﾀﾞｰ
煉瓦積
洗い出し仕上(既)
土台135×135
木製幅木H=90(既)
下地ﾓﾙﾀﾙ塗り
▽土台天端
▽１ＦＬ
御影石叩き仕上(既)
510
▽設計ＧＬ
180
260
基礎コンクリート
割栗石
500
3,757.6
1787.8
1787.8

金庫室矩計詳細図



部材リスト

特記無き限り
・鉄筋は，ＳＤ２９５Ａ（Ｄ１６以下）とする
・巾止め筋はＤ１０＠６００以内とし、受け筋はＤ１０＠１０００以内とする。
・地業は砕石ｔ１００、捨てコンｔ５０とする。

符　号	ＦＧ１	ＦＧ２	ＦＧ３
位　置	全断面	全断面	全断面
Ｂ×Ｄ	５００　×　５００	２５０　×　６８０	２５０　×　６００
断　面 1／30			
上端筋	３－Ｄ１３	２－Ｄ１３	２－Ｄ１３
下端筋	２－Ｄ１３	２－Ｄ１３	２－Ｄ１３
スターラップ	□－Ｄ１３@２００	□－Ｄ１３@２００	Ｄ１３@２００
腹筋	３－Ｄ１３	２－Ｄ１３	２－Ｄ１３
アンカー	あと施工アンカー Ｄ１６@４５０（シングル）	あと施工アンカー Ｄ１６@４５０（シングル）	あと施工アンカー Ｄ１６@４５０（シングル）
備考			

スラブリスト

特記無き限り
・鉄筋は，ＳＤ２９５Ａ（Ｄ１６以下）とする
・スペーサー等は鋼製（独立型）とし、スラブ下面が直仕上の場合は防錆型を使用する。
・スペーサー等の配置はスラブ端部は梁側から１００前後・その他は@９００以内とする。
・ＦＳは割圧板を示す。（地業は砕石ｔ１００、捨てコンｔ５０とする。）

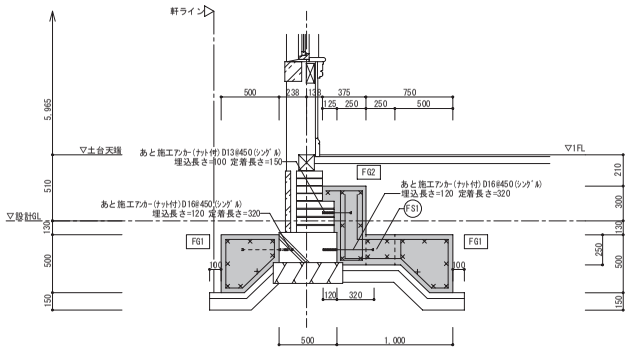
符　号	ｔ	位　置	短辺方向 端部	短辺方向 中央部	長辺方向 端部	長辺方向 中央部	備考
ＦＳ１	２５０	上端筋	Ｄ１３　@２００		Ｄ１３　@２００		モチアミ
		下端筋	Ｄ１３　@２００		Ｄ１３　@２００		
		上端筋					
		下端筋					

特記なき限り下記による。

・既設部寸法は参考図とする。現場採寸の上、施工図を作成し、工事監理者の承認を得ること。
・コンクリートの設計基準強度は、Ｆｃ＝３６Ｎ／mm²とする。
・鉄筋は、ＳＤ２９５Ａ（Ｄ１６以下）を使用する。
・捨てコンの厚さは、ｔ＝５０とする。
・敷砂利の厚さは、ｔ＝１００とする。
・コンクリートの供試体は以下とする。
　1週　3本
　4週　3本
　永久保存　3本
　予備　3本

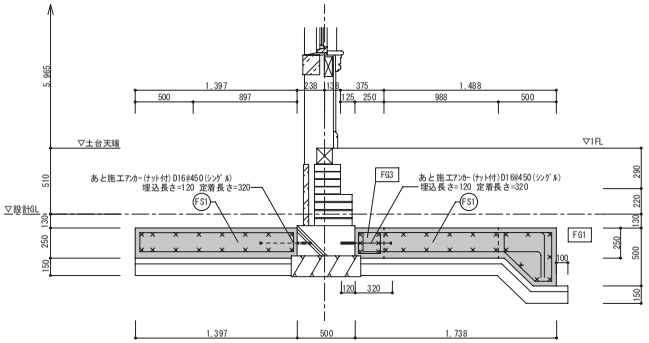
補強基礎 A-A 断面図

※各鉄筋定着は30dとする。
※配筋は基本D13@200(ﾀﾃﾖｺ共)とする。



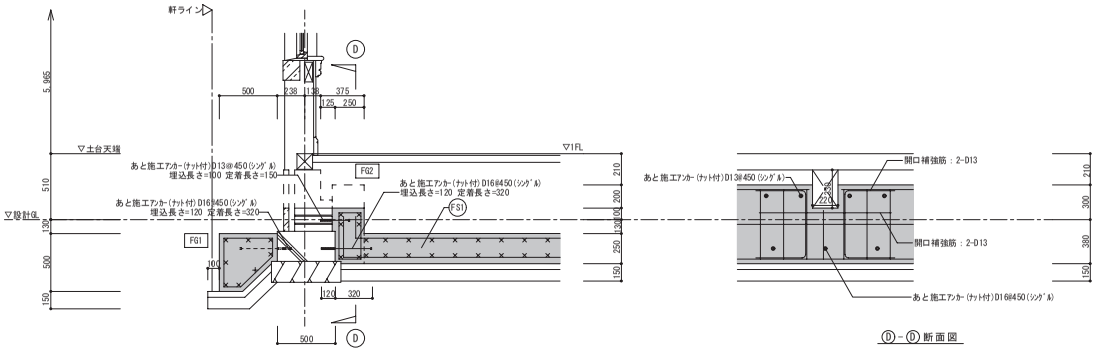
補強基礎 B-B 断面図

※各鉄筋定着は30dとする。
※配筋は基本D13@200(ﾀﾃﾖｺ共)とする。

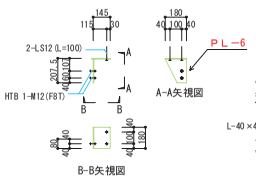


補強基礎 C-C 断面図

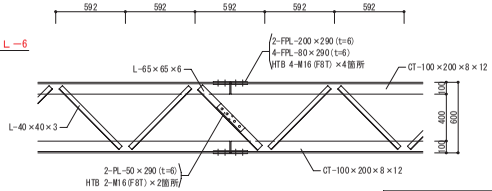
※各鉄筋定着は30dとする。
※配筋は基本D13@200(ﾀﾃﾖｺ共)とする。



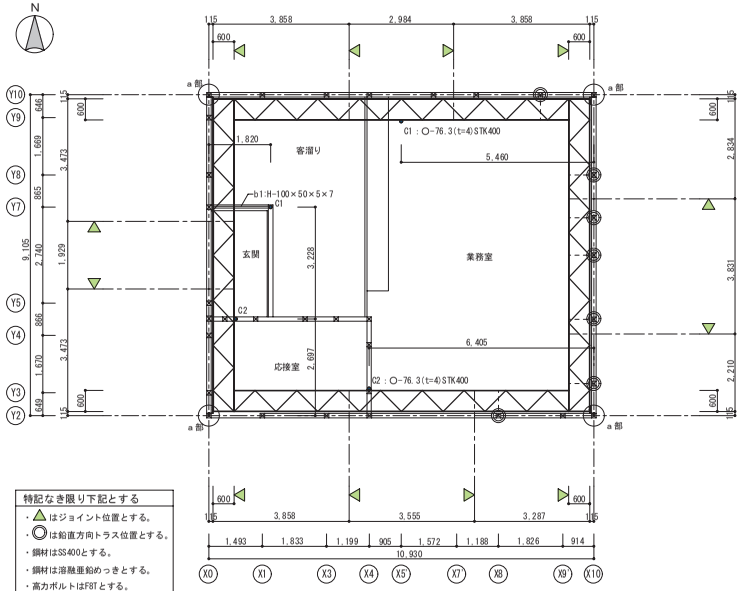
本館　補強基礎伏図及び詳細図



a部 詳細 1/30



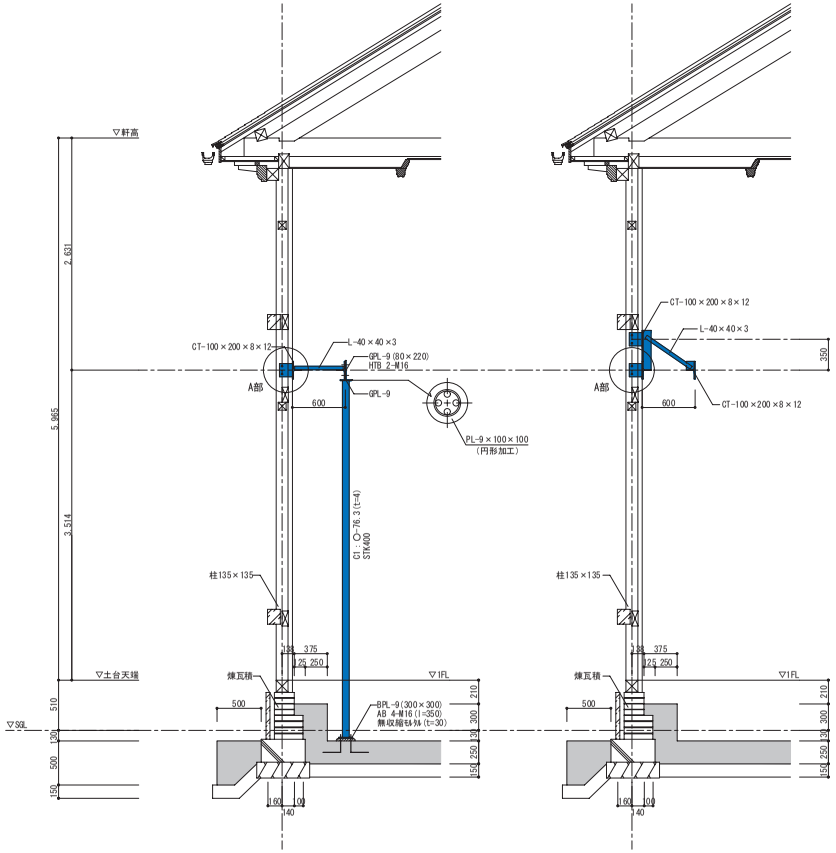
CTトラスジョイント詳細図

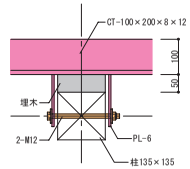


特記なき限り下記とする

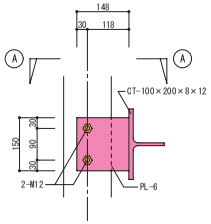
- △はジョイント位置とする。
- ◎は鉛直方向トラス位置とする。
- 鋼材はSS400とする。
- 鋼材は溶融亜鉛めっきとする。
- 高力ボルトはF8Tとする。
- 溶接は隅肉溶接とする。

本館 補強伏図





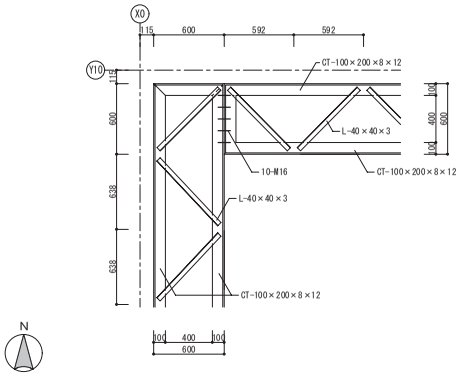
A-A矢視詳細図



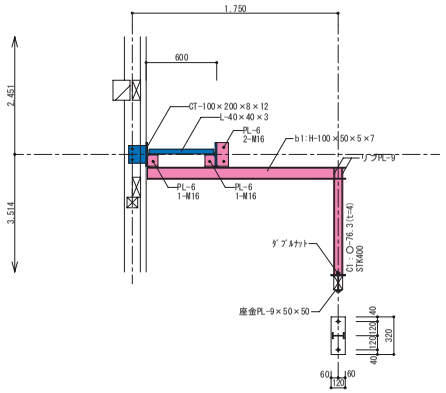
柱取付き詳細図

補強断面詳細図

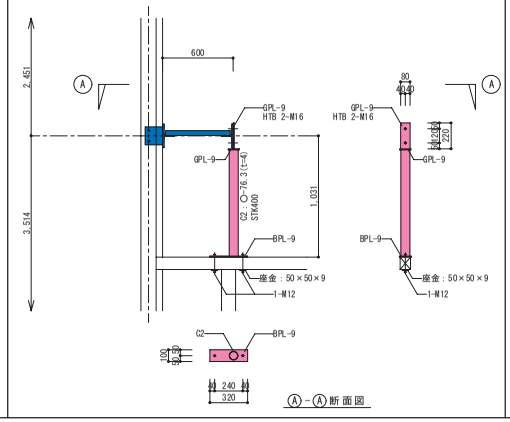
CTトラス隅角詳細図



Y7-Y8間　CTトラス柱取付き詳細図



C2取付き詳細図



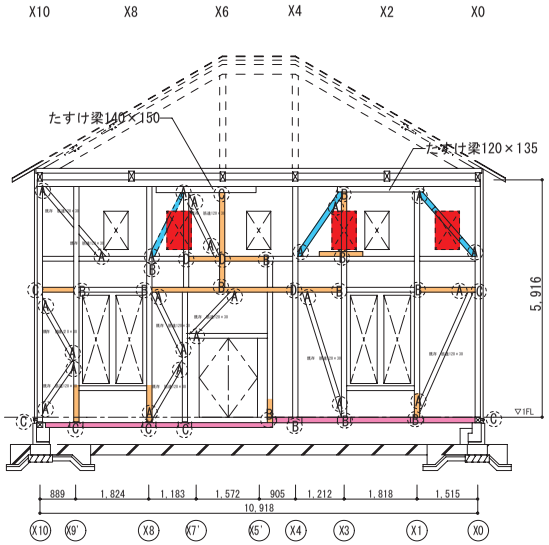
特記なき限り下記とする

- 鋼材はSS400とする。
- 鋼材は溶融亜鉛めっきとする。
- 高力ボルトはF8Tとする。
- 溶接は隅肉溶接とする。

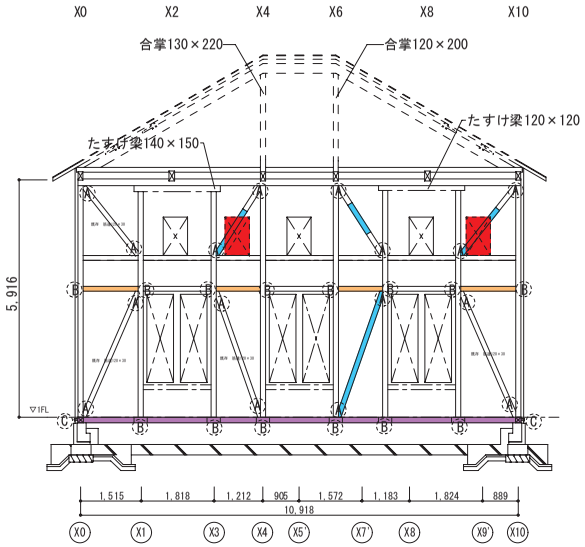
溶融亜鉛めっき仕様

	種類	記号	適用範囲	付着量(g/m²)	膜厚(μm)
	2種35	HDZ35	1≦t≦2	350以上	50以上
	2種40	HDZ40	1<t≦3	400以上	60以上
○	2種45	HDZ45	3<t≦5	450以上	65以上
○	2種55	HDZ55	t>5	550以上	80以上

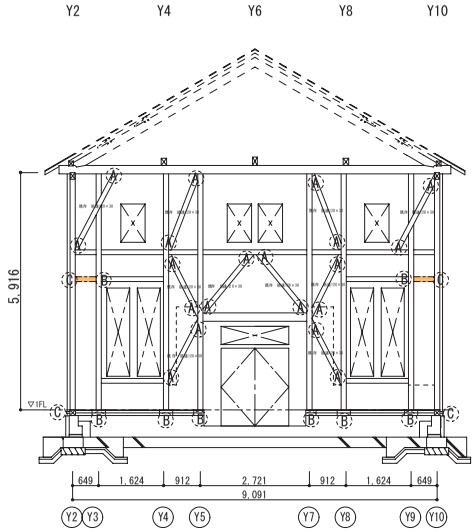
本館　柱座屈止め補強詳細図



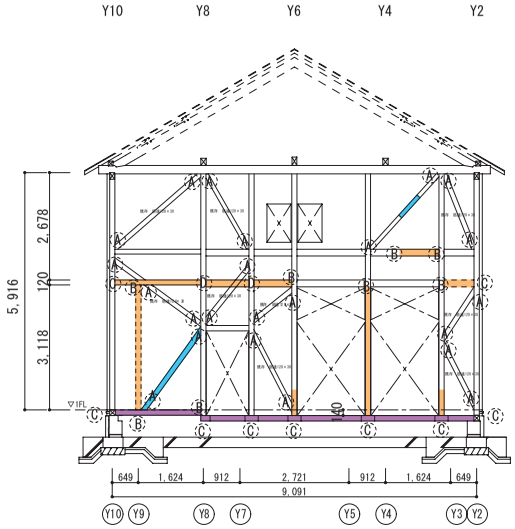
Ｙ２通り



Ｙ10通り



Ｘ０通り

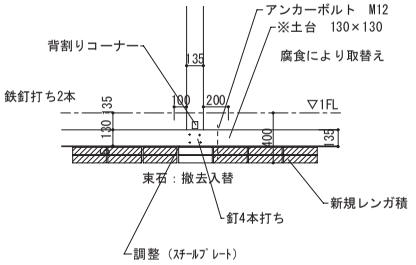


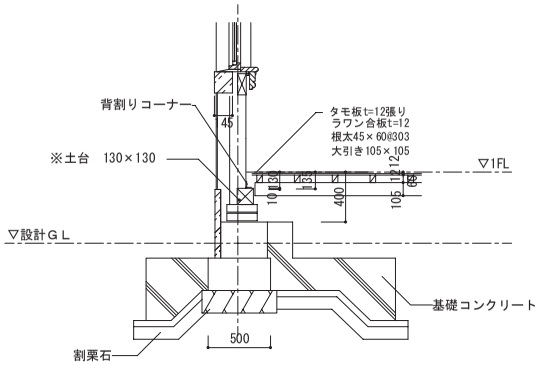
Ｘ10通り

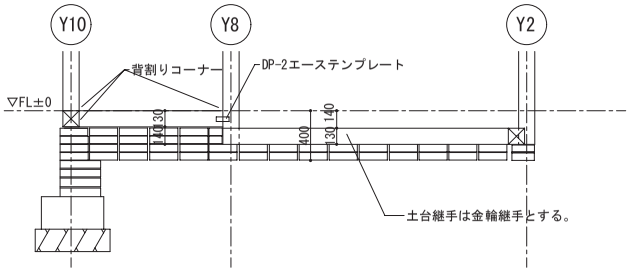
取付金物

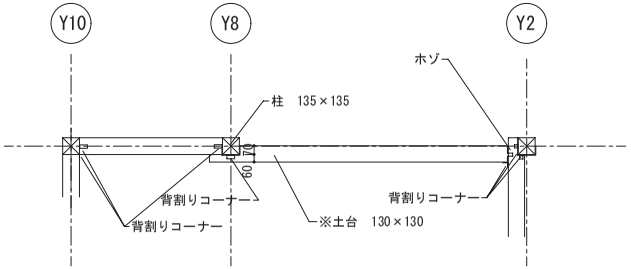
- Ⓐ メタリフ筋かいプレート（カネシン）又は ハイパーガセット・Ⅱ（カネシン）
- Ⓑ DP-2エーステンプレート・S（カネシン）
- Ⓒ 背割りコーナー（カネシン）
- Ⓓ ビス止め短冊金物Ｌ（カネシン）
- 杉材　135×135取付を示す。
- 筋かい45×105(ひのき)を示す。
- 土台取替え　130×130(ひのき)を示す。
- 開口部を壁に変更する部分を示す。

本館　筋かい補強軸組図(1)

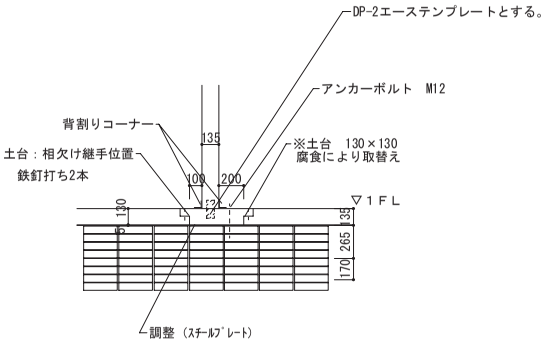


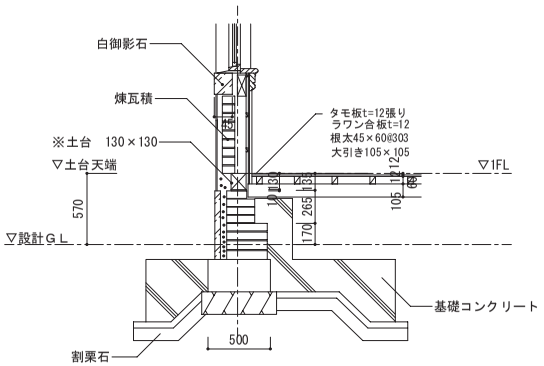






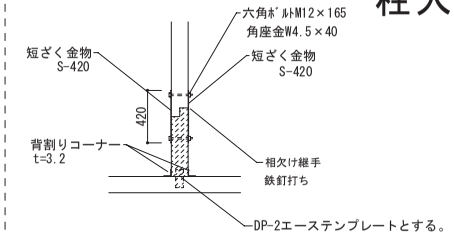
土台入替　Y2～Y10　X5～X10



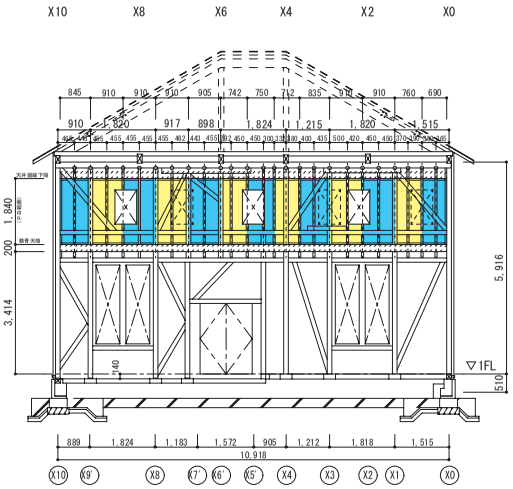


土台入替

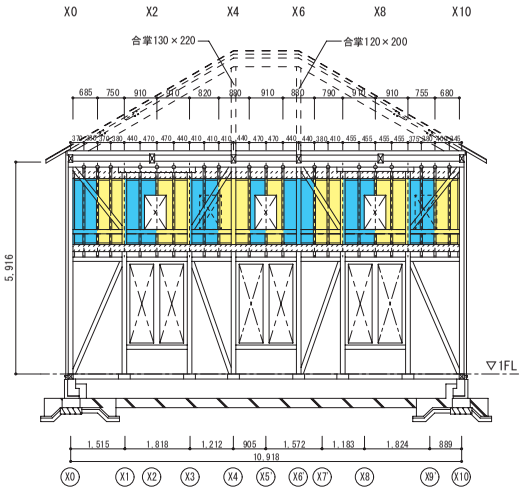
柱入替



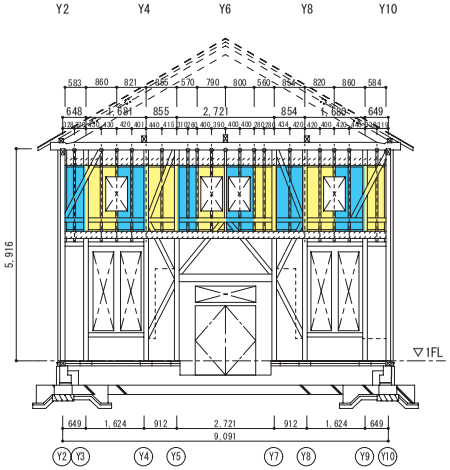
本館　筋かい補強軸組図(2)



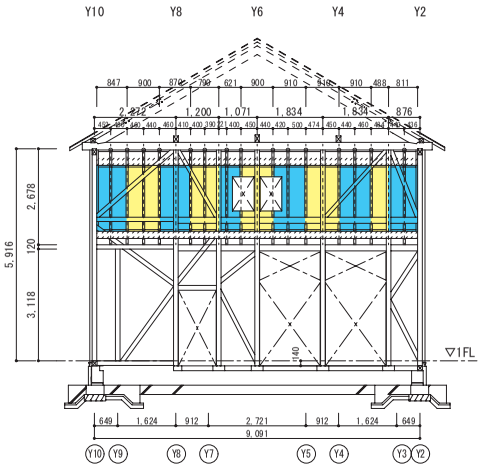
Ｙ２通り



Ｙ10通り



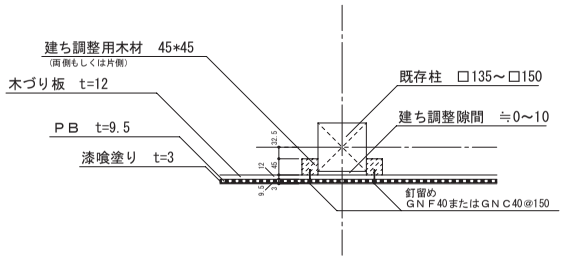
Ｘ０通り

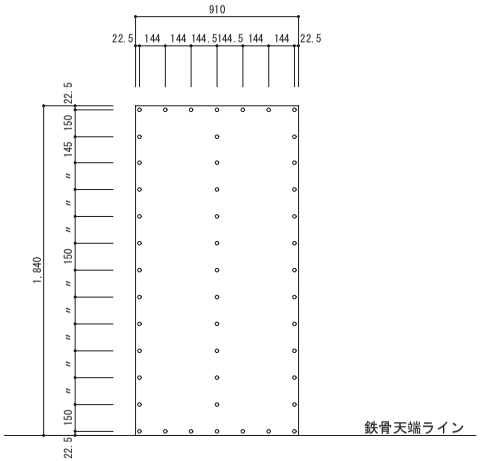


Ｘ10通り

本館　上部ボード割付図

漆喰下地詳細図　1/10





ボード釘止め割付図　1/20

※ボード：ＰＢｔ9.5mm
※釘：ＧＮＦ４０またはＧＮＣ４０@１５０以下

登録有形文化財（建造物）
福成歯科医院（旧古賀銀行神埼支店）復原工事報告書

平成30年３月30日

発　行　　神埼市教育委員会
〒842-8502　佐賀県神埼市千代田町直鳥166-1
TEL　0952-44-2731

印　刷　　大同印刷株式会社
〒849-0902　佐賀県佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20
TEL　0952-71-8520